



# B-Class

取扱説明書



Mercedes-Benz

## マーク

この説明書には以下のマークがあります：

### 警告

警告ステッカーには、お客様や他の乗員などの健康または生命を危険にさらすおそれのある事項について記載されています。

### 環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供していません。

**!** 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

**i** これらのマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。


▶ このマークは、お客様に従っていただきたい説明を示しています。

▶ 連続しているマークは、いくつかの手順がある操作を示しています。

(▷ このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。ジ)

▷▷ このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。

**ディスプレイ** この表記は、マルチファンクションディスプレイ/COMAND ディスプレイ/オーディオディスプレイのメッセージを示しています。

 このマークは、デジタル版取扱説明書に情報があることを示しています。

車両のソフトウェア部品は © 2005 The FreeType Project <http://www.freetype.org> の著作権により保護されています。

## メルセデス・ベンツをお買い上げいただきありがとうございます

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様ご自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

便利な機能の追加情報は、COMAND システムの中の車両のデジタル版取扱説明書に記載されています。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書には 100 km/h を上回る車両速度での性能データおよび車両状況も記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度または制限速度に従ってください。

メルセデス・ベンツは常に車両を最高水準にするための改良を行なっています。

メルセデス・ベンツでは、デザインや装備の分野の変更を行なう権利を有しています。そのため、本取扱説明書の記述やイラストが異なることがあります。

以下のものは、車両の一部です。常に車内に保管してください。

- デジタル版取扱説明書
- 取扱説明書
- 整備手帳
- 各装備の補足版

次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべての書類をお渡しください。スマートフォンアプリの B-Class ガイドをご利用することもできます。



Apple® iOS



Android™

メルセデス・ベンツ・ガイドアプリは、お客様の国でまだご利用いただけない場合があることに留意してください。

Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ

さくいん .....	4	各部の名称 .....	29
デジタル版取扱説明書 .....	21	安全性 .....	39
はじめに .....	23	開閉 .....	83
		シート、ステアリングとミラー ..	101
		ライトおよびフロントワイパー ..	107
		エアコンディショナー .....	121
		走行と駐車 .....	127
		マルチファンクションディスプレイと表示 .....	171
		Audio20/COMANDシステム .....	201
		収納と機能 .....	225
		メンテナンスおよび手入れ .....	239
		万一のとき .....	249
		ホイールとタイヤ .....	273
		サービスデータ .....	293

## あ

## アクセスデータの設定

オンラインおよびインターネット	221
-----------------	-----

## アクセスデータのリスト

新しいプロバイダー	221
-----------	-----

## アクティブパーキングアシスト

機能/注意事項	162
重要な安全上の注意	162
ディスプレイメッセージ	175

## アシスト画面(マルチファンクションディスプレイ)

	174
--	-----

## アシストメニュー(マルチファンクションディスプレイ)

	174
--	-----

## アダプティブハイビームアシスト

機能/注意	109
ディスプレイメッセージ	175

## アダプティブブレーキ

	80
--	----

## アダプティブブレーキアシスト

機能/注意事項	76
---------	----

## アダプティブブレーキライト

	77
--	----

## アテンションアシスト

機能/注意	164
設定/解除	174
ディスプレイメッセージ	175

## アドレス帳

デジタル版取扱説明書をご覧ください	202
-------------------	-----

## 安全

子供を乗せるとき	59
----------	----

## い

## イグニッションロック

参照 キーの位置

## イモビライザー

	80
--	----

## インターネット

アクセスデータの選択/設定	220
インターネット接続の設定	220

## う

## ウィンタータイヤ

ウィンタータイヤ	277
速度制限(マルチファンクションディスプレイ)	174

## ウインドウ

清掃	248
----	-----

デフロスター	124
--------	-----

参照 サイドウインドウ

## ウインドウウォッシャー

注意	299
補給	246

## ウインドウバッグ

機能	49
ディスプレイメッセージ	182

## ウォッシャー液

ディスプレイメッセージ	175
-------------	-----

## ウットトリム(清掃の説明)

	248
--	-----

## 運転席

概要	30
----	----

## 運転席ドア

参照 ドア

## 運転のヒント

一般	142
----	-----

オートマチックトランスミッション

	136
--	-----

下り坂の傾斜

	143
--	-----

最初の 1500 km

	128
--	-----

新品のブレーキパッド/ライニング

	143
--	-----

スノーチェーン

	277
--	-----

ディストロニック・プラス

	157
--	-----

冬季の走行

	144
--	-----

凍結した路面

	144
--	-----

凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限

	143
--	-----

慣らし運転について注意事項

	128
--	-----

濡れた路面の走行

	143
--	-----

燃料

	143
--	-----

ハイドロブレーキング現象

	143
--	-----

ブレーキ

	143
--	-----

## え

## エアコンディショナー

ウインドウの曇りを取る	124
-------------	-----

エアコンディショナーシステム

	123
--	-----

オン/オフ

	124
--	-----

温度の設定

	124
--	-----

クライメートコントロール(左右独立調整)

	124
--	-----

コンビニエンスオープニング/クロージング(内気循環モード)

	124
--	-----

システムの概要 .....	122	停止 .....	141
全体的な注意事項 .....	122	ディスプレイメッセージ .....	186
送風配分の選択 .....	124	ECO スタートストップ機能 ..	133
送風量の調整 .....	124	<b>エンジンオイル</b>	
ゾーン機能の設定/解除 .....	124	エンジンオイル量の点検 .....	241
内気循環モードの作動/解除 ..	124	オイルグレードについての注	
表示灯 .....	124	意 .....	297
フロントウィンドウの霜を取		充填容量 .....	298
る .....	124	定期交換 .....	243
余熱ヒーターのオン/オフ .....	124	ディスプレイメッセージ .....	175
リアデフォッガーの作動/解		添加剤 .....	298
除 .....	124	粘度 .....	298
リアデフォッガーの不具合 .....	124	補給 .....	242
AC モード .....	124	油量および消費についての注	
AC モードの不具合 .....	124	意 .....	241
AUTO モード .....	124	レベルゲージを使用してオイル	
<b>エアコンディショナーシステム</b>		量を点検する .....	242
参照 エアコンディショナー		<b>エンジン自動始動(ECO スタート</b>	
<b>エアバッグ</b>		<b>ストップ機能) .....</b>	<b>134</b>
ウインドウバッグ .....	49	<b>エンジン自動停止(ECO スタート</b>	
概要 .....	46	<b>ストップ機能) .....</b>	<b>134</b>
格納場所 .....	48	<b>エンジンの始動</b>	
サイドバッグ .....	49	キー操作 .....	132
作動 .....	56	<b>エンジンの電子制御部品</b>	
重要な安全上の注意点 .....	46	故障(誤作動) .....	134
助手席エアバッグ表示灯 .....	41		
助手席フロントエアバッグ自動			
解除 .....	50		
ディスプレイメッセージ .....	184		
ニーバッグ .....	48		
フロントエアバッグ(運転席、			
助手席) .....	48		
<b>エマージェンシーキー</b>			
運転席ドアの解錠 .....	92		
機能/注意 .....	87		
車両の施錠 .....	93		
挿入 .....	88		
取外し .....	88		
<b>エンジン</b>			
エンジン番号 .....	295		
オーバーヒート .....	245		
キーレスゴースイッチでの始			
動 .....	132		
警告灯(エンジン診断) .....	189		
けん引始動(車両) .....	269		
作動不良 .....	134		
始動時のトラブル .....	134		
ジャンプスタート .....	262		
		<b>お</b>	
		<b>応急用スペアタイヤ</b>	
		サービスデータ .....	292
		重要な安全上の注意 .....	290
		全体的な注意事項 .....	290
		取り外し .....	290
		<b>オーディオメニュー(マルチファン</b>	
		<b>クションディスプレイ) .....</b>	<b>174</b>
		<b>オートマチックトランスミッション</b>	
		アクセルペダルのポジション ..	136
		運転のヒント .....	136
		エマージェンシーモード .....	136
		エンジンの始動 .....	132
		オートマチック走行モード .....	136
		概要 .....	134
		ギアシフト操作 .....	136
		キックダウン .....	136
		シフトポジション .....	136
		シフトポジション表示 .....	135
		ステアリングパドルシフト .....	136

走行モード選択スイッチ	136
走行モード表示	135
ディスプレイメッセージ	175
ドライブポジションの選択	135
トラブル(不具合)	136
ニュートラルの選択	135
上り坂勾配で車両を停車したままにする	136
パーキングポジションPの選択	135
パーキングポジションの自動選択	135
発進	133
マニュアルギアシフト	137
リバースギアの選択	135
DIRECT SELECT レバー	135
オートマチックトランスミッションのエマージェンシーモード	136
オートマチックヘッドライトモード	109
オートライト	
ディスプレイメッセージ	175
オーバーヘッドコントロールユニット	38
お気に入り	
移動	209
概要	208
削除	209
追加	208
名前を変更する	209
表示と呼び出し	208
オドメーター	174
参照 トリップメーター	
音楽ファイル	
デジタル版取扱説明書をご覧ください	202
音声認識機能	
参照 別冊取扱説明書	
温度	
設定(エアコン)	124
オンラインおよびインターネット機能	
インターネット接続の設定	220
インターネットアクセス用に携帯電話を有効にする	220

## オンラインおよびインターネットの機能

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定	221
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの選択	221

## か

外気温度計	172
解錠	
車内から(セントラルロックングスイッチ)	92
非常時の解錠	92
懐中電灯	250
格納式テーブル	227
ガソリン	296
カップホルダー	
重要な安全上の注意	236
センターコンソール	236
リア	236
可変スピードリミッター	
可変機能	147
可変機能の解除	149
機能/注意	147
現在の速度の記憶および最後に記憶させた速度の呼び出し	148
現在の速度を記憶する	148
重要な安全上の注意	147
選択	148
参照 スピードリミッター	
LIM 表示灯	147

## 環境保護

全体的な注意事項	23
冠水路の走行(オンロード)	143
寒冷時の走行	
スノーチェーン	277
滑りやすい路面	144
全体的な注意事項	277

## き

ギアまたはセクターレバー(清掃の説明)	248
キー	
位置(エンジンスイッチ)	129
エマージェンシーキー	87

エンジンの始動 .....	132
キーレスゴースタート機能 .....	86
重要な安全上の注意 .....	84
設定変更 .....	87
セントラルロックによる施錠/ 解錠 .....	84
ディスプレイメッセージ .....	175
電池交換 .....	89
電池点検 .....	88
不具合(異常) .....	90
紛失 .....	90
<b>キーの位置</b>	
キーレスゴースイッチ .....	129
<b>キーの位置(イグニッションロッ ク)</b> .....	<b>129</b>
<b>キーレスゴー</b>	
解除 .....	85
解錠 .....	85
施錠 .....	85
ディスプレイメッセージ .....	175
<b>キーレスゴースイッチ</b>	
エンジンの始動 .....	132
取り外し .....	131
<b>キックダウン</b>	
運転のヒント .....	136
マニュアル走行モード .....	138
<b>救急セット</b> .....	<b>250</b>
<b>救助カード</b> .....	<b>26</b>
<b>給油</b>	
給油のしかた .....	139
重要な安全上の注意 .....	138
燃料計 .....	32
参照 燃料	
<b>緊急</b>	
事故後の自動措置 .....	58
<b>緊急時点灯機能</b> .....	<b>111</b>

<

<b>クリアスイッチ</b> .....	<b>208</b>
<b>クルーズコントロール</b>	
解除 .....	146
機能/注意 .....	144
クルーズコントロールレバー ..	145
現在の速度を記憶および維持す る .....	145
作動条件 .....	145
重要な安全上の注意 .....	144

選択 .....	145
走行装備 .....	144
速度の設定 .....	146
ディスプレイメッセージ .....	175
LIM 表示灯 .....	145
<b>グローブボックス</b> .....	<b>227</b>

け

**警告灯/表示灯**

一般的な注意 .....	189
エンジン診断 .....	189
各部の名称 .....	33
シートベルト .....	190
車間距離警告 .....	200
乗員保護装置 .....	198
燃料残量 .....	189
燃料タンク .....	189
ブレーキ .....	191
冷却水 .....	199
ABS .....	192
ESP® .....	195
ESP®オフ .....	196
LIM(可変スピードリミッ ター) .....	147
LIM(クルーズコントロール) ..	145
LIM(ディストロニック・プラ ス) .....	151

**警告灯と表示灯**

助手席エアバッグ .....	41
----------------	----

**携帯電話**

インターネットアクセス用に有 効にする .....	220
周波数 .....	294
接続する (Bluetooth® イン ターフェース) .....	214
送信出力(最大) .....	294
取り付け .....	294
認証する .....	216
認証を解除する .....	218
別の携帯電話を接続する .....	218

**携帯電話のネットワークプロバイ  
ダーのアクセスデータ**

項目の作成 .....	221
選択する .....	221

**携帯電話のネットワークプロバイ  
ダーリスト**

選択されたプロバイダーで ...	221
------------------	-----

## 警報

オフにする(ATA) .....	81
機能のオン/オフを切り替える (ATA) .....	81
ATA(盗難防止警報システム) ...	81

## けん引

けん引フックの取り付け .....	267
けん引フックの取り外し .....	267
車両の運搬 .....	268
重要な安全上の注意 .....	265
フロントアクスルをつり上げた 状態 .....	267
フロントおよびリアが接地した 状態で .....	268
4MATIC 車両に関する注意事 項 .....	268

## けん引始動

エンジンエマージェンシース タート .....	269
けん引フックの取り付け .....	267
けん引フックの取り外し .....	267
重要な安全上の注意 .....	265

## けん引フック ..... 251

## 言語の設定

デジタル版取扱説明書をご覧く ださい .....	202
-----------------------------	-----

## こ

## 高圧式ブレーガンの使用 ..... 248

## コーナリングライト

ディスプレイメッセージ .....	175
-------------------	-----

## 故障

参照 パンクしたタイヤ

## 故障メッセージ

参照 ディスプレイメッセージ

## 故障メッセージを表示させる

参照 ディスプレイメッセージ

## 子供

乗員保護装置 .....	60
--------------	----

## 小物入れ

アームレスト(下) .....	227
カップホルダー .....	236
グローブボックス .....	227
後席 .....	227
重要な安全上の注意 .....	227
センターコンソール .....	227
ディスプレイメッセージ .....	175

メガネホルダー .....	227
ラゲッジネット .....	227
コントローラー .....	207

コンビエンスオープニング/ク ロージング(内気循環モード) .....	124
コンビエンスオープニング機 能 .....	96
コンビエンスクロージング機 能 .....	96
コンビネーションスイッチ .....	109

## さ

## サービスデータ

応急用スペアタイヤ .....	292
車両データ .....	300
タイヤ/ホイール .....	285
容量 .....	295

## サービスプロダクト

燃料 .....	295
ブレーキ液 .....	298

## サイドウィンドウ

開閉(すべて) .....	96
開閉(フロント) .....	96
コンビエンスオープニング機 能 .....	96
コンビエンスクロージング機 能 .....	96
重要な安全上の注意 .....	95
リセット .....	96
リバース機能 .....	95

## サイドトリムパネルの開閉 ..... 114

## サイドバッグ ..... 49

## サイドランプ

オン/オフの切り替え .....	109
------------------	-----

## サマータイヤ ..... 277

## サンバイザー ..... 236

## し

## シート

運転席のシートポジション ....	102
シートヒーターのトラブル ....	104
シートヒーターを使用する ....	104
重要な安全上の注意 .....	103
調整(手動) .....	104
調整(電動式) .....	104
電動ランバーサポートを調整す る .....	104

バックレスト(後席)を前方/後方に倒す(EASY-VARIO-PLUS システム非装備車) .....	229
バックレスト(後席)を前方/後方に倒す(EASY-VARIO-PLUS システム装備車) .....	229
表面の手入れ .....	248
ヘッドレストの調整 .....	104
メモリー機能(設定の記憶) .....	105
<b>シートベルト</b>	
運転席および助手席シートベルト .....	45
解除 .....	45
概要 .....	42
警告灯 .....	190
警告灯(機能) .....	46
後席中央 .....	45
シートベルト調整の作動/停止(マルチファンクションディスプレイ) .....	174
重要な安全上の注意点 .....	42
高さ調整 .....	44
正しい着用方法 .....	43
着用 .....	44
手入れ .....	248
<b>シートベルトテンショナー</b>	
作動 .....	56
<b>事故</b>	
事故後の自動措置 .....	58
<b>時刻の設定</b>	
デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	202
<b>事故のとき</b> .....	<b>58</b>
<b>自宅住所</b>	
デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	202
<b>室内センサー</b>	
解除 .....	82
機能 .....	81
待機状態 .....	81
<b>指定サービス工場</b>	
参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場 .....	
<b>始動(エンジン)</b> .....	<b>131</b>
<b>シフトポジション表示(DIRECT SELECT レバー)</b> .....	<b>135</b>
<b>車外ライト</b>	
参照 ライト .....	

<b>車間距離警告機能</b>	
機能/注意 .....	74
警告灯 .....	200
<b>車間距離警告信号(警告灯)</b> .....	<b>200</b>
<b>車間ディスプレイ(マルチファンクションディスプレイ)</b> .....	<b>174</b>
<b>遮光フィルム</b> .....	<b>237</b>
<b>車載工具</b> .....	<b>251</b>
<b>車体寸法</b> .....	<b>300</b>
<b>車台ナンバープレート</b>	
参照 ビークルプレート .....	
<b>車台番号</b>	
参照 VIN .....	
<b>ジャッキ</b>	
収納場所 .....	251
使用方法 .....	282
<b>車両</b>	
運搬 .....	268
解錠(キー) .....	84
ジャッキアップ .....	282
ジャッキダウン .....	285
車両が動き出さないよう固定する .....	282
車両データ .....	300
施錠(キー) .....	84
装備 .....	24
正しい使用 .....	26
駐車 .....	142
ディスプレイメッセージ .....	188
データ取得 .....	26
電子制御部品 .....	294
発進 .....	133
非常時の解錠 .....	92
非常時の施錠 .....	93
<b>車両データ</b>	
トランクの積載量(最大) .....	300
ルーフの積載量(最大) .....	300
<b>車両を運搬する</b> .....	<b>268</b>
<b>ジャンプスタート(エンジン)</b> .....	<b>262</b>
<b>住所の入力</b>	
デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	202
<b>収納ボックス</b>	
地図ポケット .....	227
<b>周波数</b>	
携帯電話 .....	294
無線機 .....	294

<b>乗員安全性</b>	
子供を乗せるとき .....	59
シートベルト .....	42
事故後の自動措置 .....	58
重要な安全上の注意点 .....	40
PRE-SAFE®(予見的乗員保護システム) .....	57
<b>乗員の安全性</b>	
乗員保護補助装置警告灯 .....	41
乗員保護補助装置をご使用する前に .....	40
助手席エアバッグ表示灯 .....	41
助手席フロントエアバッグ自動解除 .....	50
ペットを乗せるとき .....	72
<b>乗員保護装置</b>	
概要 .....	40
警告灯 .....	198
警告灯(機能) .....	41
ディスプレイメッセージ .....	181
<b>照度コントローラ(メーターパネル照明)</b> .....	32
<b>助手席エアバッグ</b>	
ディスプレイメッセージ .....	184
トラブル(不具合) .....	184
表示灯 .....	41
<b>助手席エアバッグ解除</b>	
ディスプレイメッセージ .....	184
<b>助手席エアバッグ解除システム</b>	
作動 .....	50
システム自己診断 .....	53
トラブル .....	55
<b>助手席エアバッグ自動解除</b>	
ディスプレイメッセージ .....	184
<b>助手席エアバッグ自動解除システム</b>	
作動 .....	50
システム自己診断 .....	53
トラブル .....	55
<b>助手席シート</b>	
バックレストを倒す/起こす ..	227
<b>診断機の接続部</b> .....	25
<b>す</b>	
<b>スイッチおよびコントローラー</b> ..	207
<b>スタートストップ機能</b>	
参照 ECO スタートストップ機能	
<b>ステアコントロール</b> .....	80
参照 ステアコントロール	
<b>ステアリング</b>	
安全のために .....	105
スイッチ(マルチファンクションディスプレイ) .....	173
スイッチの概要 .....	34
調整(手動) .....	105
パドルシフト .....	136
<b>ステアリング(清掃の説明)</b> .....	248
<b>ステアリング(ディスプレイメッセージ)</b> .....	189
<b>ステアリングコラムのスイッチ</b> ..	173
<b>スノーチェーン</b> .....	277
<b>スピードメーター</b>	
セグメント表示 .....	172
表示単位の設定 .....	174
メーターパネル内 .....	32
<b>スピードリミッター</b>	
スノータイヤ .....	149
ディスプレイメッセージ .....	175
<b>スライディングルーフ</b>	
参照 パノラミックスライディングルーフ	
<b>せ</b>	
<b>清掃</b>	
ドアミラー方向指示灯 .....	248
<b>セーフティネット</b>	
重要な安全上の注意 .....	233
装着 .....	233
<b>施錠</b>	
参照 セントラルロックシステム	
<b>施錠(ドア)</b>	
車内から(セントラルロックングスイッチ) .....	92
非常時の施錠 .....	93
<b>施錠確認シグナル音(マルチファンクションディスプレイ)</b> .....	174
<b>設定</b>	
初期化(マルチファンクションディスプレイ) .....	174
マルチファンクションディスプレイ .....	174
<b>設定一覧(マルチファンクションディスプレイ)</b> .....	174
<b>設定変更(キー)</b> .....	87

センサー(日常の手入れ) ..... 248  
 洗車(手入れ) ..... 247  
**センターコンソール**  
   下部 ..... 36  
   上部 ..... 35  
**セントラルロックシステム**  
   車速感応ドアロック(マルチ  
   ファンクションディスプレ  
   イ) ..... 174  
   施錠/解錠(キー使用) ..... 84  
**セントラルロック**  
   参照 セントラルロックシステム

**そ**

**走行安全システム**  
   EBD(エレクトロニック・ブ  
   レーキパワー・ディストリ  
   ビューション) ..... 80  
**走行安全装備**  
   アダプティブブレーキ ..... 80  
   アダプティブブレーキアシ  
   スト ..... 76  
   アダプティブブレーキライ  
   ト ..... 77  
   概要 ..... 72  
   コリジョンプリベンションアシ  
   ストプラス ..... 74  
   車間距離警告機能 ..... 74  
   重要な安全上の注意点 ..... 72  
   ステアコントロール ..... 80  
   ABS(アンチロック・ブレーキ  
   ング・システム) ..... 73  
   BAS(ブレーキアシスト) ..... 73  
   ESP®(エレクトロニック・ス  
   タビリティ・プログラム) ..... 77  
   ETS/4ETS(エレクトロニッ  
   クトラクションシステム) ..... 77  
**走行距離記録** ..... 174  
   参照 オドメーター  
**走行時の注意**  
   冠水路の走行(オンロード) ..... 143  
   濡れた路面 ..... 143  
**走行装備**  
   アクティブパーキングアシ  
   スト ..... 162  
   アテンションアシスト ..... 164  
   可変スピードリミッター ..... 147  
   クルーズコントロール ..... 144

ディストロニック・プラス .... 149  
 パークトロニック ..... 160  
 ブラインドスポットアシスト .. 167  
 ホールド機能 ..... 158  
 リアビューカメラ ..... 163  
 レーンキーピングアシスト .... 168  
**走行モード**  
   オートマチック ..... 136  
   表示(ダレクトセレクトレ  
   バー) ..... 135  
   マニュアル ..... 137  
**走行モード選択スイッチ** ..... 136  
**操作**  
   デジタル版取扱説明書 ..... 21  
**操作安全性**  
   重要な安全上の注意 ..... 24  
**操作システム**  
   参照 マルチファンクション  
   ディスプレイ  
**送風口**  
   送風の設定 ..... 124  
**送風配分の設定** ..... 124  
**送風量の設定** ..... 124  
**ゾーン機能**  
   オン/オフ ..... 124  
**速度制限の設定**  
   参照 可変スピードリミッター  
**速度の制御**  
   参照 クルーズコントロール

**た**

**タイヤ**  
   ウィンタータイヤ ..... 277  
   応急用スペアタイヤ ..... 290  
   回転方向 ..... 281  
   交換 ..... 280  
   サマータイヤ ..... 277  
   重要な安全上の注意 ..... 274  
   新品の車輪の取り付け ..... 284  
   全体的な注意事項 ..... 285  
   走行に関する情報 ..... 275  
   タイヤサイズ(データ) ..... 285  
   タイヤの交換 ..... 280  
   タイヤの取り外し ..... 284  
   タイヤのトレッド ..... 276  
   耐用年数 ..... 276  
   ディスプレイメッセージ ..... 187

点検 .....	275
ホイールとタイヤの組み合わせ .....	287
保管 .....	281
参照 パンクしたタイヤ MOExtended タイヤ .....	276
<b>タイヤ空気圧</b>	
指定 .....	277
達している(タイヤフィット) ..	256
達しない(タイヤフィット) .....	255
ディスプレイメッセージ .....	187
<b>タイヤ空気圧警告システム</b>	
再起動 .....	279
重要な安全上の注意 .....	279
全体的な注意事項 .....	279
<b>タイヤの取り付け</b>	
ジャッキアップ .....	282
ジャッキダウン .....	285
車両が動き出さないよう固定す る .....	282
車両の準備 .....	281
車輪の装着 .....	284
車輪の取り外し .....	284
<b>タイヤフィット</b> .....	<b>253</b>
<b>タコメーター</b> .....	<b>172</b>
<b>ダッシュボード</b>	
参照 メーターパネル	

## ち

<b>チャイルドセーフティシート</b>	
後ろ向き乗員保護装置 .....	64
純正 .....	69
助手席に装着 .....	63
適切な位置 .....	65
テザーアンカー .....	62
前向き乗員保護補助装置 .....	64
ISOFIX .....	61
<b>チャイルドブルーロック</b>	
重要な安全上の注意 .....	71
リアサイドウィンドウ .....	72
リアドア .....	71
<b>駐車</b>	
重要な安全上の注意 .....	141
助手席側ドアミラーの位置 ...	105
リアビューカメラ .....	163
参照 アクティブパーキングアシスト	
参照 パークトロンニック	

参照 駐車	
<b>著作権</b> .....	<b>27</b>

## て

<b>停止表示板</b> .....	<b>250</b>
<b>ディストロニック・プラス</b>	
運転のヒント .....	157
解除 .....	154
機能/注意 .....	149
クルーズコントロールレバー ..	151
作動条件 .....	151
指定最低距離の設定 .....	154
重要な安全上の注意 .....	150
選択する .....	151
ディスプレイメッセージ .....	175
マルチファンクションディスプ レイの表示 .....	155
<b>ディスプレイ(日常の手入れ)</b> .....	<b>248</b>
<b>ディスプレイメッセージ</b>	
安全装備 .....	176
エンジン .....	186
キー .....	175
キーレスゴー .....	175
車両 .....	188
全体的な注意事項 .....	175
タイヤ .....	187
非表示(マルチファンクション ディスプレイ) .....	175
メンテナンスインジケーター ..	247
呼び出し(マルチファンクショ ンディスプレイ) .....	175
ライト .....	175
<b>デイトタイムドライビングライト</b>	
機能/注意 .....	109
ディスプレイメッセージ .....	175
点灯/消灯(マルチファンクショ ンディスプレイ) .....	174
<b>手入れ</b>	
ウインドウ .....	248
ウッドトリム .....	248
カーペット .....	248
ギア/セレクターレバー .....	248
高圧式スプレーガン .....	248
シート表皮 .....	248
シートベルト .....	248
自動洗車機 .....	247
車外ライト .....	248

車内 .....	248	全体的な注意 .....	236
センサー .....	248	ラゲッジルーム .....	236
洗車 .....	248	リア .....	236
注意 .....	247	<b>電子制御部品</b>	
ディスプレイ .....	248	注意 .....	294
塗装面 .....	248	<b>電池(キー)</b>	
トリム部品 .....	248	交換 .....	89
プラスチックトリム .....	248	重要な安全上の注意 .....	88
ホイール .....	248	点検 .....	88
マットペイント .....	248	<b>電動ブラインド</b>	
マフラー .....	248	開閉 .....	99
リアビューカメラ .....	248	パノラミックスライディング	
ルーフライニング .....	248	ルーフ .....	98
ワイパーブレード .....	248	<b>電話</b>	
<b>データ</b>		携帯電話から接続を確立する ..	217
参照 サービスデータ		携帯電話間の切り替え .....	218
<b>テールゲート</b>		携帯電話の接続(一般的な情報)	
開閉(車外から) .....	94	報) .....	214
重要な安全上の注意 .....	93	携帯電話の認証(接続) .....	216
ディスプレイメッセージ .....	188	携帯電話の認証の解除(切断) ..	218
非常時の解錠 .....	94	携帯電話を自動的に再接続する .....	218
開いたときの寸法 .....	300	着信を受ける .....	219
<b>テールランプ</b>		通話の拒否 .....	219
ディスプレイメッセージ .....	175	通話の拒否/終了 .....	174
参照 ライト		通話を終える .....	219
<b>テザーアンカー .....</b>	<b>62</b>	デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	202
<b>デジタルスピードメーター .....</b>	<b>174</b>	電話帳からの番号 .....	174
<b>デジタル版取扱説明書</b>		電話の使用 .....	219
概要 .....	21	電話番号を入力する .....	219
ヘルプ .....	21	電話を受ける(マルチファンク	
<b>テレビ</b>		ションステアリング) .....	174
操作(マルチファンクション		発信する .....	219
ディスプレイ) .....	174	リダイヤル .....	174
<b>添加剤(エンジンオイル) .....</b>	<b>298</b>	<b>電話帳</b>	
<b>電球の交換</b>		デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	202
カバー(フロントホイールアー		ださい .....	202
チ)の取り外し/取り付け .....	112	<b>電話番号</b>	
重要な安全上の注意 .....	111	入力する .....	219
電球の種類の概要 .....	111		
電球を外す(フロント) .....	113	<b>と</b>	
ハイビームヘッドライト .....	113	<b>ドア</b>	
バックランプ .....	114	オートマチックロック(マ	
方向指示灯(リア) .....	114	ルチファンクションディスプレ	
ライセンスランプ .....	116	イ) .....	174
リアフォグランプ .....	114		
ロービームヘッドライト .....	112		
<b>電源ソケット</b>			
センターコンソール .....	236		

車速感応ドアロック(スイッチ)	92	トレーラーのけん引	
重要な安全上の注意	92	ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)	79
セントラルロックによる施錠/解錠(キー使用)	84	<b>な</b>	
操作パネル	37	<b>内気循環モードの作動および解除</b>	<b>124</b>
ディスプレイメッセージ	175	<b>ナビ</b>	
非常時の解錠	92	切り替える	210
非常時の施錠	93	メニューの表示/非表示	210
開く(車内から)	92	<b>ナビゲーション</b>	
<b>ドアミラー</b>		デジタル版取扱説明書をご覧ください	202
格納/展開(自動)	105	メニュー(マルチファンクションディスプレイ)	174
格納/展開(電動)	105	参照 別冊の取扱説明書	
施錠時の格納(マルチファンクションディスプレイ)	174	<b>慣らし運転</b>	<b>128</b>
外側に曲げられたとき	105	<b>に</b>	
調整	105	<b>ニーバッグ</b>	<b>48</b>
防眩(自動)	105	<b>荷物固定用リング</b>	<b>231</b>
メモリー機能(設定の記憶)	105	<b>荷物の固定</b>	<b>231</b>
リセット	105	<b>荷物の積み方</b>	<b>226</b>
リバースポジションの記憶	105	<b>ね</b>	
<b>ドアロック</b>		<b>燃費(マルチファンクションディスプレイ)</b>	<b>174</b>
車速感応	92	<b>燃料</b>	
<b>盗難防止</b>		運転のヒント	143
イモビライザー	80	給油	138
室内センサー	81	グレード(ガソリン)	296
ATA(盗難防止警報システム)	81	重要な安全上の注意	295
<b>動物を乗せるとき</b>	<b>72</b>	消費に関する情報	297
読書灯	111	走行可能距離の表示	174
塗装面(日常の手入れ)	248	タンク容量/予備燃料	296
<b>ドライブシステム</b>		添加剤	297
レーントラッキングパッケージ	166	燃料計	32
<b>トランクの積載量(最大)</b>	<b>300</b>	燃料消費の表示	174
<b>トランクリッド</b>		平均燃費	174
ディスプレイメッセージ	175	問題があるとき	141
<b>トランスミッション</b>		E10	296
参照 オートマチックトランスミッション		<b>燃料および油脂</b>	
<b>取扱説明書</b>		ウォッシャー液	299
車両装備	24	エンジンオイル	297
<b>トリップコンピューター(マルチファンクションディスプレイ)</b>	<b>174</b>	重要な安全上の注意	295
<b>トリップメーター</b>		冷却水(エンジン)	298
呼び出し	174		
<b>トリム部品(清掃の説明)</b>	<b>248</b>		





**ホイールとタイヤの組み合わせ**  
 参照 タイヤ

**ホイールボルトの締め付けトルク** 285

**方向指示灯**  
 ディスプレイメッセージ ..... 175  
 電球の交換(フロント) ..... 113  
 電球の交換(リア) ..... 114  
 点灯/消灯 ..... 109

**放送局の選択**  
 ラジオ ..... 223

**ホールド機能**  
 解除 ..... 159  
 機能/注意 ..... 158  
 作動 ..... 159

**ホーン** ..... 30

**ボンネット**  
 重要な安全上の注意 ..... 240  
 ディスプレイメッセージ ..... 188  
 閉じる ..... 241  
 開く ..... 240

**ま**

**マットペイント(日常の手入れ) ...** 248

**マフラー(手入れ) .....** 248

**マルチファンクションステアリング**  
 概要 ..... 34  
 マルチファンクションディスプレイの操作 ..... 173

**マルチファンクションディスプレイ**  
 アシストメニュー ..... 174  
 安全に関する重要事項 ..... 172  
 オーディオメニュー ..... 174  
 機能/注意 ..... 172  
 基本画面 ..... 174  
 サブメーター ..... 174  
 設定初期化サブメニュー ..... 174  
 操作 ..... 173  
 ディストロニック・プラス ... 155  
 ディスプレイメッセージ ..... 175  
 テレビの操作 ..... 174  
 点検メッセージの表示 ..... 247  
 ナビゲーションメニュー ..... 174  
 ビデオ DVD の操作 ..... 174  
 メッセージの記憶 ..... 175

メニューの概要 ..... 174  
 メンテナンスメニュー ..... 174  
 ライトサブメニュー ..... 174

**み**

**ミラー**  
 参照 ドアミラーまたはルームミラー  
 参照 バニティミラー (サンバイザー内)  
 参照 ルームミラー

**む**

**無線機**  
 周波数 ..... 294  
 送信出力(最大) ..... 294  
 取り付け ..... 294

**め**

**メーターパネル**  
 各部の名称 ..... 32  
 警告灯/表示灯 ..... 33

**メガネホルダー** ..... 227

**メッセージ**  
 参照 ディスプレイメッセージ

**メッセージの記憶(マルチファンクションディスプレイ) .....** 175

**メモリーカード(オーディオ) .....** 174

**メモリー機能 .....** 105

**メルセデス・ベンツ指定サービス工場 .....** 26

**メルセデス・ベンツ純正部品 .....** 23

**メンテナンスインジケーター**  
 注意 ..... 247  
 特別な点検が必要なとき ..... 247  
 メンテナンスインジケーターのリセット ..... 247  
 メンテナンスメッセージ ..... 247  
 メンテナンスメッセージの非表示 ..... 247  
 メンテナンスメッセージの表示 ..... 247

**メンテナンスメニュー(マルチファンクションディスプレイ) .....** 174

## よ

余熱ヒーター(エアコンディショナー) .....	124
予備(燃料タンク) 参照 燃料	

## ら

ライセンスランプ 電球の交換 .....	116
ライセンスランプ(ディスプレイメッセージ) .....	175
ライター .....	236
ライト アダプティブハイビームアシスト .....	109
車外ライトの設定 .....	108
車幅灯 .....	109
デイトタイムドライビングライトの点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ) .....	174
パーキングランプ .....	109
ハイビームヘッドライト .....	109
非常点滅灯 .....	108
フォグランプ .....	109
ヘッドライト光軸 .....	109
ヘッドライトのオートモード ..	109
ヘッドライトのパッシング ...	109
方向指示灯 .....	109
ランプスイッチ .....	108
リアフォグランプ .....	109
ロービームヘッドライト .....	109
ライトセンサ .....	175
ラゲッジネット .....	227
ラゲッジルームカバー 機能/注意 .....	232
重要な安全上の注意事項 .....	232
取付け / 取外し .....	233
ラゲッジルームの拡大 .....	228
ラゲッジルームのフロア 収納スペース .....	234
重要な安全上の注意事項 .....	234
高さの調整 .....	235
開く/閉じる .....	234
ラジオ 概要 .....	223
切り替える .....	222
交通情報 .....	223

周波数バンドの設定 .....	223
放送局の選択 .....	174
参照 別冊の取扱説明書	

## ラジオモード

デジタル版取扱説明書をご覧ください .....	202
-------------------------	-----

## ランバーサポート

電動ランバーサポートの調整 ..	104
------------------	-----

## ランプ

参照 警告灯/表示灯	
------------	--

## り

## リアシート

前後調整 .....	231
バックレストの角度の調整 ...	230
バックレストを前方 / 後方に倒す(EASY-VARIO-PLUS システム非装備車) .....	229
バックレストを前方/後方に倒す(EASY-VARIO-PLUS システム装備車) .....	229

## リアデフォッガー

機能のオン/オフ .....	124
トラブル(故障) .....	124

## リアビューカメラ

オーディオディスプレイのメッセージ .....	164
オン/オフ .....	164
機能/注意 .....	163
清掃の説明 .....	248
COMAND ディスプレイの表示 .....	164

## リアフォグランプ

ディスプレイメッセージ .....	175
電球の交換 .....	114
点灯/消灯 .....	109

## リアランプ

参照 ライト	
--------	--

## リアワイパー

オン/オフの切り替え .....	117
ワイパーブレードの交換 .....	118

## リターンスイッチ .....

## リバース機能

サイドウィンドウ .....	95
電動ブラインド .....	98
パノラミックスライディングルーフ .....	96

**る**

**ルート(ナビゲーション)**  
 参照 ルート案内 (ナビゲーション)

**ルート案内**  
 デジタル版取扱説明書をご覧ください ..... 202

**ルート案内(ナビゲーション) ..... 174**

**ルーフの積載量(最大) ..... 300**

**ルーフライニングとカーペット(清掃の説明) ..... 248**

**ルーフラック ..... 235**

**ルームミラー**  
 防眩(自動) ..... 105  
 防眩(手動) ..... 105

**ルームライト**  
 概要 ..... 111  
 緊急時点灯機能 ..... 111  
 自動点灯 ..... 111  
 手動点灯 ..... 111  
 読書灯 ..... 111

**れ**

**冷却水(エンジン)**  
 温度計 ..... 172  
 警告灯 ..... 199  
 重要な安全上の注意 ..... 298  
 定期交換 ..... 245  
 ディスプレイメッセージ ..... 186  
 補給 ..... 244  
 量の点検 ..... 244

**冷房**  
 参照 エアコンディショナー

**レインクローズ機能(パノラミックスライディングルーフ) ..... 97**

**レーンキーピングアシスト**  
 機能/注意 ..... 168  
 設定/解除 (マルチファンクションディスプレイ) ..... 174

**レールトラッキングパッケージ .. 166**

**ろ**

**ロービームヘッドライト**  
 ディスプレイメッセージ ..... 175  
 電球の交換 ..... 112  
 点灯/消灯 ..... 109

**わ**

**ワイパー**  
 リアワイパー ..... 117  
 ワイパーの操作 ..... 116  
 ワイパーブレードの交換 ..... 117

**ワイパーブレード**  
 交換(フロントウインドウ) .... 117  
 交換(リアウインドウ) ..... 118  
 重要な安全上の注意 ..... 117  
 清掃 ..... 248

**輪止め ..... 282**

**英字**

**4ETS(エレクトロニック・トラクション・サポート)**  
 参照 ETS/4ETS (エレクトロニックトラクションシステム)

**4MATIC (フルタイム 4 輪駆動) ..... 160**

**12V ソケット**  
 参照 電源ソケット

**ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)**  
 機能/注意 ..... 73  
 警告灯 ..... 192  
 重要な安全上の注意 ..... 73  
 ディスプレイメッセージ ..... 176

**AC モードのオン/オフ ..... 124**

**ATA(盗難防止警報システム)**  
 機能 ..... 81  
 警報の解除 ..... 81  
 作動/解除 ..... 81

**BAS(ブレーキアシスト) ..... 73**

**Bluetooth®**  
 携帯電話 ..... 214  
 携帯電話の検索 ..... 215  
 デジタル版取扱説明書をご覧ください ..... 202  
 ださい ..... 202  
 パスコードの入力 ..... 216  
 他の携帯電話との接続 ..... 218

**CD**  
 デジタル版取扱説明書をご覧ください ..... 202  
 ださい ..... 202

**CD プレーヤー/CD チェンジャー(マルチファンクションディスプレイ) ..... 174**

COMAND Online			
ディスプレイ	204	トレーラー	79
COMAND システム		ETS/4ETS	77
機能	203	ETS/4ETS(エレクトロニック	
構成部品	203	ラクションシステム)	77
コントローラー	207	Google™ ローカル検索	
コントロールパネル	206	デジタル版取扱説明書をご覧ください	202
CPA プラス		iPod	
作動 / 解除	174	デジタル版取扱説明書をご覧ください	202
操作 / 注意事項	74	ISOFIX 対応チャイルドセーフ	
ディスプレイメッセージ	175	ティシート	61
DIRECT SELECT レバー		LIM 表示灯	
オートマチックトランスミ		可変スピードリミッター	147
ッション	135	クルーズコントロール	145
DVD ビデオ		ディストロニック・プラス	151
操作(マルチファンクション		M+S タイヤ	277
ディスプレイ)	174	MOExtended タイヤ	252
デジタル版取扱説明書をご覧ください	202	MP3	
EASY-VARIO-PLUS システム		操作	174
ラゲッジルームの拡大	228	デジタル版取扱説明書をご覧ください	202
EBD(エレクトロニック・ブレー		参照 別冊の取扱説明書	
キパワー・ディストリビューショ		PRE-SAFE®(予見的乗員保護シ	
ン)		ステム)	
機能/注意	80	機能の仕方	57
ディスプレイメッセージ	180	ディスプレイメッセージ	175
ECO スタートストップ機能		QR コード	
一般的な注意	134	救助カード	26
エンジン自動始動	134	メルセデス・ベンツ・ガイドア	
エンジン自動停止	134	プリ	1
概要	133	SD メモリーカード	
作動/解除	134	デジタル版取扱説明書をご覧ください	202
重要な安全上の注意	134	USB 機器の接続	
ECO ディスプレイ		デジタル版取扱説明書をご覧ください	202
機能 / 注意事項	143	VIN	294
ESP® (エレクトロニック・スタビ			
リティ・プログラム)			
設定/解除(マルチファンクショ			
ンディスプレイ)	174		
ESP®(エレクトロニック・スタビ			
リティ・プログラム)			
解除/作動(注意事項)	78		
機能/注意	77		
警告灯	195		
重要な安全上の注意	77		
全体的な注意事項	77		
ディスプレイメッセージ	176		
特性	78		

## はじめに

印刷版取扱説明書には、車両の安全操作についての情報が記載されています。デジタル版取扱説明書には、車両に装備されている追加機能および装備について記載されています。車両の機能およびCOMANDシステムの機能については、デジタル版取扱説明書に記載されています。COMANDシステムを使用して、デジタル版取扱説明書呼び出すことができます。

**i** デジタル版取扱説明書のご利用にあたり、お客様には一切費用はかかりません。デジタル版取扱説明書はインターネットに接続せずに作動します。

デジタル版取扱説明書の項目にアクセスするためには、3つの方法があります。

### • イメージ検索

イメージ検索により、車両を"システム上"で調べることができます。車外イメージあるいは車内イメージのいずれかから開始し、デジタル版取扱説明書に記載されているさまざまな項目にアクセスすることができます。車両のインテリアの項目にアクセスするためには、"車両のインテリア"の図を選択します。

### • キーワード検索

キーワード検索では、文字入力によりキーワードの検索ができます。さらなる情報は、デジタル版取扱説明書の"COMANDシステム"の"文字入力"にあります。





### • 目次

目次のそれぞれの項目を選択できます。

**i** 安全上の理由のため、走行中はデジタル版取扱説明書は作動しません。

## 操作

### デジタル版取扱説明書の呼び出し

- ▶ センターコンソールの  スイッチを押します。  
車両に関する概要が表示されます。
- ▶ コントローラーをまわすか **【◎】**、または押して 、または押して 、メニュー項目の"取扱説明書"を選択します。
- ▶ 警告および安全上の注意事項についてのメッセージを確認  します。  
デジタル版取扱説明書の基本メニューが表示されます。

### デジタル版取扱説明書の操作


#### 全体的な注意事項









コントローラーの操作についての情報に従ってください(▷ 207 ページ)。

#### コンテンツページ

イメージ検索、キーワード検索、または目次を使用して、コンテンツページにアクセスすることができます。



- ▶ 前/後にスクロールする：コントローラーをまわし **【◎】** ます。
- ▶ 全画面/アニメーションで表示する：コントローラーを左 **①** にスライド  します。

- ▶ **情報メッセージを選択する/ブックマークを保存する**：コントローラーを右 ② にスライド  します。
- ▶ **リンクを選択する**：コントローラーを下 ③ にスライド  します。
- ▶ **コンテンツページを終了する**：  マーク ④ を選択します。
- ▶ **デジタル版取扱説明書の基本メニューを呼び出す**：  マーク ⑤ を選択します。
- ▶ **センターコンソールのスイッチを使用して、機能を COMAND システムに切り替える**： 、、 または  スイッチを押します。  
選択したメニューが表示されます。デジタル版取扱説明書は、バックグラウンドで開いたままになります。

## 環境保護

### 全体的な注意事項

#### 🌀 環境に関する注意

Daimler は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の使用状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。以下のことにご注意ください。

#### 使用状況

- 短距離の走行は燃料消費を増やす原因となります。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 必要でないときは、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

#### 個人的な運転スタイル

- エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速やブレーキ操作は避けてください。

- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の  $\frac{3}{4}$  までにとどめてください。
- 渋滞しているときは、エンジンを停止してください。
- 車両の燃費に注意してください。

## メルセデス・ベンツ純正部品

#### 🌀 環境

Daimler AG では、新品同様の品質を持つ、リサイクルしたアッセンブリーやパーツも供給しています。新品と同様の保証が適用されます。

**!** 以下の部位の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナー、また乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー
- サイドシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどのアクセサリーを取り付けしないでください。修理や板金作業を行なわないでください。乗員保護装置の作動効果が損なわれるおそれがあります。

アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない安全性に関わる部品、タイヤおよびホイール、ならびにアクセサリーなどを使用した場合は、車両の走行安全性を損なうおそれがあります。ブレーキシステムなどの安全に関連したシステムが故障するおそれがあります。メルセデス・ベ

ンツ純正部品または同等の品質の部品を必ず使用してください。タイヤやホイール、アクセサリなどは必ず、車両用に明確に承認された製品のみを使用してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や交換部品、アクセサリに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。継続的な市場調査に関わらず、メルセデス・ベンツはすべての部品を入手できるわけではありません。そのため、公的に承認されている、またはテストセンターによって独自に承認されている場合でも、メルセデス・ベンツ車でのそのような部品の使用については、メルセデス・ベンツは責任を負いかねます。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号 (VIN) (▶ 294 ページ) を確認する必要があります。

## 取扱説明書

### 車両の装備

車両のすべての標準およびオプション装備については、別冊の補足版をご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類ですので、車内に保管してください。

## 安全な操作のために

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

規定の点検整備または必要な修理を行っていないと、故障やシステム故障を引き起こすおそれがあります。事故の危険性があります。

規定の点検整備、必要な修理は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。

#### ⚠ 警告

排気システムの熱くなった部品に触れた場合は、葉、草または小枝のような可燃性の物質が発火するおそれがあります。火災の危険性があります。

オフロードまたは舗装されていない道路を走行するときは、車両の下側を定期的に点検してください。特に、挟まった植物や他の可燃物を取り除いてください。損傷している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

#### ⚠ 警告

電子部品、ソフトウェア配線への改造は、それらの機能およびその他のネットワークでつながっている構成部品の機能を損なうことがあります。特に、安全にかかわるシステムに影響が生じるおそれがあります。結果として、車両の機能が適切に作動しないあるいは走行安全性が危険にさらされることがあります。けがや事故の危険が高まります。

また、決して配線、電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。電気装備および電子機器に関するすべての作業および改造はメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて行ってください。

車両の電子制御部品に変更を行なった場合は、一般使用許可は無効になります。

■ 以下のときは、車両が損傷することがあります：

- 高い縁石や舗装されていない道路で車両が立ち往生した
- 縁石や道路のくぼみなどの障害物の上を速すぎる速度で走行した
- 重量のある障害物がボディ下部やシャーシの部品にぶつかった

このような状況では、目に見える損傷はなくても、ボディ、ボディ下部、シャー

シ部品、ホイール、タイヤが損傷しているおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあり、事故の場合には、設計されている負荷に耐えることができなくなるおそれがあります。

ボディ下部のパネルが損傷しているときは、葉、草または小枝のような可燃性の素材がボディ下部とボディ下部パネルの間に堆積することがあります。これらの素材が排気システムの高温の部品に触れた場合は、発火するおそれがあります。そのような場合には、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検および修理を受けてください。走行している場合に、走行安全性が損なわれていると感じた場合は、道路や交通状況に注意しながらすみやかに移動し、停車してください。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。

### 診断器接続部

診断器接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で診断機器のみを接続するように想定されています。

#### ⚠ 警告

機器を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。車両の走行安全性が損なわれることがあります。事故の危険性があります。

いかなる機器も車両の診断機の接続部に接続しないでください。

#### ⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

**!** エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機器を診断器接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。これにより、次の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなる場合があります。

### 日常点検および検査

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

### オートマチックトランスミッションの操作

#### 全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

"走行および駐車"の指示もご覧ください。  
(▷ 134 ページ)。

## オートマチックトランスミッションの特徴

### クリーブ現象

エンジンがかかっている状態でトランスミッションがトランスミッションポジション **D** または **R** のときは、駆動輪に動力が伝達されています。その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

### メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要な作業を適切に行なうため、専門的な知識、ツールおよび資格を有しています。これは特に安全に関する作業を行なう際に適応されます。

整備手帳にある注意事項に従ってください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全に関する作業
- 整備およびメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、取り付け、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

### 正しく使用するために

警告ステッカーをはがした場合は、お客様や他の方々を危険を認識できないことがあります。警告ステッカーをはがさないでください。

車両を運転しているときは以下の情報に従ってください。

- 本取扱説明書の安全に対する注意事項
- 車両のサービスデータ

- 道路交通法
- 自動車に関する法律と安全基準

### 救助カード用 QR コード

QR コードは、燃料給油口のフラップ裏側と反対側の B ピラーに貼付されています。事故の際、QR コードを使用してお客様の車両に対応する救助カードをレスキュー隊員が素早く見つけられます。現在の救助カードには、電気ケーブルの配線のようなお客様の車両に関する最も重要な情報がコンパクトな形式で収録されています。

さらなる情報は [https://portal.aftersales.i.daimler.com/public/content/asportal/en/communication/informationen\\_fuer/QRCode.html](https://portal.aftersales.i.daimler.com/public/content/asportal/en/communication/informationen_fuer/QRCode.html) にあります。

### 車両に記憶されているデータ

車両の数多くの電子部品には、データメモリーが装備されています。

これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します：

- 車両の作動状態
- 発生した事象
- 故障

一般的に、この技術情報は構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態ついて記録します。

例えば、以下を含みます：

- 油脂類のレベルなどのシステム構成部品の作動状況
- 車両の状況メッセージ、およびホイール回転数/速度、減速、横方向の加速

度、アクセルペダルの位置など個別の構成部品の状況メッセージ

- ライト、ブレーキなどの重要なシステム構成部品の故障および異常
- エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などの特殊な走行状態での車両の反応および作動条件
- 外気温度などの外気条件

このデータは以下の技術的なことにのみ使用されます：

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 事故後などの車両機能の解析
- 車両機能の最適化

データを使用して、車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報が発生事象データメモリーおよび故障データメモリーから読み出されます。

例えば以下の整備が含まれます：

- 修理整備
- 整備処理
- 保証の事象
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。必要に応じて、より詳細な情報を取得します。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

車両を操作する場合、その他の情報と併せて（必要に応じて、該当機関に相談し）、この技術データから個人を特定することがあります。

以下の例が含まれます：

- 事故情報
- 車両への損傷
- 目撃者証言

お客様と合意したその他の追加機能によっても、同様に特定の車両データを車両から取得することがあります。追加機能は、非常時の車両位置などを含んでいます。

## 著作権の情報

### 全体的な注意事項


車両およびその電子部品に使用されているフリーおよびオープンソースのソフトウェアのライセンスに関する情報は、下記のウェブサイトで入手できます：

<http://www.mercedes-benz.com/opensource>

運転席 .....	30
メーターパネル .....	32
マルチファンクションステアリング .....	34
センターコンソール .....	35
ドアコントロールパネル .....	37
オーバーヘッドコントロールパネル .....	38

## 運転席



機能	ページ
① ステアリングのギアシフトパドル	
② コンビネーションスイッチ	109
③ メーターパネル	32
④ ホーン	
⑤ DIRECT SELECT レバー	135
⑥ パークトロンニックの警告表示	160
⑦ オーバーヘッドコントロールパネル	38

機能	ページ
⑧ クライメートコントロール	122
⑨ エンジンスイッチ	129
⑩ ステアリングの調整	
⑪ クルーズコントロールレバー	145
⑫ 電気式パーキングブレーキ	142
⑬ ライトスイッチ	108
⑭ 診断器接続部	25
⑮ ボンネットを開く	240



機能	ページ
① オーバーヘッドコントロールパネル	38
② パークトロニックの警告表示	160
③ コンビネーションスイッチ	109
④ メーターパネル	32
⑤ ホーン	
⑥ DIRECT SELECT レバー	135
⑦ ステアリングのギアシフトパドル	

機能	ページ
⑧ ライトスイッチ	108
⑨ 診断器接続部	25
⑩ ボンネットを開く	240
⑪ 電気式パーキングブレーキ	142
⑫ エンジンスイッチ	129
⑬ ステアリングの調整	
⑭ クルーズコントロールレバー	145
⑮ クライメートコントロール	122

## メーターパネル

## ディスプレイおよび操作



PS4.23-2649-21

	機能	ページ
①	スピードメーター スピードメーターのセグメント	
②	マルチファンクション ディスプレイ	
③	タコメーター	
④	冷却水温度	

	機能	ページ
⑤	燃料計 燃料給油口フラップ位置 表示灯  : 燃料給油 口キャップは左側にあり ます。	
⑥	メーターパネル照明	

**i** マルチファンクションディスプレイの外気温度表示に関する情報はデジタル版取扱説明書の「外気温度表示」にあります。

警告および表示灯










機能	ページ
①  ロービームヘッドライト	190
②  車幅灯	190
③  ハイビームヘッドライト	190
④  ESP®	195
⑤  電気式パーキングブレーキ (赤色)	198
⑥  電気式パーキングブレーキ (黄色)	198
⑦  車間距離警告	200
⑧  方向指示灯	190
⑨  乗員保護装置	40











機能	ページ
⑩  シートベルト	190
⑪  冷却水	199
⑫  リアフォグランプ	190
⑬  フロントフォグランプ	190
⑭  エンジン診断	190
⑮  この表示灯には機能はありません	
⑯  予備燃料	190
⑰  ESP®解除	195
⑱  ABS	192
⑲  ブレーキ	191

PS4-33-2815-31

## マルチファンクションステアリング



機能	ページ
① マルチファンクションディスプレイ	172
② COMAND システムディスプレイ (別冊の取扱説明書をご覧ください)	
③  音声認識機能の作動 (別冊の取扱説明書をご覧ください)  ミュート   音量を調整する  通話の拒否、または終了 電話帳/発信履歴の終了  発信、または受話 発信履歴への切り替え	




機能	ページ
④   メニューの選択 	
  サブメニューの選択またはリストのスクロール 	
 選択の確定 ディスプレイメッセージの非表示 	
 戻る 	
音声認識機能の停止 (別冊の取扱説明書をご覧ください)	

センターコンソール

センターコンソール、上部




	機能	ページ
①	COMAND システム：別冊の取扱説明書をご覧ください	
②	 シートヒーター	104
③	 パークトロッニック	160
④	 ECO スタートストップ機能	

	機能	ページ
⑤	 非常点滅灯	
⑥	助手席エアバッグ表示灯	41
⑦	 走行モードの選択	136

## センターコンソール、下部



	機能	ページ
①	灰皿 ライター 電源ソケット 小物入れ	   
②	小物入れ	
③	カップホルダー	

	機能	ページ
④	メディアインターフェース付き小物入れ	
⑤	COMAND コントローラー (別冊の取扱説明書をご覧ください)	

ドアコントロールパネル



	機能	ページ
①	ドアを開く	
②	車両の施錠/解錠	
③	シートおよびドアミラー設定の保存	
④	パワーシートの調整	
⑤	ドアミラーの電動調整および格納/展開	

	機能	ページ
⑥	サイドウィンドウの開閉	
⑦	後席のサイドウィンドウのチャイルドロック機能の設定/解除	72

オーバーヘッドコントロールパネル



	機能	ページ
①	リアルームライトの点灯/消灯の切り替え	
②	右側読書灯の点灯/消灯の切り替え	
③	フロントルームライト/ルームライトの自動点灯のオフの切り替え	
④	ルームミラー	

	機能	ページ
⑤	サングラスケース	
⑥	電動ブラインド付きパノラミックスライディングルーフの開閉	97
⑦	フロントルームライトの点灯	
⑧	左側読書灯の点灯/消灯の切り替え	

役に立つ情報 .....	40
乗員の安全性 .....	40
子供を乗せるとき .....	59
ペットを乗せるとき .....	72
走行安全システム .....	72
盗難防止 .....	80

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で情報をご覧ください。(▶ 26 ページ)

## 乗員の安全性

### 乗員保護補助装置をご使用になる前に

乗員保護補助装置は、事故の際に乗員が車内部品にぶつかる危険性を低減します。乗員保護補助装置は、事故の際に乗員が受ける衝撃を低減することもできます。乗員保護補助装置には以下が含まれます。

- シートベルトシステム
  - エアバッグ
  - チャイルドセーフティシート
  - チャイルドセーフティシート固定装置
- 乗員保護補助装置の構成部品は、相互に関連して作動します。すべての乗員が常に以下の場合にのみ、保護を行いません。
- シートベルトを正しく着用している (▶ 43 ページ)
  - シートやヘッドレストが正しく調整されている (▶ 103 ページ)

運転者として、ステアリングが適切に調整されていることも確認してください。正しい運転席シートの位置についての情報に従ってください(▶ 102 ページ)。

さらに、作動する場合にエアバッグが正しく膨らむようにしなければなりません (▶ 46 ページ)。

エアバッグは正しく着用しているシートベルトの補助を行なうものです。エアバッグは事故の際の追加的な安全装置として乗員の保護レベルを高めます。例えば、事故の際にシートベルトによる保護機能が十分な場合は、運転席エアバッグは作動しません。また、事故の際、その状況下において保護機能が発揮できるエアバッグのみが作動します。ただし、シートベルトとエアバッグは外側から車両に入り込んだ物に対する保護は通常行ないません。

乗員保護補助装置の作動方法についての情報は、「シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動」にあります (▶ 56 ページ)。

車両に乗車している子供、ならびにチャイルドセーフティシートについてのさらなる情報は、「子供を乗せるとき」をご覧ください (▶ 59 ページ)。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告


改造が行なわれた後は、乗員保護装置が正しく機能しなくなることがあります。例えば、事故のときに作動しなかったり、または予期せず作動することにより、乗員保護装置が意図した保護機能を発揮しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。


乗員保護装置の部品を改造しないでください。また、配線、電子部品やソフトウェアを決して改造しないでください。

身体に障害がある方のためにエアバッグシステムを改造する必要がある場合は、詳細をメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

## 乗員保護補助装置警告灯

乗員保護補助装置の機能は、イグニッションがオンになった後、そしてエンジンがかかっている間は定期的に点検されます。そのため、不具合を適時検知することができます。

メーターパネルの乗員保護補助装置警告灯  は、イグニッションをオンにしたときに点灯します。車両が始動した後、数秒以内に消灯します。乗員保護補助装置の構成部品は、作動準備が整っています。

乗員保護補助装置警告灯  が以下の場合は、不具合が発生しています。

- イグニッションをオンにした後に点灯しない
- エンジンがかかって数秒後に消灯しない
- エンジンがかかっている間に再度点灯する

### ⚠ 警告

乗員保護装置が故障している場合は、車両の減速度が大きい事故の際に、乗員保護装置の構成部品が不意に作動したり、またはまったく作動しないことがあります。これは、たとえばシートベルトテンショナーあるいはエアバッグに影響を与えることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置の点検を受けて修理してください。

## 助手席エアバッグ表示灯



助手席エアバッグオフ表示灯 ① および助手席エアバッグオン表示灯 ② は、助手席エアバッグ自動解除システムの一部です。表示灯は助手席エアバッグの状態を示しています。

- 助手席エアバッグオンが点灯：助手席エアバッグは有効です。事故のときにすべての作動基準が満たされている場合は、助手席エアバッグが作動します。
- 助手席エアバッグオフが点灯：助手席エアバッグは無効です。その場合は、事故のときには作動しません。

助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。以下の点をご覧ください。走行前および走行中のいずれのときも、確認しなければなりません。

- **後ろ向きチャイルドセーフティシートの子供**：助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しなければなりません。助手席エアバッグは無効になります。"助手席エアバッグ自動解除システム" (p. 50 ページ) および"子供を乗せるとき" (p. 59 ページ) にある注意事項に必ず従ってください。
- **前向きチャイルドセーフティシートの子供**：取り付けられているチャイルドセーフティシートおよび子供の年齢および体格によって、助手席エアバッグは有効または無効になります。そのため、"助手席エアバッグ自動解除システム"

ム" (▷ 50 ページ) および"子供を乗せるとき" (▷ 59 ページ) にある注意事項に必ず従ってください。

- **他のすべての乗員**：助手席エアバッグオン表示灯が点灯している必要があります。助手席エアバッグは有効になります。助手席シートの乗員の体格によって、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがあります。助手席エアバッグは無効になります。その場合は、事故のときには作動しません。この場合は、助手席シートを使用しないでください。

"助手席エアバッグ自動解除システム" (▷ 50 ページ) ならびに"シートベルト" (▷ 42 ページ) および "エアバッグ" (▷ 46 ページ) にある注意事項に必ず従ってください。そこには、適切なシート位置についての情報もあります。

## シートベルト

### はじめに

正しく着用されたシートベルトは、衝突あるいは車両が横転したときに乗員の動きを抑える最も効果的な方法です。これにより、乗員が車内の部品にぶつかったり、車両から投げ出されることを防ぎます。シートベルトを着用することで、乗員と作動するエアバッグの距離を最適に保つこともできます。

シートベルトシステムは以下で構成されています。

- シートベルト
- フロントシートベルト用およびリアの外側シートベルト用シートベルトテンショナー
- フロントシートベルトおよびリアの外側シートベルト用のベルトフォースリミッター

シートベルトが急に、あるいは激しくシートベルトの引き出し口から引き出されると、ベルトアンカーがロックされます。それ以上、シートベルトを引き出すことはできません。

ベルトテンショナーは、衝突が起これると、乗員の身体にぴったり合うようにシートベルトを締めます。しかし、シートバックレストの方向に乗員を引き戻すことはしません。

ベルトテンショナーは、正しくないシート位置を正しくしたり、着用の仕方が正しくないシートベルトの取り回しを正しくすることはありません。

ベルトフォースリミッターは、乗員の身体に加わるシートベルトの拘束力が一定レベル以上にならないように抑える働きをします。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと連動しています。これにより、事故の際に乗員が受ける衝撃が緩和されます。

**■** 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

すべての乗員が適切に着席して、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。

**⚠ 警告**

バックレストをほぼ垂直の位置に動かししていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

**⚠ 警告**

身長が約 150 cm 未満の乗員は、追加の適切な乗員保護装置を使用しないとシートベルトを正しく装着できません。正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、必ず適切な乗員保護装置を使用してください。

年齢が 12 歳以下で、身長が 150 cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツ車に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適合していません。
- 助手席エアバッグ自動解除システムの指示および安全上の注意事項に必ず注意してください (▶ 50 ページ)
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、本取扱説明書の"子供を乗せるとき"の説明および安全上の注意事項 (▶ 59 ページ) に常に従ってください

**⚠ 警告**

以下の場合、シートベルトは意図された保護機能を発揮しないことがあります：

- 損傷している、改造されている、極端に汚れている、漂白されている、または着色されている
- シートベルトのバックルが損傷している、または極端に汚れている
- シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターが改造されている

事故が起こった際には目には見えない場合でも、たとえばガラスの破片によってシートベルトに損傷していることがあります。改造または損傷したシートベルトは事故のときなどに裂けたり、または作動しないおそれがあります。改造されたシートベルトテンショナーは不意に作動したり、または必要なときに作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルト、シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターを改造しないでください。シートベルトが損傷していない、擦り切れていない、そして汚れていないことを確認してください。事故後はただちに、シートベルトをメルセデス・ベンツ指定サービス工場点検してください。

お客様の車両用にメルセデス・ベンツにより特別に承認されたシートベルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。さもないと、車両の一般使用許可が無効になるおそれがあります。

**シートベルトの正しい使用方法**

シートベルトの安全上の注意事項に従ってください (▶ 42 ページ)。

走行を開始する前に、すべての車両乗員がシートベルトを着用していなければなりません。走行中は、すべての車両乗員

がシートベルトを正しく着用していることを確認してください。

シートベルトを着用するときは、以下のことを確認してください：

- シートベルトバックルのプレートが、対応するシートの正しいベルトバックルにのみ差し込まれている
- 身体の上でシートベルトが強く引かれている

冬コートなど、かさばる衣服は避けてください。

- シートベルトがねじれていない  
そのときにのみ、受けた力はベルト表面に分散されます。
- ベルトの肩部分は、常に肩の中央を通過していなければなりません。  
ベルトの肩部分が頸部に触れたり、腕の下を通らないようにしてください。可能であれば、シートベルトを適切な高さで調整します。

- 腰ベルトが、できるだけ低く密着するように骨盤にかかっている

腰ベルトは常に股関節にかかるようにし、腹部にかからないようにしてください。特に妊婦の方は、これに従わなければなりません。必要な場合は、腰ベルトを股関節に向けて下方に押し、ベルトの肩部分から強く引きます。

- シートベルトが、鋭利な、先のとがった、または壊れやす物にかかっている

ペン、キーまたはメガネのようなものが衣服の上または中にある場合は、それらを適切な場所に収納してください。

- 1人の人のみがシートベルトを使用している

車両乗員の膝の上に座らせて、乳幼児または子供を運ばないでください。事

故の際に、車両乗員とシートベルトの間でつぶされるおそれがあります。

- 乗員と一緒に、物がシートベルトで締められていない

シートベルトは、乗員を固定して拘束するためだけに使用されます。物を固定するときは、常に"積載ガイドライン"の説明および安全上の注意事項に従ってください (▶ 226 ページ)。

### シートベルトの着用および調整

シートベルトについての安全上の注意事項 (▶ 42 ページ)、およびシートベルトの正しい使用についての情報 (▶ 43 ページ) に注意してください。

乗員が中央リアシートのシートベルトを着用している場合は、中央リアシートのシートベルトについての情報にも注意してください (▶ 45 ページ)。



- ▶ シート (▶ 102 ページ) を調整します。シートバックレストはほぼ垂直の位置になければなりません。

- ▶ ベルトの引き出し口 (3) からシートベルトをゆっくりと引きます。

- ▶ ベルトプレート ② をベルトバックル ① に固定します。  
運転席シートおよび助手席シートのシートベルトは自動的に締まる場合があります。"シートベルト調整"をご覧ください (▷ 45 ページ)。
- ▶ 必要な場合は、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。



シートベルトの肩部分は、常に肩の中央を通ってかかっている必要があります。必要な場合は、ベルトの引き出し口を調整します。

- ▶ **上げる**：ベルトの引き出し口を上方にスライドします。  
ベルトの引き出し口は、好みの位置に固定できます。
- ▶ **下げる**：ベルトの引き出し口のロック解除 ④ を持ち、ベルトガイドを下方にスライドします。
- ▶ 希望の位置でベルトの引き出し口のロック解除 ④ を放し、ベルトガイドが固定されていることを確認します。

### 中央リアシートのシートベルト

左側リアシートバックレストを前方に倒した後、元の位置に起こしたときは、中央リアシートのシートベルトがロックすることがあります。ロックすると、シートベルトが引き出せなくなります。

- ▶ **後席中央シートベルトを解除する**：バックレストのベルトの引き出し口でシートベルトを約 20 mm 引き出し、再度放します。  
シートベルトが巻き取られ、ロックが解除されます。

### シートベルトの解除

❗ シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。



- ▶ ロック解除スイッチ ① を押して、ベルトプレート ② をしっかり持ち、ベルト引き出し口 ③ の方に戻します。

### シートベルトの調整

シートベルト調整は、PRE-SAFE® コンビニエンス機能の一部です。この機能は、

運転席および助手席のシートベルトを乗員の上半身に適合させます。


以下のときに、シートベルトが少し締め付けられます。


- ベルトプレートがベルトバックルに差し込まれている、そして
- イグニッションがオンである


車両乗員とシートベルトの間にたるみを検知した場合は、シートベルト調整は特定の締め付け力を加えます。調整している間は、シートベルトを強くつかまないでください。

シートベルト調整は、マルチファンクションディスプレイで設定/解除できます。

## 運転席および助手席乗員のシートベルト警告

メーターパネルのシートベルト警告灯  は、すべての車両乗員がシートベルトを着用しなければならないという注意喚起です。点灯し続けるか、または点滅します。さらに、警告音が鳴ることがあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用したときは、シートベルト警告灯  が消灯し、警告音が停止します。

**i** シートベルト警告灯  に関するさらなる情報は、「メーターパネルの警告および表示灯、シートベルト」をご覧ください (p. 190 ページ)。

## エアバッグ

### はじめに

エアバッグの取り付け位置は、AIRBAGのマークで示されています。

エアバッグは正しく着用しているシートベルトの補助を行なうものです。シートベルトの代わりになるものではありません。

ん。エアバッグは、事故の状況下で補助的な保護を行ないます。

事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します (p. 56 ページ)。

ただし、現在装備されているどのシステムも、けがや死亡の危険性を完全になくすることはできません。

エアバッグは高速で展開するため、エアバッグを原因とするけがの危険性を完全に排除することもできません。

## 重要な安全上の注意事項

### 警告

正しいシート位置から外れている場合、エアバッグは本来の保護機能を発揮できず、作動によりさらに負傷の原因となるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。危険な状態を防ぐために、すべての乗員は以下の項目について確認してください。

- シートベルトを正しく着用していること (妊娠中の女性を含む)
- 正しい位置に座り、エアバッグからできるだけ離れていること
- 以下の注意事項を遵守すること

エアバッグと乗員との間に何も物が置かれていないことを必ず確認してください。

- 走行を開始する前にシートを正しく調整してください。必ずシートが垂直に近い位置であることを確認してください。ヘッドレストの中央は、ほぼ目の高さで頭部をサポートしていなければなりません。
- 運転席および助手席シートをできるだけ後方に動かします。運転席シートの位置は、車両を安全に運転できるものでなければなりません。
- ステアリングは外側のみを握ってください。これにより、エアバッグを十分に作動させることができます。

- 運転中は、常にバックレストにもたれかかるようにしてください。前方に倒れたり、ドアまたはサイドウィンドウに寄りかからないでください。さもないと、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 両足は、常にシート前方のフロアに置いてください。ダッシュボードの上に足を乗せないでください。さもないと、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 身長 150 cm 以下の乗員は適切な乗員保護補助装置に常に固定してください。この身長に満たない場合、シートベルトを正しく着用することができません。

#### お子様を車両に乗せて走行する場合、以下の注意事項にも注意してください。

- 年齢 12 歳 以下で、身長 150 cm 以下の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに固定してください。
- チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。
- 助手席エアバッグは無効になっており、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合に限り、子供を助手席シートに固定してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席エアバッグは無効になっています (▶ 41 ページ)。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、助手席エアバッグ自動解除システム (▶ 50 ページ)、および "子供を乗せるとき" (▶ 59 ページ) の説明および安全上の注意事項に常に従ってください。

車内に置いている物がエアバッグの正常な機能を妨げる場合があります。運転を開始する前に、エアバッグが作動する際  
の速度により生じる危険を防ぐために、以下のことを確認してください。

- 乗員とエアバッグとの間に、人、動物または物がない。
- シート、ドアおよび B ピラーの間に物がない。
- コートハンガーなどの固い物がグリップハンドルまたはコートフックにかかっていない。
- カップホルダーなどのアクセサリーがドア、サイドウィンドウ、リアサイドトリムやサイドウォールなどの、エアバッグの作動範囲内に取り付けられていない。
- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れていない。このような物は適切な場所に収納してください。

#### ⚠ 警告

エアバッグのカバーを改造したり、ステッカーのような物をそれらに貼付している場合は、エアバッグが正しく機能しなくなるおそれがあります。けがの危険性が高まります。

エアバッグのカバーを改造したり、それらに物を貼付しないでください。

#### ⚠ 警告

エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。ドアまたはドアパネル、ならびに損傷したドアに改造または作業が正しく行われていないと、センサーの機能が損なわれることがあります。したがって、エアバッグは正しく機能しなくなることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。けがをす  
るおそれが高まります。

ドアまたはドアの部品を改造しないでください。ドアまたはドアパネルの作業は

常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

## エアバッグと装着位置

エアバッグ	装着位置
運転席エアバッグ	ステアリング中央のパッド
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード
運転席ニーバッグ	ステアリング下部のダッシュボードカバー
サイドバッグ	運転席および助手席シート、およびリアシート外側部分のバックレストのシートクッション外側
ウインドウバッグ	Aピラー側方からCピラーのルーフレーム

## フロントエアバッグ

**!** 助手席シートには重い物を置かないでください。助手席シートに同乗者がいるとシステムが誤って判断する原因になります。衝突の際に助手席側の乗員保護装置が作動して交換する必要があるおそれがあります。



運転席エアバッグ①は、ステアリング前面で作動します。助手席エアバッグ②は、グローブボックスの前面と上部で作動します。

作動するときは、フロントエアバッグはフロントシート乗員の頭部や胸部の補助的な保護を行ないます。

助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、助手席エアバッグの状態を示しています(▶41ページ)。

助手席フロントエアバッグは以下の場合にのみ作動します。

- 助手席シートに乗車していることを助手席エアバッグ自動解除システムが検知した(▶50ページ)。助手席エアバッグオン表示灯が点灯している(▶50ページ)
- 乗員保護補助装置のコントロールユニットが重大な事故を予見した

## 運転席ニーバッグ



運転席ニーバッグ①は、ステアリングコラムの下で作動します。運転席ニーバッグは、フロントエアバッグと一緒に作動します。

運転席ニーバッグは、運転者の大腿部、膝および下腿の補助的な保護を行ないません。

## サイドバッグ

### ⚠ 警告

シートカバーによって、シートに内蔵されているエアバッグの作動を遮る、または妨げることがあります。その結果、設計されているようにエアバッグが車両乗員を保護できません。さらに、助手席エアバッグ自動解除システム機能が制限されることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントシートには、シートカバーを使用しないでください。



サイドバッグ①は、シートバックレストの外側クッション脇で作動します。

作動するとき、サイドバッグは胸部および骨盤の補助的な保護を行ないません。ただし、以下の保護は行ないません。

- 頭部
- 頸部
- 腕部

側面衝突の際は、サイドバッグは衝撃が発生した側で作動します。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：助手席側のサイドバッグは以下の条件で作動します。

- 助手席シートで乗員が検知された、または
- ベルトプレートが助手席シートのベルトバックルに固定されている

ベルトプレートがベルトバックルに固定されている場合は、対応する状況の事故が発生した場合に助手席側のサイドバッグが作動します。この場合は、助手席シートに乗車しているかどうかとは関係なく作動します。

## ウインドウバッグ



ウインドウバッグ①はルーフフレーム側面に内蔵され、AピラーからCピラーの間で作動します。

作動すると、ウインドウバッグは頭部に対する保護レベルを向上させます。ただし、胸部または腕部は保護しません。

側面衝突の際、ウインドウバッグは衝撃が発生した側で作動します。

シートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断すると、ウインドウバッグは他の事故状況下で作動する場合があります(▶ 56 ページ)。

## 助手席エアバッグ自動解除

### はじめに

助手席シートのチャイルドセーフティシートを検知するために、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席シートの乗員の分類を行いません。結果により、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。後ろ向きチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合、助手席エアバッグオフ表示灯はシステムの自己診断の後に点灯し、そのまま点灯し続けます。助手席エアバッグは無効になります。

システムは、以下を無効にしません。

- ・サイドバッグ
- ・ウインドウバッグ
- ・シートベルトテンショナー

お客様の車両に、助手席エアバッグ自動解除システムが装備されていることを確認してください (▷ 63 ページ)。そうでない場合は、チャイルドセーフティシートは常に適切なリアシートに取り付けてください (▷ 65 ページ)。

やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付ける必要がある場合は、チャイルドセーフティシートの正しい配置に従ってください。チャイルドセーフティシートの下や背面にクッションなどの物を置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面全体が、常に助手席シートクッションに接していなければなりません。前向きチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接していなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。そうするときのみ、助手席エアバッグ自動解除

システムの正しい機能が保証されます。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置についての情報 (▷ 65 ページ) に常に従ってください

### 助手席エアバッグ自動解除システムの操作



- ① 助手席エアバッグオフ表示灯
- ② 助手席エアバッグオン表示灯

表示灯は、助手席エアバッグが無効か有効かを示しています。

- ▶ キーレスゴースイッチを 1 回または 2 回押す、またはエンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。
- システムは自己診断を実行します。

助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は同時に約 6 秒間点灯しなればなりません。

表示灯は助手席エアバッグの状態を示しています。

- 助手席エアバッグオフが点灯：助手席エアバッグは無効です。その場合は、事故のときには作動しません。
  - 助手席エアバッグオンが点灯：助手席エアバッグは有効です。事故のときにすべての作動基準が満たされている場合は、助手席エアバッグが作動します。
- 車両が動いている間に助手席エアバッグの状態が変化した場合は、メーターパネ

ルにエアバッグのディスプレイメッセージが表示されます (p 184 ページ)。助手席シートに乗車しているときは、常に助手席エアバッグオンまたは助手席エアバッグオフ表示灯に注意してください。走行前および走行中のいずれのときも、助手席エアバッグの状態に注意してください。

助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない場合、助手席乗員は以下のように座る必要があります。

- シートベルトを正しく着用する
- シートのバックレストに背中を着け、ほぼ垂直の位置で

• 可能であれば、フロアに足を置いて  
助手席乗員がこれらの条件に従わない場合は、助手席乗員が以下を行なうことにより、助手席エアバッグ自動解除システムが影響を受けることがあります。

- 車両のアームレストで自分自身を支えることで体重を移動する
- シートクッションから体重を浮かせるように着座する

助手席エアバッグは上記のような動作の結果、誤って無効になる場合があります。この場合は、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままになります。その場合、事故の際に助手席エアバッグは作動しません。

#### 警告

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、助手席フロントエアバッグは無効になります。事故のときに作動せず、意図した保護機能を発揮できません。そして、特にダッシュボードのすぐ近くに乗員が着座している場合は、助手席にいる人が車両のインテリアに接触するなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席に乗車しているときは、常に以下を確認してください。

- 助手席乗員の分類が適切であり、助手席乗員に応じて助手席フロントエアバッグが有効または無効になっている
- 助手席ができるだけ後方に移動している
- 乗員が正しく着座している

走行前および走行中のいずれのときも、助手席の状況が正しいことを確認してください。

#### 警告

助手席に子供を後ろ向きのチャイルドセーフティシートに固定し、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

助手席エアバッグオフ表示灯が消灯したままの場合、および/または助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けしないでください。さらなる情報は"助手席エアバッグ自動解除システムのトラブル"にあります (p 55 ページ)。

### ⚠ 警告

子供を助手席の前向きチャイルドセーフティシートに固定して、助手席位置をダッシュボードのすぐ近くにした場合は、事故のときに、子供は以下のようになることがあります。

- 例えば助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合に、車両のインテリアに接触する
  - 助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合にエアバッグにぶつかる
- これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席シートはできるだけ後方に移動してください。車両のベルト引き出し口から肩部分のシートベルトがチャイルドセーフティシートの肩部分のベルトガイドに正しくかかっていることを必ず確認してください。シートベルトの肩部分のストラップは、車両のベルト引き出し口から前方および下方に取り回されていなければなりません。必要に応じて、車両のベルト引き出し口と助手席シートを適切に調整します。チャイルドセーフティシートのメーカーの取扱説明書に加えて、本取扱説明書のチャイルドセーフティシートの適切な位置決めに関する情報をご確認ください。

助手席エアバッグ自動解除システムが以下を検知した場合：

- 助手席シートに乗車していなく、システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままである。これは助手席エアバッグが無効であることを示しています。
  - 後ろ向きチャイルドセーフティシートで子供が助手席シートに乗車していて、システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままである。これは助手席エアバッグが無効であることを示しています。
- ただし、後ろ向きチャイルドセーフティシートの場合、システムの自己診

断の後に助手席エアバッグオン表示灯が点灯し、点灯したままになることがあります。これは助手席エアバッグが有効であることを示しています。検知の結果は、他の要因や、チャイルドセーフティシートおよび子供の体格によって異なります。チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。

- 助手席シートに前向きチャイルドセーフティシートを使用して子供が座っている場合、システムの自己診断後、どのように検知したかによって助手席エアバッグオン表示灯または助手席エアバッグオフ表示灯のいずれかが点灯し、点灯したままになります。検知の結果は、他の要因や、チャイルドセーフティシートおよび子供の体格によって異なります。


助手席シートをできるだけ後方に移動してください。"助手席シートのチャイルドセーフティシート" (▷ 63 ページ) および"チャイルドセーフティシートの適切な位置" (▷ 65 ページ) の情報に常に注意してください。可能であれば、チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着してください。

- 助手席シートに小柄な体格の乗員（10代の若者または小柄な大人など）が乗車していて、システムの自己診断後、どのように検知したかによって助手席エアバッグオン表示灯または助手席エアバッグオフ表示灯のいずれかが点灯し、点灯したままになります。
- 助手席エアバッグオン表示灯が消灯している場合、助手席シートをできるだけ後ろに移動してください。あ

るいは、小柄な体格の乗員はリアシートに着座してください。

- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、小柄な体格の乗員は助手席を使用しないでください。
- 助手席シートに大人または大人に相当する体格の乗員が乗車していて、システムの自己診断後に助手席エアバッグオン表示灯が点灯し、点灯したままになる。これは、助手席エアバッグが有効であることを示しています。

子供が車両に乗車する場合は、「子供を乗せるとき」にある注意事項に従ってください（▶ 59 ページ）。

助手席エアバッグ自動解除システムに不具合がある場合は、メーターパネルの赤色の乗員保護補助装置警告灯  および助手席エアバッグオフ表示灯が同時に点灯します。この場合は、助手席エアバッグは無効になり、事故の際に作動しません。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。助手席シートは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ修理してください。

助手席シート、シート表皮またはシートクッションが損傷している場合は、必要な修理作業をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

安全上の理由から、メルセデス・ベンツでは、メルセデス・ベンツによりテストされ承認されたチャイルドセーフティシートのみを、助手席エアバッグ自動解除システムと組み合わせて使用することをお勧めします。

## システム自己診断

### 危険

システムの自己診断中に助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯が点灯しない場合は、システム

に不具合があります。助手席エアバッグが意図せずに作動したり、高い減速度を伴う事故の際に全く作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

この場合は、助手席シートを使用しないでください。助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けしないでください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ助手席エアバッグ自動解除システムの点検および修理を受けてください。

### 警告

システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席エアバッグは無効になっています。事故のときには作動しません。この場合は、助手席に乗員が着座しているときなどに、助手席エアバッグは意図した保護機能を発揮できません。

特にダッシュボードの非常に近くに乗員が着座している場合などは、車両のインテリアに接触するおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席に乗車しているときは、常に以下を確認してください。

- 助手席シートの人の分類が適正であり、助手席シートにいる乗員に応じて助手席エアバッグが有効または無効になっている
- 乗員が正しくシートベルトを着用して正しく着座している
- 助手席をできるだけ後方に移動している

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯してはいけないうちに点灯したままの場合は、助手席シートを使用しないでください。助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けしないでください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ助手席エアバッグ自動解除システムの点検および修理を受けてください。

 警告

シート表面とチャイルドセーフティシートとの間の物は、助手席エアバッグ自動解除システムの機能に影響を与えるおそれがあります。これにより、事故のときに助手席エアバッグが意図された機能を果たさなくなるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シート表面とチャイルドセーフティシートの上に物を置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面全体を助手席シートクッションに接触させる必要があります。前向きのチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接触させる必要があります。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

システムの自己診断後に、助手席エアバッグオフ表示灯または助手席エアバッグオン表示灯は助手席エアバッグの状況を示します (▶ 50 ページ)。

詳細な情報は"助手席エアバッグ自動解除システムのトラブル"をご覧ください (▶ 55 ページ)。

## 助手席エアバッグ自動解除のトラブル

"システムの自己診断"の注意事項に従ってください (▶ 53 ページ)。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>大人または大人に相当する体格の乗員が助手席シートに乗車していても、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままになる。</p>	<p>助手席シート乗員の検知が適切でない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 助手席シート乗員の検知の適切な条件が満たされていることを確認します (▶ 50 ページ)。</li> <li>▶ 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席シートは使用できません。</li> <li>▶ すみやかに助手席エアバッグ自動解除システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。</li> </ul>
<p>助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しない、および/または点灯したままにならない。</p> <p>助手席シートの状態：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 乗車していない</li> <li>• 後ろ向きチャイルドセーフティシートが取り付けられている</li> </ul>	<p>助手席エアバッグ自動解除システムに不具合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ シートとチャイルドセーフティシートの間にも何も挟まれていないことを確認してください。</li> <li>▶ チャイルドセーフティシートの底面全体が助手席シートのシートクッションに接触していることを確認してください。</li> <li>▶ チャイルドセーフティシートを取り付けるときは、シートベルトが締まっていることを確認します。助手席シートを調整して引くことにより、シートベルトを締めないでください。これにより、シートベルトおよびチャイルドセーフティシートが強く締めすぎのおそれがあります。</li> <li>▶ チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていることを点検します。</li> <li>▶ シートに余分な重量をかけている物がないことを確認してください。</li> <li>▶ 助手席エアバッグオフ表示灯が消灯したままの場合、および/または助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、後ろ向きチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けられないでください。チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。</li> <li>▶ すみやかに助手席エアバッグ自動解除システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。</li> </ul>

## シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

エアバッグの作動後は、エアバッグの部品が熱くなっています。けがの危険性があります。

エアバッグの部品に触れないでください。できるだけすみやかに、作動したエアバッグをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。


#### ⚠ 警告

作動した火薬式シートベルトテンショナーは作動しなくなり、意図した保護機能を発揮できなくなります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

したがって、作動した火薬式シートベルトテンショナーは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

事故後は車両をメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引することを、メルセデス・ベンツは推奨します。特にシートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開した場合は、このことを考慮してください。

PRE-SAFE®で使用されている電気モーターは、危険な状況でシートベルトの締め付けを行いません。この作動は何回でも行なわれます。

シートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開したときは、作動音が聞こえ、少量の粉末が放出されることもあります。乗員保護補助装置警告灯  が点灯します。

作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。一般に、放出される粉末は健康に害はありませんが、ぜんそくや肺疾患のある方は、この粉末により一時的に呼吸障害を起こすおそれがあり

ます。もし安全であるなら、呼吸障害を防止するため、すぐに車両から離れるか、窓を開けてください。

### 操作

衝突の初期段階の間、乗員保護補助装置のコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関する以下のような重要な物理的データの評価を行いません。

- 時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、乗員保護補助装置のコントロールユニットは正面衝突または追突の際にシートベルトテンショナーを作動させます。

シートベルトテンショナーは、以下の場合のみ作動します。

- イグニッションがオンである
- 乗員保護補助装置の構成部品が作動可能である。"乗員保護補助装置警告灯"をご覧ください。(▷ 41 ページ)
- ベルトプレートがフロントシートのそれぞれのベルトバックルに固定されている

後席のシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態とは独立して作動します。

乗員保護補助装置のコントロールユニットが特定の正面衝突など、非常に重大な事故を検知すると、乗員保護補助装置の追加構成部品が相互に関係なく作動します。

- フロントエアバッグと運転席ニーバッグ
- ウィンドウバッグは、作動によりシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断した場合

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両の場合：助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効

のいずれかになります。助手席エアバッグは、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合のみ、事故の際に作動します。助手席エアバッグ表示灯に関する情報に従ってください（p 41 ページ）。

お客様の車両には 2 段階式の運転席エアバッグが装備されています。最初の作動段階では、けがの危険性を減少させるために十分な火薬ガスで運転席エアバッグが充填されます。数ミリ秒以内に第 2 段階の作動基準に達すると、フロントエアバッグは最大限に膨らみます。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両のさまざまなポイントでの車両の減速度または加速度の評価に基づいて判断されます。この処理は事前に実行されます。作動/展開決定処理は、衝突の初期段階に適切なタイミングで行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝突の角度
- 車両の変形特性
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを作動させる基準とはなりません。

エアバッグが作動せずに車両が著しく変形することがあります。変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。反対に車両が軽度のみ変形したにも関わらず、エアバッグが作動することがあります。縦方向のボディメンバーなどの高剛性の部品が衝撃を受けたため、結果として大きな減速度が発生した場合などです。

乗員保護補助装置のコントロールユニットが側面衝突を検知した場合、乗員保護補助装置の適用される構成部品が、事故

の形態に応じて相互に独立して作動します。

- シートベルトテンショナーおよびシートベルトの使用に関係なく、衝撃が発生した側のサイドバッグ

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：助手席側のサイドバッグは以下の条件で作動します。

- 助手席シートで乗員が検知された、または
- ベルトプレートが助手席シートのベルトバックルに固定されている
- シートベルトの使用および助手席シートに乗員がいるかどうかに関係なく、衝撃が発生した側のウインドウバッグ
- シートベルトテンショナーは作動によりこの状況で乗員の保護機能を高めるとシステムが判断した場合

**i** 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

エアバッグシステムの作動は、検知された事故の大きさ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 正面衝突
- 側面衝突

## PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）

### はじめに

特定の危険な状況で、PRE-SAFE®は車両乗員を保護するために予防的な措置を行ないます。

### 重要な安全上の注意事項

**!** 足元やシートの背後に荷物などが置かれていないことを確認してください。

PRE-SAFE®を作動したとき、シートや物を損傷するおそれがあります。

車両に PRE-SAFE®が装備されていても、事故の際のけがの可能性をなくすることはできません。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分に安全な車間距離を保ってください。注意して運転してください。

## 機能

PRE-SAFE®は以下のときに作動します。

- BAS が作動しているときなど、緊急ブレーキの状況で
- 物理的な限界を超えて車両が著しくアンダーステアやオーバーステアになるなど、危機的な走行状況で
- ディストロニック・プラス装備車両：アダプティブブレーキアシストが強力に介入したとき

PRE-SAFE®は検知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトの張力をあらかじめ高めめます。
- 車両がスリップした場合は、サイドウィンドウが少しの間隙のみを残して閉じます。パノラミックスライディングルーフは完全に閉じます。
- メモリー機能付き車両：助手席シートが適切でない位置にある場合は調整されます。

事故につながることなく危険な状況が過ぎた場合は、PRE-SAFE®がシートベルトの張力を緩めます。PRE-SAFE®により行なわれたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まない場合：

- ▶ 車両が停止しているときに、シートバックレストまたはシートを後方に少し動かします。  
あらかじめ高められていたシートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルト調整は、PRE-SAFE®コンビニエンス機能の一部です。コンビニエンス機能についての情報は、「シートベルト調整」にあります (▶ 45 ページ)。

## 事故後の自動措置

衝突の種類および大きさによって、事故の後にはただちに以下の措置が行なわれません。

- 非常点滅灯が作動します
- 緊急時点灯機能が作動します
- 車両のドアが解錠されます
- フロントサイドウィンドウが下がります
- エンジンが停止して、燃料供給が中断します

## 事故の後で

### 事故の後で

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。
- ▶ 車両から出るときは乗員が危険にさらされていないことを確認してください。
- ▶ 危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。ガードレールなど

で区切られた安全な場所に乗員を退避させます。

- ▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

### 車両が動かなくなったとき：

- ▶ オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にシフトします。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。
- ▶ 安全な場所まで車両を押してください。必要な場合は、他の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

**i** イグニッションがオンで車輪が回転しているときは、車両は自動的に施錠されます。そのため、車両を押すときやダイナモメーターでテストを行なう場合は、閉め出される危険性があります。

**i** 踏切内で車両が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急な状況では、非常信号用具も使用してください。

## 子供を乗せるとき

### 重要な安全上の注意事項

事故の統計では、リアシートに固定された子供は助手席シートに固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。

一般的に、そこでは子供がより保護されるようになります。

年齢が 12 歳以下で、身長が 150 cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツ車に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応してははいけません。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、本項目の説明および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。
- 助手席エアバッグ自動解除システムの指示および安全上の注意事項に必ず注意してください(▶ 50 ページ)。

### ⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

### ⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

### ⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品

が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

すべての乗員がシートベルトを正しく着用し、正しく着座していることを必ず確認してください。特に子供には注意してください。

シートベルトについての安全上の注意事項 (▶ 42 ページ)、およびシートベルトの正しい使用についての情報 (▶ 43 ページ) に注意してください。

### チャイルドセーフティシート

後ろ向きチャイルドセーフティシートを中央のリアシートに取り付ける場合、リアアームをできるだけ後側に折りたたんでください。

チャイルドセーフティシートの正しい使用の指示に従ってください (▶ 65 ページ)。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します (▶ 69 ページ)。

#### ⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが適切なシート位置に正しく取り付けられていない場合は、意図した保護機能を発揮することができません。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに子供を保護することができません。これにより、けが

または致命的なけがの危険性が高まります。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用を常に遵守してください。チャイルドセーフティシートの底面全体が常にシートクッションに接触している事を確認してください。チャイルドセーフティシートの下または背面にクッションなどの物を置かないでください。チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正シートカバーを使用してください。損傷したカバーを取り替えるときは、必ず純正品を使用してください。

#### ⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていない、または固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに外れるおそれがあります。チャイルドセーフティシートが投げ出されて、乗員にぶつかるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

着座していないチャイルドセーフティシートも常に正しく取り付けてください。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

物、手荷物および貨物の確実な収納に関するさらなる情報は、「積載のガイドライン」にあります (▶ 226 ページ)。

#### ⚠ 警告

事故で負荷を受けたチャイルドセーフティシートやその固定装置は、意図した保護機能を発揮できないことがあります。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに、子供が保護されません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

事故で損傷したり、または負荷を受けたチャイルドセーフティシートはただちに交換してください。チャイルドセーフティシートを再度取り付けの前に、チャイルドセーフティシートの固定装置をメ

ルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

チャイルドセーフティシートの固定装置には、以下のものがあります。

- シートベルトシステム
- ISOFIX 固定リング
- テザーアンカー

やむを得ず助手席シートに子供を乗車させなければならないときは、「助手席シートのチャイルドセーフティシート」にある情報に従ってください(▷ 63 ページ)。車内およびチャイルドセーフティシートにある警告ラベルに注意してください。

**i** メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートを清掃するためには、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品を使用することをお勧めします。このことに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて入手できます。

### ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

#### ⚠ 警告

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートは、体重が 22 kg 以上でチャイルドセーフティシートに内蔵されたセーフティベルトを使用して固定されている子供には十分な保護効果をもたらしません。例えば、事故のときに子供が正しく固定されないなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

子供の体重が 22 kg 以上の場合は、必ず子供が車両のシートベルトでも固定される ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。使用可能であれば、チャイルドセーフティシートをテザーアンカーベルトでも固定してください。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および使用指示、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用についての指示に従っていることを確認してください(▷ 65 ページ)。各走行前に、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートが両方の ISOFIX 固定リングに正しく固定されていることを確認します。

**!** チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央リアシートのシートベルトを挟み込まないように注意してください。シートベルトが損傷するおそれがあります。



① ISOFIX 固定リング

▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを左右の ISOFIX 固定リング ①に取り付けます。

ISOFIX は、リアシート用に規格化され、専用設計されたチャイルドセーフティシートの固定システムです。2 つの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用の ISOFIX 固定リング ①は、リアシートの左および右に取り付けられています。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に対応していないチャイルドセーフティシートは、車両のシートベルトで固定してください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および使用指示、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に

ついでにの指示に従っていることを確認してください (▷ 65 ページ)。

## テザーアンカー

### はじめに

テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと車両の間を補助的に接続します。これにより、けがの危険性をさらに低減する効果を高めます。チャイルドセーフティシートにテザーアンカーベルトが装備されている場合は、常に使用してください。

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

リアシートのバックレストが固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに前に倒れるおそれがあります。結果として、チャイルドセーフティシートが意図した保護機能を発揮できません。固定されていないリアシートのバックレストは、事故のときなどにさらなるけがの原因となるおそれもあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

テザーアンカーベルトを取り付けた後は、常にリアシートのバックレストを固定してください。ロック確認インジケータに注意してください。垂直位置になるようにリアシートのバックレストを調整します。

後席のバックレストが固定されておらず、ロックされていない場合は、赤色のロック確認インジケータが表示されます (▷ 228 ページ)。

## テザーアンカー



テザーアンカーは、左右外側リアシートのバックレスト背面にあります。



- ▶ ヘッドレスト ① を上方に動かします。
  - ▶ リアシートのバックレスト ③ のロックを解除して、前方に倒します (▷ 228 ページ)。
  - ▶ ヘッドレスト ① 下の 2 本のヘッドレストの支柱の間にテザーアンカーベルト ⑥ を通します。
  - ▶ テザーアンカーベルト ⑥ のテザーアンカーフック ⑤ をテザーアンカー ④ に掛けます。
- 以下を確認します。

- 示すように、テザーアンカーフック ⑤ がテザーアンカー ④ に掛かっている。
- テザーアンカーベルト ⑥ がねじれていない。
- ラグジュアリールームカバー ② が装着されている場合は、テザーアンカーベル

ト ⑥ がリアシートのバックレスト ③ とラゲッジルームカバー ② の間を通っている。

- セーフティネットが装着されている場合は、テザーアンカーベルト ⑥ がリアシートのバックレスト ③ とセーフティネットの間を通っている。

- ▶ 固定されるまでリアシートのバックレスト ③ を元に戻します。  
赤色のロック確認インジケーターが見えなくなります。
- ▶ テザーアンカーを装備した ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。そうするときは、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に従ってください。
- ▶ テザーアンカーベルト ⑥ を張ります。そうするときは、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に従ってください。
- ▶ 必要に応じて、ヘッドレスト ① を再度少し下に動かします (▶ 104 ページ)。テザーアンカーベルト ⑥ の正しい取り回しを妨げていないことを確認してください。

### 助手席のチャイルドセーフティシート

#### 全体的な注意事項

事故の統計では、リアシートに固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：やむを得ず助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は常に、「助手席エアバッグ自動解除システム」にある情報に従ってください (▶ 50 ページ)。

このようにして、以下のために発生するおそれのある危険性を防ぐことができます：

- 助手席エアバッグ自動解除システムによって検知されないチャイルドセーフティシート
- 助手席エアバッグの意図しない無効化
- ダッシュボードのすぐ近くなど、チャイルドセーフティシートの不適切な位置



助手席側サンバイザーの警告ステッカーに従ってください。イラストを参照してください。

#### ⚠ 警告

助手席に子供を後ろ向きのチャイルドセーフティシートに固定し、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

前方にある有効なエアバッグにより保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。子供に致命的な、または重大なけがを引き起こすことがあります。

助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグは有効になっています (▷ 41 ページ)。

### 助手席エアバッグ自動解除システム非装備車両



車両の助手席シートに助手席エアバッグ自動解除システムがない場合は、専用のステッカーによって示されます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開いたときに、このステッカーが見えます。エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわしたときに、助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯が短時間点灯します。ただし機能はなく、助手席エアバッグ自動解除システムが装備されていることは示していません。

この場合は常に、後ろ向きチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに取り付けてください (▷ 65 ページ)。

"後ろ向きチャイルドセーフティシート" および "前向きチャイルドセーフティシート" にある情報、ならびにチャイルドセーフティシートの適切な位置についての情報に従ってください (▷ 65 ページ)。

### 後ろ向きチャイルドセーフティシート

やむを得ず助手席に後ろ向きチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は、助手席エアバッグが無効になっていることを必ず確認してくださ

い。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合にのみ (▷ 41 ページ)、助手席エアバッグは無効になっています。チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置についての情報に常に従ってください (▷ 65 ページ)。

### 前向きチャイルドセーフティシート

やむを得ず前向きチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けなければならない場合は、助手席シートをできるだけ後方の位置に動かしてください。チャイルドセーフティシートの底面全体が、常に助手席シートクッションに接していなければなりません。チャイルドセーフティシートのバックレストが、助手席シートバックレストにできるだけ均一に接していなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。肩部分のシートベルトが、車両のベルト引き出し口からチャイルドセーフティシートの肩ベルトのガイドに向けて正しく取り回されていることを必ず確認してください。肩部分のシートベルトは、車両のベルトガイドから前方および下方に取り回されていない必要があります。必要な場合は、車両のベルトガイドと助手席シートを適切に調整します。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置についての情報に常に従ってください (▷ 65 ページ)。

## チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

### はじめに

車両には、欧州経済共同体基準 ECE R44 により承認されたチャイルドセーフティシートのみを装着してください。

体重カテゴリー III のいくつかのチャイルドセーフティシートでは、このことにより使用範囲が制限されることがあります。ルーフへの接触の可能性により、チャイルドセーフティシートを最大サイズに設定することができません。

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルと "universal" の文字で判別できます。



例：チャイルドセーフティシートの認証ラベル

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、"ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性" または "ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート装着のためのシートの適合性" の表に従って、U、UF または IUF と表示されたシートで使用できます。

セミユニバーサルチャイルドセーフティシートは、認可ラベルの "semi-universal" の文字で示されています。これらは、車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合に使用できます。

さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにご連絡いただくか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

**助手席シートのチャイルドセーフティシート** - やむを得ず助手席シートのチャイルドセーフティシートに子供を固定する必要がある場合：

▶ "助手席シートでのチャイルドセーフティシート" にある指示に常に注意してください (▷ 63 ページ)。

指示には肩部分のストラップを車両のベルトガイドからチャイルドセーフティシートの肩部分のベルトガイドに向けて正しく取り回す方法に関する説明があります (▷ 64 ページ)。

▶ 助手席シートをできるだけ後方に移動してください。

助手席シートの前向きチャイルドセーフティシートに子供を固定する場合は、助手席シートも最も高い位置に動かします。

▶ バックレストをほぼ垂直の位置に動かします。

チャイルドセーフティシートの底面全体が、常に助手席シートクッションに接していなければなりません。前向きチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接していなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にも注意してください。

▶ 可能な場合は、シートクッションの角度を最も高く、および最も垂直の位置に動かします (▷ 104 ページ)。

リアシートにチャイルドセーフティシートを装着する

- ▶ リアシートのバックレストをほぼ垂直の位置に動かします(▷ 230 ページ)。

## ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー 0 または 0+ のベビーカーシート、またはカテゴリー I の後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、シートがチャイルドセーフティシートに接触しないように、運転席または助手席シートを調整しなければなりません。

カテゴリー I の前向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、可能な場合は、対応するシートのヘッドレストを取り外さなければなりません。チャイルドセーフティシートのバックレストは、シートのバックレストにできるだけ接していなければなりません。

"チャイルドセーフティシート" の項目 (p. 60 ページ) およびチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある注意事項に常に従ってください。

チャイルドセーフティシートを取り外したときは、ただちにヘッドレストを再度取り付けなければなりません。走行を開始する前に、すべての乗員がヘッドレストを正しく調整しなければなりません。

表の凡例

- X この体重カテゴリーの子供に適合していないシート。
- U この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合。
- UF この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーに属する前向きチャイルドセーフティシートに適合。
- L 推奨チャイルドセーフティシートに適合。"推奨チャイルドセーフティシート" の表をご覧ください (p. 69 ページ)。車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに掲載されている場合、セミユニバーサルチャイルドセーフティシートに適合。

### 助手席シート

体重カテゴリー		助手席エアバッグが有効	助手席エアバッグが無効
0	10 kg 以下	X	U <sup>1</sup> 、L <sup>1</sup>
0+	13 kg 以下	X	U <sup>1</sup> 、L <sup>1</sup>
I	9 kg ~ 18 kg	UF、L	U <sup>1</sup> 、L <sup>1</sup>
II	15 kg ~ 25 kg	UF、L	UF、L
III	22 kg ~ 36 kg	UF、L	UF、L

<sup>1</sup> 車両には助手席フロントエアバッグ自動解除システムが装備されています。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

## リアシート

体重カテゴリー		左、右	センター
0	10 kg 以下	U、L	U <sup>2</sup> 、L <sup>2</sup>
0+	13 kg 以下	U、L	U <sup>2</sup> 、L <sup>2</sup>
I	9 kg ~ 18 kg	U、L	U <sup>2</sup> 、L <sup>2</sup>
II	15 kg ~ 25 kg	U、L	X
III	22 kg ~ 36 kg	U、L	X

## ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー0または0+のベビーカーシート、またはカテゴリーIの後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、シートがチャイルドセーフティシートに接触しないように、運転席または助手席シートを調整しなければなりません。

カテゴリーIの前向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、可能な場合は、対応するシートのヘッドレストを取り外さなければなりません。チャイルドセーフティシートのバックレストは、シートのバックレストにできるだけ接していなければなりません。

"チャイルドセーフティシート"の項目 (▷ 60 ページ) およびチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある注意事項に常に従ってください。

チャイルドセーフティシートを取り外したときは、ただちにヘッドレストを再度取り付けなければなりません。走行を開始する前に、すべての乗員がヘッドレストを正しく調整しなければなりません。

## 表の凡例

- X この体重カテゴリーおよび/またはサイズカテゴリーで、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合していない ISOFIX の位置。
- IUF この体重カテゴリーでの使用に適合する "ユニバーサル" カテゴリーに属する前向き ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に適合。
- II 推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表"推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 69 ページ) をご覧ください。  
メーカーは、適合している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートも推奨しています。そのためには、お客様の車両とシートがチャイルドセーフティシートメーカーのモデルリストに掲載されていなければなりません。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにご連絡いただくか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

2 サポートブラケット付きのチャイルドセーフティシートはこのシートには適していません。

体重カテゴリー		サイズカテゴリー	装備	リアシート 左/右
幼児用ベッド		F	ISO/L1	X
		G	ISO/L2	X
0	10 kg 以下 約 6 ヶ月以下	E	ISO/R1	IL
0+	13 kg 以下 約 15 ヶ月以下	E	ISO/R1	IL
		D	ISO/R2	IL
		C	ISO/R3	IL <sup>3</sup>
I	9 kg ~ 18 kg 約 9 ヶ月~4 歳	D	ISO/R2	IL
		C	ISO/R3	IL <sup>3</sup>
		B	ISO/F2	IUF
		B1	ISO/F2X	IUF
		A	ISO/F3	IUF

チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっているはいけません。それに応じて、ヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示にも注意してください。

### 推奨チャイルドセーフティシート

#### 全体的な注意事項

"助手席のチャイルドセーフティシート" (▷ 63 ページ) および"チャイルドセーフティシートの適切な位置" (▷ 65 ページ) の情報に常に注意してください。

適切なチャイルドセーフティシートについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

3 サイズカテゴリー C (ISO/R3) のチャイルドセーフティシートを使用している場合は、フロントシートバックレストがチャイルドセーフティシートに負荷をかけていないことを確認してください。

## 車両のシートベルトに装着する推奨チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 (A 000 ...) <sup>4</sup>
カテゴリー 0： 10 kg 以下 約 6 ヶ月以下	Britax Römer	ベビーセー フプラス II	04 301 146	970 20 00
カテゴリー 0+： 13 kg 以下 約 15 ヶ月以下	Britax Römer	ベビーセー フプラス II	04 301 146	970 20 00
グループ I：9 kg ～ 18 kg 約 9 ヶ月～4 歳	Britax Römer	デュオプラ ス	03 301 133 04 301 133	970 16 00
グループ II/III： 15 kg ～ 36 kg 約 4～12 歳	Britax Römer	KIDFIX <sup>5</sup>	04 301 198	970 19 00

## 推奨される"ユニバーサル"/"セミユニバーサル" カテゴリーの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー	サイズカテゴリー	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 <sup>4</sup>
カテゴリー 0+： 13kg 以下	E	Britax Römer	ベビーセー フプラス	03 301 146 04 301 146	B6 6 86 8224
カテゴリー I： 9 kg ～ 18 kg	B1	Britax Römer	デュオプラ ス	03 301 133 04 301 133	A 000 970 16 00

<sup>4</sup> カラーコード 9H95。

<sup>5</sup> KIDFIX チャイルドセーフティシートを車両に装着する前に、必ずチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。これには装着オプションに関する注意事項も含まれます。

## チャイルドブルーロック

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

子供を車両に乗せて走行している場合は、以下のおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、対向交通にぶつかる
- 例えば、車両装備を操作して挟まれる事故やけがの危険性があります。

子供を車両に乗せて走行する場合は、使用可能なチャイルドブルーロックを常に作動させてください。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

以下のチャイルドブルーロック機能：

- リアドア (▷ 71 ページ)
- リアサイドウインドウ (▷ 72 ページ)

#### ⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

#### ⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に

子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

#### ⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

## リアドアのチャイルドブルーロック



リアドアのチャイルドブルーロックで、各ドアを個別にロックできます。チャイルドブルーロックでロックされているドアは、車内から開くことができません。車両が解錠されているときは、車外からドアを開くことができます。

- ▶ **設定する**：チャイルドブルーロックレバーを矢印の方向 ① に押し上げます。
- ▶ チャイルドブルーロックが正常に作動していることを確認します。
- ▶ **解除する**：チャイルドブルーロックレバーを矢印の方向 ② に押し下げます。

### リアサイドウィンドウのチャイルドブルーロック機能



- ▶ **設定/解除する**：スイッチ ① を押しします。  
表示灯 ② が点灯している場合は、リアサイドウィンドウの操作はできません。運転席ドアのスイッチを使用するのみ、操作が可能です。表示灯 ② が消灯している場合は、後席のスイッチを使用するの操作が可能です。

### ペットを乗せるとき

#### ⚠ 警告

ペットを車内に放置または固定していない場合、ボタンやスイッチを押してしまう場合があります。

その結果：

- 車両装備を作動させて、挟まれる
- システムをオンまたはオフにして、他の道路交通者を危険にさらす

さらに、事故の際やステアリングを切ったとき、急ブレーキをかけたときに、ペットが投げ飛ばされ、乗員が負傷するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

けっしてペットを車内に放置しないでください。走行中は、適切なキャリーなどを使用して、ペットを必ず正しく固定してください。

### 走行安全システム

#### 走行安全システムの概要

この項目には、以下の走行安全システムについての情報があります。

- ABS (Anti-lock Braking System：アンチロック・ブレーキング・システム) (▶ 73 ページ)
- BAS (Brake Assist System：ブレーキアシスト) (▶ 73 ページ)
- CPA プラス (緊急ブレーキ機能) (▶ 74 ページ)
- アダプティブブレーキライト (▶ 77 ページ)
- ESP® (Electronic Stability Program：エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) (▶ 77 ページ)
- EBD (Electronic Brake force Distribution：エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション) (▶ 80 ページ)
- アダプティブブレーキ (▶ 80 ページ)
- ステアコントロール (▶ 80 ページ)

#### 重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になっているとき走行安全システムは、物理的限界を超えて事故の危険性を低減することができません。走行安全システムは、運転の補助のために設計さ

れた単なる支援に過ぎません。運転者は、先行車両との距離の維持、車両速度、適時のブレーキ操作および車線の維持に対する責任があります。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。


記載されている走行安全システムは、タイヤと路面との間に十分な接触があるときにのみ、可能な限り効果的に作動します。"タイヤとホイール"の項目にあるタイヤ、および推奨されるタイヤトレッドの最小深さなどについての情報に特に注意してください (p 274 ページ)。

冬季の走行状況では、常にウィンタータイヤ (M+S タイヤ) を、必要な場合はスノーチェーンを使用してください。このようにすることでのみ、本項目に記載されている走行安全システムが可能な限り効果的に作動します。

## ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)

### 全体的な注意事項

ABS は、ブレーキを効かせたときに車輪がロックしないようにブレーキ圧を制御します。これにより、ブレーキを効かせているときに、ステアリング操作を続けることができます。

メーターパネルの ABS 警告灯  は、イグニッションをオンにすると点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。

### 重要な安全上の注意事項

**i** "重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください (p 72 ページ)。

### ▲ 警告

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。さらに、他の走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。

注意して運転してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で ABS の点検をしてください。

ABS が故障している場合は、走行安全システムを含めた他のシステムも作動しません。ABS 警告灯 (p 192 ページ) とメーターパネルに表示されるディスプレイメッセージ (p 176 ページ) についての情報に従ってください。

路面の状況に関わらず、ABS は約 8 km/h の速度から作動します。滑りやすい路面では、軽くブレーキを効かせただけでも ABS は作動します。

### ブレーキ

▶ **ABS が作動した場合**：ブレーキ操作の状況が終わるまで、ブレーキペダルをいっぱい力で踏み続けてください。

▶ **急ブレーキを効かせる**：ブレーキペダルをいっぱい力で踏んでください。

ブレーキ時に ABS が作動した場合は、ブレーキペダルに小刻みな振動を感じます。

ブレーキペダルの小刻みな振動は、危険な路面状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

## BAS (ブレーキアシスト)

### 全体的な注意事項

BAS は、緊急ブレーキ状態で作動します。ブレーキペダルを急に踏んだ場合は、

BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

## 重要な安全上の注意事項

① "重要な安全上の注意事項"に従ってください (p 72 ページ)。

### 警告

BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

## ブレーキ

▶ 緊急ブレーキ状態が終わるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。BAS は解除されます。

## CPA プラス (緊急ブレーキ機能)

### 全体的な注意事項

CPA プラス (緊急ブレーキ機能) は、自動緊急ブレーキ機能を備えた車間距離警告機能およびアダプティブブレーキアシストから構成されます。

CPA プラス (緊急ブレーキ機能) は、先行車両との衝突の危険性を最小限にする、またはそのような衝突の影響を低減する支援をします。

CPA プラス (緊急ブレーキ機能) が衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。運転者が視覚的および聴覚的な衝突警告に反応しなかった場合は、危険な状況になると自動ブレーキが作動します。危険な状況で運転者自身がブレーキを効かせ

た場合は、CPA プラス (緊急ブレーキ機能) のアダプティブブレーキアシストが運転者を支援します。

## 重要な安全上の注意事項

特に以下のときは、障害物の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などでの、強いレーダー反射がある
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- 新車である、または CPA プラス (緊急ブレーキ機能) の点検整備後である慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください (p 128 ページ)。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

## 車間距離警告機能

### 重要な安全上の注意事項

① 走行安全システムの"重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください (p 72 ページ)。

### 警告

車間距離警告機能は、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、車間距離警告機能はすべての危険な状況で警告を行うとは限りません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

### ⚠ 警告

車間距離警告機能は、常に障害物および複雑な交通状況を明確に識別できるわけではありません。

そのような場合は、車間距離警告機能は以下になることがあります。


- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない


事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車間距離警告機能のみに頼らないでください。

### 機能

▶ **設定/解除する**：マルチファンクションディスプレイで車間距離警告機能を作動または解除します(▷ 174 ページ)。


**白黒マルチファンクションディスプレイ装備車両**：車間距離警告機能が設定されているときは、マルチファンクションディスプレイのステータス一覧に  マークが表示されます。


**カラーマルチファンクションディスプレイ装備車両**：車間距離警告機能が解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に  マークが表示されます。

車間距離警告機能は、先行車両と衝突する危険性を最小限にし、またはそのような衝突の影響を低減させるために運転者を支援します。車間距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。

車間距離警告機能は、以下の速度で警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上で、前方を走行している車両との間に保たれて

いる車間距離が数秒間にわたり不十分な場合。メーターパネルの車間距離警告灯  が点灯します。

- 約 7 km/h またはそれ以上で、先行車両に急激に接近した場合。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの車間距離警告灯  が点灯します。

▶ 先行車両との車間距離を広げるために、ただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

システムの特性により、危険ではないけれど、特に複雑な走行状況もシステムが警告を表示する原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの支援で、車間距離警告機能は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

約 70 km/h 以下の速度では、車間距離警告機能は、停止しているまたは、駐車している車両のような静止物にも反応できます。

障害物に接近し、車間距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的の両方で運転者に警告を行ないます。

### 自動ブレーキ機能

危険な状況で運転者が車間距離警告信号に反応しなかった場合は、自動ブレーキ機能により、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）は運転者の支援を行ないます。

自動ブレーキ機能

- 危険な運転状況に運転者が反応できる、さらなる時間を確保します
- 運転者の衝突回避を支援します、または
- 事故の被害を低減します

**ディストロニック・プラス非装備車両：**  
自動ブレーキ機能は、以下の速度範囲で作動します。

- 動いている障害物には、7~105 km/h
- 静止している障害物には、7~50 km/h

**ディストロニック・プラス装備車両：**自動ブレーキ機能は、以下の速度範囲で作動します。

- 動いている障害物には、7~200 km/h
- 静止している障害物には、7~50 km/h

自動ブレーキ機能が特に強力な制動力を要求している場合は、PRE-SAFE® (予期乗員保護措置) が同時に作動します。

### アダプティブブレーキアシスト

**i** "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (▷ 72 ページ)。

アダプティブブレーキアシストは、7 km/h 以上の速度での危険な状況で、ブレーキ操作の支援を行ないます。レーダーセンサー技術を利用して交通状況を評価します。

#### ⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは、障害物や複雑な交通状況を常に明確に識別できるとは限りません。

そのような場合は、アダプティブブレーキアシストは以下を行なうことがあります。

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

#### ⚠ 警告

アダプティブブレーキアシストは以下には反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差交通
- カーブを走行するとき

そのため、アダプティブブレーキアシストはすべての危機的な状況で作動しない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。

システムの特性により、危険ではないけれど、特に複雑な走行状況もブレーキアシストが介入する原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが使用できない場合は、ブレーキシステムは完全なブレーキ倍力効果および BAS とともに使用可能なままになります。

アダプティブブレーキアシストの補助で、車間距離警告信号は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。アダプティブブレーキアシストが先行車両との衝突の危険性を検知した場合は、衝突を避けるために必要な制動力を算出します。ブレーキを強く効かせた場合は、アダプティブブレーキアシストは交通状況に適したレベルまで制動力を自動的に増加させます。

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の場合、ブレーキは再度通常通り作動します。

- ブレーキペダルを放した
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

アダプティブブレーキアシストが特に高い制動力を必要とする場合は、PRE-SAFE®（予期乗員保護措置）が同時に作動します。

約 250 km/h の速度までは、検知期間の間に 1 度は検知された動いている障害物にも、アダプティブブレーキアシストは反応できます。

約 70 km/h の速度までは、アダプティブブレーキアシストは静止している障害物に反応できます。

### アダプティブブレーキライト

アダプティブブレーキライトは緊急ブレーキの状況で以下のように後続の車両に警告します。

- ブレーキライトを点滅させます
- 非常点滅灯が作動します

50 km/h 以上の速度から車両に急ブレーキを効かせた場合または、BAS または BAS プラスによりブレーキ操作が支援された場合は、ブレーキライトが素早く点滅します。このようにして、より注意を喚起する方法で後方の車両に警告を行ないます。

70 km/h 以上の速度から停止するまで急ブレーキを効かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。再度ブレーキを効かせた場合は、ブレーキライトは点灯し続けます。10 km/h 以上で走行した場合は、非常点滅灯は自動的に解除されます。非常点滅灯スイッチ（▷ 108 ページ）を使用して非常点滅灯を解除することもできます。

### ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

#### 全体的な注意事項

① "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください（▷ 72 ページ）。

ESP® は走行安定性、およびタイヤと路面の間のトラクション、すなわち駆動系部品をモニターします。

車両の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると ESP® が判断した場合は、1 本または複数の車輪にブレーキを効かせ、車両を安定させます。また、エンジン出力を調整して、物理的な限界の範囲で望む方向に車両の向きを保つように作動します。ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作を支援します。ESP® は、ブレーキ時の車両を安定させることもできます。

### ETS/4ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）

① "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください（▷ 72 ページ）。

ETS トラクションコントロールは、ESP®の一部です。4MATIC 装備車両では、4ETS は ESP®の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転した場合に、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などでの発進や加速を可能にします。さらに、1 本または複数の駆動力のかかる車輪にさらなる駆動トルクが伝達されます。

ESP®を解除した場合でも、トラクションコントロールは設定されたままになります。


#### 重要な安全上の注意事項



① "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください（▷ 72 ページ）。

**△ 警告**

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で ESP®の点検を受けてください。

ESP®が解除されると、ESP®解除警告灯  が点灯し続けます。



警告灯  および警告灯  が点灯し続ける場合は、故障により ESP®は作動しません。

警告灯 (p 195 ページ) とメーターパネル (p 176 ページ) に表示されるディスプレイメッセージに関する情報に従ってください。

以下の場合、マルチファンクションディスプレイに故障および警告のメッセージが表示されることがあります。

- 立体駐車場などのターンテーブルで車両を回転させた、そして
  - 車両が動いている
  - ECO スタートストップ機能が作動している
- 立体駐車場に進入するときなど、長く狭いらせん状の走行路を走行した


以下のような警告灯も点灯することがあります。

- ESP®警告灯  または
- ABS 警告灯 
- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。
- ▶ イグニッションをオフにします。
- ▶ エンジンを再始動してください。しばらくすると、メッセージが消え、警告灯が消灯します。そうでない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で原因を調査してください。

推奨されたタイヤサイズの車輪のみを使用してください。そのときにのみ、ESP®は正しく機能します。

**ESP®の特性****全体的な注意事項**

走行を開始する前に ESP 警告灯  が消灯した場合は、ESP®が自動的に設定されています。

ESP®が作動した場合は、メーターパネルの ESP®警告灯  が点滅します。

ESP®が作動した場合：

- ▶ どのような状況でも ESP®を解除しないでください。
- ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- ▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

**ECO スタートストップ機能**

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると自動的にエンジンを停止します。再度発進するとき、エンジンは自動的に始動します。ESP®は、以前の設定状況のままになります。**例：**エンジンを停止する前に ESP®が解除されていた場合は、エンジンを再度始動したときに ESP®は解除されたままになります。

**ESP®の解除/設定****重要な安全上の注意事項**

**i** "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (p 72 ページ)。

以下の ESP®の状態を選択することができます。

- ESP®が設定されている。
- ESP®が解除されている。

**△ 警告**

ESP<sup>®</sup>を解除すると、ESP<sup>®</sup>は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP<sup>®</sup>を解除してください。

以下の状況では、ESP<sup>®</sup>を解除したほうがよいことがあります。

- スノーチェーンを使用しているとき
- 深い雪道で
- 砂地または砂利道で

**i** 上記に記載されているような状況が適用されなくなったら、ただちに ESP<sup>®</sup>を設定してください。さもないと、車両が横滑りしたり車輪が空転し始めたりしたときに、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

**ESP<sup>®</sup>の解除/設定**

マルチファンクションディスプレイで、ESP<sup>®</sup>を解除または設定することができます(▶ 174 ページ)。


**ESP<sup>®</sup>を解除した：**

メーターパネルの ESP<sup>®</sup>解除警告灯  が点灯します。

**ESP<sup>®</sup>を設定した：**

メーターパネルの ESP<sup>®</sup>解除警告灯  が消灯します。

**ESP<sup>®</sup>が解除されているときの特性**

ESP<sup>®</sup>が解除されている場合、1本または複数の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP<sup>®</sup>警告灯  が点滅します。このような状況では、ESP<sup>®</sup>は車両を安定させることができません。

ESP<sup>®</sup>を解除した場合は：

- ESP<sup>®</sup>は、走行安全性を向上させなくなります。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。  
やわらかい路面では、車輪の空転で路面を掘る動作により、より良い駆動力につながります。
- トラクションコントロールは作動したままになります。
- ブレーキを効かせたときは、ESP<sup>®</sup>は支援を行ないます。

**ESP<sup>®</sup>トレーラーстаビライゼーション****全体的な注意事項**

トレーラー連結車両が急に傾き始めた場合は、この状況で ESP<sup>®</sup>が運転者を支援します。ESP<sup>®</sup>は、トレーラー連結車両が安定するまでブレーキを効かせ、エンジン出力を制限することにより、車両を減速させます。

**重要な安全上の注意事項****△ 警告**

道路および天候の状況が悪い場合は、トレーラーстаビライゼーションは車両/トレーラーの連結が急に逸脱することを防ぐことはできません。重心の高いトレーラーは、ESP<sup>®</sup>がこれを検知する前に横転することがあります。事故の危険性があります。

常に路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。

トレーラー連結車両が急に傾き始めた場合は、ブレーキをしっかりと踏むことのみにより、トレーラー連結車両を安定させることができます。

ESP®トレーラースタビライゼーションは、約 65 km/h 以上の速度で作動します。

ESP® が解除されているか、または故障のために使用できない場合は、ESP® トレーラースタビライゼーションは作動しません。

## EBD (エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション)

### 全体的な注意事項

EBD は、後輪のブレーキ圧をモニターしてコントロールを行ない、ブレーキ時の走行安定性を高めます。

### 重要な安全上の注意事項

**i** "重要な安全上の注意事項"の項目に注意してください (▷ 72 ページ)。

#### 警告

EBD が故障した場合には、急ブレーキ時には後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場ではブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯 (▷ 192 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 180 ページ) についての情報に注意してください。

## アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作をもたらします。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 158 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 133 ページ) も備えています。

## ステアコントロール

### 全体的な注意事項

ステアコントロールは、車両を安定させるために必要な向きの操舵力をステアリングに伝達することにより運転者を支援します。

操舵支援は、特に以下の場合に行なわれません。

- ブレーキ時に、両方の右側車輪または両方の左側車輪が濡れた、または滑りやすい路面にある
- 車が横滑りをし始めた

### 重要な安全上の注意事項

**i** "重要な安全上の注意事項"の項目に従ってください (▷ 72 ページ)。

以下の場合、ステアコントロールによる操舵支援は行なわれません。

- ESP® が故障している
- ステアリングが故障している

ESP® が故障したときは、電動パワーステアリングが運転操作をアシストします。

## 盗難防止

### イモビライザー

イモビライザーにより、正規のキー以外で車両を始動することを防止します。

- ▶ **キーで待機状態にする**：エンジンスイッチからキーを取り外します。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー操作で待機状態にする**：イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。
- ▶ **解除する**：イグニッションをオンにします。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。有効な

キーが車内に残されている場合は、誰でもエンジンを始動することができます。

① イモビライザーは、エンジンを始動すると必ず解除されます。

### ATA (盗難防止警報システム)



▶ **待機状態にする**：キー、またはキーレスゴーで車両を施錠します。

表示灯 ① が点滅します。約 15 秒後に警報システムが待機状態になります。



▶ **解除する**：リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を解錠します。

または

▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。

システムが待機状態で以下を開いた場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます。

- ドア
- エマージェンシーキーで車両
- テールゲート
- ボンネット

▶ **キーで警報を停止する**：キーの  または  スイッチを押します。警報が停止します。

または

▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車両**：イグニッション

ロックからキーレスゴースイッチを取り外します (▶ 129 ページ)。

▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。警報が停止します。

▶ **キーレスゴーを使用して警報を停止する**：車外のドアハンドルを握ります。キーは車外にある必要があります。警報が停止します。

または

▶ ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。警報が停止します。

警報を作動させた開いたドアを閉じても、警報は解除されません。

### 室内センサー

#### 機能

室内センサーが待機状態のときに車内で動きが検知された場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます。例えば、誰かが車内に手を伸ばした場合などに起こります。

#### 待機状態にする

- ▶ 以下を確認してください。
- サイドウィンドウが閉じている
  - パノラミックスライディングルーフが閉じている
  - ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの物が掛かっていない
- このことは、警報の誤作動を防ぎます。
- ▶ 以下を確認してください。

- ドアが閉じている
  - パノラミックスライディングルーフが閉じている
  - テールゲートが閉じている
- この後にのみ、室内センサーは待機状態になります。
- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。  
約 30 秒後に、室内センサーは待機状態になります。

### 解除する

- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を解錠します。
- または
- ▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。
- または
- ▶ キーレスゴースイッチを押します。  
キーは車内にある必要があります。  
室内センサーが自動的に解除されます。

### 解除する



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- または
- ▶ キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車両：キーレスゴースイッチを使用してエンジンをオフにして、運転席ドアを開きます。

- ▶ スイッチ ① を押します。  
表示灯 ② が素早く続けて数回点滅します。
- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。  
室内センサーが解除されます。

室内センサーは以下のときまで解除されずのままになります。

- 車両を再度解錠し、
  - ドアを再度開いて閉じ、
  - 車両を再度施錠する
- 誤った警報を防止するため、以下のような状況で車両を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。
- 車内に人や動物が残ったままである
  - パノラミックスライディングルーフが開いたままである
  - サイドウインドウが開いたままである

役に立つ情報 .....	84
キー .....	84
ドア .....	92
ラゲッジルーム .....	93
サイドウインドウ .....	95
パノラミックスライディングルー フ .....	96

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 26 ページ)

## キー

## 重要な安全上の注意事項

## ⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

## ⚠ 警告

キーに、重い物や大きなアクセサリ等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。

そのため、エンジンが停止するおそれがあります。事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリ等を付けしないでください。操作の邪魔になるアクセサリ等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

**!** 強い磁場を発生する物の近くにキーを保管しないでください。磁場の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い磁場は、強力な電気設備の近くで発生します。

以下にはキーを近づけないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- 硬貨や金属片などの金属物
- 金属ケースなどの金属物の内部

**キーレスゴースタート機能装備車両：** ラゲッジルームにキーを保管しないでください。さもないと、キーレスゴースイッチを使用してエンジンを始動するときなどに、キーが検知されないことがあります。

## キーの機能



①  車両の施錠

②  車両の解錠

解錠して約 40 秒以内に車両を開かなかった場合、車両は再度施錠されます。

解錠して約 40 秒以内に車両を開かなかった場合：

- 車両を再度施錠した
  - 盗難防止が再設定されます
- ▶ **集中施錠する**：スイッチ ① を押しします。

キーにより、以下が集中施錠/解錠されます。

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油口フラップ

解錠したときは、方向指示灯が 1 回点滅します。施錠したときは、3 回点滅します。

❶ COMAND システム経由でロケータライティングが作動する設定にしているときは、暗いときにリモコンを使用して車両を解錠すると点灯します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

❶ 車両が施錠されたことを確認するための、確認音を設定することもできます。確認音は、マルチファンクションディスプレイを使用して、設定または解除することができます（▶ 174 ページ）。

## キーレスゴー

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴーを使用するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。


車両を操作する前に、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。



- キーレスゴーアンテナの検知範囲
- ① 右側外部アンテナの検知範囲
  - ② 左側外部アンテナの検知範囲
  - ③ リアアンテナの検知範囲
  - ④ 車内アンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

### 集中施錠および解錠

キーレスゴーを使用して、車両の始動、施錠または解錠ができます。このために必要なのはキーを携帯することのみです。キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせることができます。例えば、キーレスゴーを使用して車両を解錠し、キーの  スイッチを使用して施錠することができます。

運転席ドアおよび使用するハンドルのあるドアが両方とも閉じている必要があります。キーは車外にある必要があります。キーレスゴーで施錠または解錠するときは、キーと対応するドアハンドルの間の距離が 1m 以上になってはいけません。車両とキーとの間で定期的に行なわれる無線通信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。このことは、以下のときなどに行なわれます。

- エンジンを始動したとき
- 走行している間

- ・車外のドアハンドルに触れたとき
- ・コンビニエンスクロージング機能中




- ▶ **車両を解錠する**：ドアハンドルの内側面に触れます。
- ▶ **車両を施錠する**：センサー面 ① または ② に触れます。  
ドアハンドルの内側面に触れていないことを確認してください。
- ▶ **コンビニエンスクロージング機能**：センサー面の凹部 ② に一定時間触れます。



- ▶ **テールゲートを解錠する**：テールゲートのハンドルを引きます。

## 解除/作動

長期間車両を使用しない場合は、キーレスゴーを解除することができます。その後は、キーはごくわずかな電力のみを使用し、その結果バッテリーの電力を節約できます。作動/解除する際、近くに車両がある必要はありません。

- ▶ **解除する**：素早く 2 回続けてキーの  スイッチを押します。  
キーのバッテリーチェックランプ (▷ 88 ページ) が短時間 2 回点灯して、キーレスゴーが解除されます。
- ▶ **作動させる**：キーのいずれかのスイッチを押すか、あるいはエンジンスイッチにキーを差し込みます。  
キーレスゴーおよび関連するすべての機能が、再度使用できるようになります。

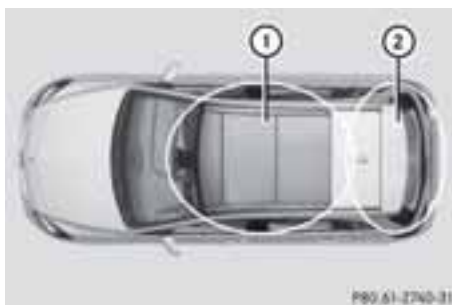
## キーレスゴースタート機能

### ⚠ 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴースイッチを操作するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

車両を操作する前に、そのようなシステムからの放射により起こりうる影響について、医師や医療機器メーカーにお問い合わせください。





キーレスゴースタート機能のアンテナの検知範囲



- ① 車内アンテナの検知範囲
- ② リアアンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

## ロックシステムの設定変更


ロックシステムの設定を変更することができます。車両を解錠したときは、運転席ドアと燃料給油口フラップのみが解錠されるようになります。一人で走行することが多い場合は、これが便利です。

▶ **設定を変更する**：バッテリーチェックランプが2回点滅するまで、約6秒間  および  スイッチを同時に押します(▶ 88 ページ)。

① 車両の信号範囲内でロックシステムの設定を変更したときは、 または  スイッチを押すと、以下になります。

- 施錠されます、または
- 車両が解錠されます

このとき、キーは以下のように機能します。

▶ **運転席ドアを解錠する**： スイッチを1回押します。

▶ **集中解錠する**： スイッチを2回押します。



▶ **集中施錠する**： スイッチを押します。

キーレスゴー機能は以下のように切り替わります。

▶ **運転席ドアを解錠する**：運転席ドアのドアハンドルの内側面に触れます。

▶ **集中解錠する**：助手席ドアまたはリアドアのドアハンドルの内側面に触れます。

▶ **集中施錠する**：いずれかのドアのドアハンドル外側のセンサー表面に触れます。

▶ **工場出荷時の設定を変更する**：バッテリーチェックランプが2回点滅するまで、約6秒間  および  スイッチを同時に押します(▶ 88 ページ)。



## エマージェンシーキー

### 全体的な注意事項

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠または解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアやテールゲートを解錠して開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します(▶ 81 ページ)。

警報を停止するためには、いくつかの方法があります。

▶ **キーで警報を停止する**：キーの  または  スイッチを押します。

または

▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。

または

▶ **キーレスゴーで警報を停止する**：キーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。

または

▶ キーレスゴーで車を施錠/解錠します。キーは車外にある必要があります。

エマージェンシーキーを使用して車両を解錠しても、燃料給油口フラップは自動的に解錠されません。

▶ **燃料給油口フラップを解錠する**：エンジンスイッチにキーを差し込みます。

## エマージェンシーキーの取り外し



- ▶ ロック解除キャッチ ① を矢印の方向に押し、同時にエマージェンシーキー ② をキーから取り外します。

さらなる情報：

- 運転席ドアの解錠 (▷ 92 ページ)
- ラゲッジルームの解錠 (▷ 94 ページ)
- 車両の施錠 (▷ 93 ページ)

## エマージェンシーキーの挿入

- ▶ 固定されて、ロック解除キャッチ ① が基本位置に戻るまで、エマージェンシーキー ② をキーに完全に押し込みます。

## キーの電池

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

#### 🌿 環境保護に関する注意



電池には環境汚染物質が含まれています。電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。







電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。

## 電池の点検



- ▶  または  スイッチを押します。バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯した場合は、電池は正常に作動しています。
- ▶ バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯しない場合は、電池が放電しています。
- ▶ 電池交換 (▷ 89 ページ)

①  または  スイッチを押して、車両の信号受信範囲内でキーの電池を点検した場合：

- 施錠されます、または
- 車両が解錠されます

① 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入することができます。

## 電池の交換

CR 2025 3V の電池が必要です。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 87 ページ)。



▶ エマージェンシーキー ② をキーの開口部に差し込み、電池トレイのカバー ① が開くまで矢印の方向に押しします。このとき、指でカバー ① を押さえないようにしてください。

▶ 電池トレイのカバー ① を取り外します。



▶ 電池 ③ が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返したたきます。

▶ プラス面が上を向くようにして、新しい電池を差し込みます。そうするときは、毛羽立ちのない布を使用してください。

▶ 電池の表面に糸くず、脂分、他の汚れがないことを確認してください。

▶ 電池トレイカバー ① の前側にある凸部をキーに差し込んでから、カバーを押して閉じます。

▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▷ 88 ページ)。



▶ 車両で、キーのすべてのスイッチの機能を確認します。

## キーのトラブル

## トラブル

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



キーを使用して車両を施錠または解錠できない。

キーの電池が放電している、またはほぼ放電している。  
**▶ キーレスゴーまたはキーレスゴースタート機能非装備車両：** キーのリモコン機能を使用して再度車両の施錠/解錠を行なってください。キーの先端部を運転席ドアのハンドルに向け、至近距離から  /  スイッチを押します。

作動しない場合：

- ▶ キーの電池 (▶ 88 ページ) を点検し、必要に応じて交換してください (▶ 89 ページ)。
- ▶ エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠 (▶ 92 ページ) または施錠 (▶ 93 ページ) してください。

強い電波源からの干渉を受けている。

**▶ キーレスゴーまたはキーレスゴースタート機能非装備車両：** キーのリモコン機能を使用して再度車両の施錠/解錠を行なってください。キーの先端部を運転席ドアのハンドルに向け、至近距離から  /  スイッチを押します。

作動しない場合：

- ▶ エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠 (▶ 92 ページ) または施錠 (▶ 93 ページ) してください。

キーが故障している。

- ▶ エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠 (▶ 92 ページ) または施錠 (▶ 93 ページ) してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。

キーレスゴーを使用して、車両を施錠または解錠できなくなった。

キーの電池が放電している、またはほぼ放電している。  
**▶ キーの電池 (▶ 88 ページ) を点検し、必要に応じて交換してください (▶ 89 ページ)。**

作動しない場合：

- ▶ エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠 (▶ 92 ページ) または施錠 (▶ 93 ページ) してください。

強い電波源からの干渉を受けている。

- ▶ エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠 (▶ 92 ページ) または施錠 (▶ 93 ページ) してください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>キーレスゴーが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ キーのリモコン機能を使用して、車両を施錠/解錠してください。</li> <li>▶ 車両およびキーをメルセデス・ベンツ指定サービス工場点検してください。</li> </ul> <p>リモコン機能を使用しても、車両を施錠/解錠できない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エマージェンシーキーを使用して、車両を解錠 (▶ 92 ページ) または施錠 (▶ 93 ページ) してください。</li> <li>▶ 車両およびキーをメルセデス・ベンツ指定サービス工場点検してください。</li> </ul>
<p>キーを使用してエンジンを始動することができない。</p>	<p>バッテリーの電圧が非常に低い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ シートヒーター、ルームライトなどの必要としない電気装備を停止してから、再度エンジン始動操作を行なってください。</li> </ul> <p>作動しない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ スターターバッテリーを点検し、必要に応じて充電してください (▶ 260 ページ)。</li> </ul> <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 車両をジャンプスタートしてください (▶ 262 ページ)。</li> </ul> <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。</li> </ul>
<p>キーレスゴースイッチを使用して、エンジンを始動することができない。キーが車内にある。</p>	<p>車両が施錠されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 車両を解錠して、再度車両を始動するよう試みてください。</li> </ul> <p>キーの電池が放電している、またはほぼ放電している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ キーの電池 (▶ 88 ページ) を点検し、必要に応じて交換してください (▶ 89 ページ)。</li> </ul> <p>作動しない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンジンスイッチのキーで、車両を始動してください。</li> </ul> <p>強い電波源からの干渉を受けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンジンスイッチのキーで、車両を始動してください。</li> </ul>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーを紛失した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーを無効にしてください。</li> <li>▶ ただちに自動車保険会社へ紛失を報告してください。</li> <li>▶ 必要に応じて、ロックも交換してください。</li> </ul>
エマージェンシーキーを紛失した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ただちに自動車保険会社へ紛失を報告してください。</li> <li>▶ 必要に応じて、ロックも交換してください。</li> </ul>

## ドア

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

手荷物や積載物は、なるべくラゲッジルームに収納してください。積載のガイドラインに従ってください (▶ 226 ページ)。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- 車内からドアを解錠して開く
- 車内からの車両の集中施錠および解錠
- 車速感応ドアロック

### 運転席ドアの解錠 (エマージェンシーキー)

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠または解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠して開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します (▶ 81 ページ)。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▶ 87 ページ)。
- ▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。



- ▶ ①の位置まで、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。運転席ドアが解錠されます。
- ❶ 右ハンドル車両では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▶ 88 ページ)。

### 車両の施錠 (エマージェンシーキー)

キーまたはキーレスゴーで車両を施錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ 助手席ドア、リアドアおよびテールゲートを閉じます。
- ▶ 運転席ドアのロックスイッチ (▶ 92 ページ) を押します。
- ▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブが見えていないことを確認します。必要に応じて、ロックノブを手で押し下げます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▶ 87 ページ)。
- ▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。



- ▶ ①の位置まで、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。
- ❶ 右ハンドル車両では、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ ドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▶ 88 ページ)。

❶ 上記のように車両を施錠した場合は、燃料給油口フラップは施錠されません。盗難防止警報システムは待機状態になりません。

## ラゲッジルーム

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジン作動中、とくに走行中にテールゲートが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。中毒を起こすおそれがあります。

テールゲートを開く前に、エンジンをオフにしてください。テールゲートを開いたまま走行しないでください。

### ⚠ 警告

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるとおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

**!** テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

**i** テールゲートを開いたときの寸法は、「車両データ」の項目にあります(▶ 300 ページ)。

手荷物や積載物は、なるべくラゲッジルームに収納してください。積載のガイドラインに従ってください(▶ 226 ページ)。

ラゲッジルーム内にキーを残さないようにしてください。さもないと、閉め出されるおそれがあります。


テールゲートは以下のことができます。

- 車外から手で開く、および閉じる
- 内側からエマージェンシーリリースを作動させる

### 車外からの開閉


#### 開く



- ▶ キーの  スイッチを押します。
- ▶ ハンドル ① を引きます。
- ▶ テールゲートを上げます。

#### 閉じる



- ▶ ハンドル ① を使用して、テールゲートを引き下げます。
- ▶ ロック部にテールゲートを下げます。
- ▶ 必要に応じて、キーの  スイッチまたはキーレスゴーで車両を施錠します。

### テールゲートの非常時の解錠

#### 全体的な注意事項

**!** テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

**i** テールゲートを開いたときの寸法は、“車両データ”の項目にあります(▷ 300 ページ)。

テールゲートが解錠できなくなった場合：

- キーを使用して、または
- ドアコントロールパネルのリモート操作スイッチを使用して：

テールゲート内側のエマージェンシーリリースを使用してください。

ラゲッジルームを通して、エマージェンシーリリースに手を伸ばすことができます。

## 開く



- ▶ ラゲッジルームカバー (▷ 233 ページ) を取り外します。
- ▶ リアシートのバックレストを前方に倒します (▷ 229 ページ)。
- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 87 ページ)。
- ▶ エマージェンシーキー ② をトリム ① の開口部に差し込みます。
- ▶ エマージェンシーキー ② を時計回りに 90° まわします。
- ▶ エマージェンシーキー ② を矢印の方向に押し、テールゲートを開きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▷ 88 ページ)。

## サイドウィンドウ

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

サイドウィンドウを開けているときに、サイドウィンドウが動くにつれて、体の一部がサイドウィンドウとドアフレームの間に引き込まれて挟まるおそれがあります。けがををするおそれがあります。

開けている最中は、誰もサイドウィンドウに触れないようにしてください。誰かが挟まれてしまった場合は、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてもう一度サイドウィンドウを閉じます。

#### ⚠ 警告

閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウィンドウを閉じる際に挟まれるおそれがあります。けがををする危険があります。

閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。誰かが挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを押してサイドウィンドウをもう一度開きます。

#### ⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、サイドウィンドウを操作して挟まれるおそれがあります。けがををするおそれがあります。

リアサイドウィンドウのチャイルドブルーロックを作動させます。車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

### サイドウィンドウのリバーズ機能

サイドウィンドウには自動リバーズ機能が装備されています。自動で閉じている間に固い障害物がブロックした、またはサイドウィンドウが上方に動くことを妨げられたとき、サイドウィンドウは自動的に再度開きます。手動で閉じている間

は、対応するスイッチを放した後にのみ、サイドウィンドウは自動的に再度開きません。自動リバー機能は単なる補助にすぎず、サイドウィンドウを閉じるときの注意に代わるものではありません。

#### ⚠ 警告

リバー機能は以下では反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- リセットの間

これらの状況では、誰かが挟まれることをリバー機能が回避できないことを意味しています。けがの危険性があります。閉じているときは、閉じている範囲に身体の一部がないことを確認してください。誰かが挟まれた場合は、スイッチを押して、サイドウィンドウを再度開いてください。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- サイドウィンドウの開閉
- コンビニエンスオープニング機能
- コンビニエンスクローズ機能
- サイドウィンドウのリセット

### パノラミックスライディンググループ

#### 重要な安全上の注意事項

以下の項目では、「スライディンググループ」という言葉はパノラミックスライディンググループに該当します。

#### ⚠ 警告

スライディンググループを開閉するときに、ルーフの移動範囲に身体を近づけると、はさまれるおそれがあります。けがをしますおそれがあります。

開閉操作中は身体を近づけすぎないようにしてください。

はさまれた場合：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
  - 自動操作中に、どの方向でもスイッチを短時間押します。
- 開閉手順が中断されます。

#### ⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、スライディンググループを操作して挟まれるおそれがあります。けがをしますおそれがあります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

**!** パノラミックスライディンググループに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディンググループが故障する原因になります。

スライディンググループの開口部から物を出さないようにしてください。スライディンググループのシール部が損傷するおそれがあります。

**i** スライディンググループが開いているときは、通常の風切り音に加えて共振音が発生するおそれがあります。これらは、車内の微細な圧力変動によるものです。これらのノイズを低減または除去するためには、スライディンググループの位置を変更するか、サイドウィンドウを少し開いてください。

#### スライディンググループのリバー機能

スライディンググループには自動リバー機能が装備されています。閉じている間に障害物がスライディンググループをブロックした、または妨げた場合は、スライディンググループは自動的に再度開きません。ただし、自動リバー機能は単なる補助にすぎず、スライディンググループを

閉じるときの注意に代わるものではありません。

### ⚠ 警告

以下のとき、リバーズ機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 4 mm 以下となったとき
- リセット中
- リバーズ機能作動のすぐあとに再度手でスライディングルーフを閉じるとき

リバーズ機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉動作の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。

## スライディングルーフの操作

### 開閉





オーバーヘッドコントロールパネル

- ① 上げる
- ② 開く
- ③ 閉じる/下げる

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします(▷ 129 ページ)。

▶ 電動ブラインドが開いていることを確認します。

▶  スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

**i** 手応えがあるところを越えるまで  スイッチを押すか引いた場合は、対応する方向に自動操作が開始されます。再度押すか引くことにより、自動作動を停止できます。

**i** スライディングルーフを開いた後、電動ブラインドは自動的に少し閉じます。これにより、車内への風が減少します。

**i** エンジンを停止するか、キーを抜いた後、スライディングルーフの操作を続けることができます。この機能は 5 分間、またはフロントドアを開くまで作動したままになります。

**i** ルーフラックが取り付けられている場合は、スライディングルーフを開くことはできません。車内を換気するために、スライディングルーフをチルトアップすることができます。

メルセデス・ベンツにより承認されたルーフラックに接触した場合は、スライディングルーフは少し下がり、後部が上がったままになります。

## エンジンが停止しているときのレインクローズ機能

レインクローズ機能は、レインセンサー装備車両でのみ作動します。

キーがエンジンスイッチの **0** の位置にあるか、または取り外されている場合は、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じます。

- 雨が降り始めたとき。
- 極端な外気温度のとき。

- ・6 時間後。
- ・電力供給に故障があるとき。

車内を換気するために、スライディンググループの後部が上がったままになります。

**i** レインクローズ機能により閉じられたときにスライディンググループが妨げられた場合は、再び少し開きます。そして、レインクローズ機能は解除されます。

以下の場合、スライディンググループは閉じません。

- ・後部が上がっている。
- ・ブロックされた。
- ・車両が橋の下にあるときなど、レインセンサーによってモニターされているフロントウィンドウの範囲に雨が落ちていない。

### 走行時のレインクローズ機能

走行時に雨が降り始めた場合は、上がっていたスライディンググループの後部が自動的に下がります。スライディンググループは以下に応じて下がります。

- ・走行速度および
- ・雨滴量

自動的に閉じている動作を手動で中止することができます。☒ スイッチをいずれかの方向に押すか、または引きます。スライディンググループを再度上げるためには、☒ スイッチを ① の方向に押しします。レインクローズ機能は作動したままになります。

### スライディンググループの電動ブラインドの操作

#### 重要な安全上の注意事項

##### ⚠ 警告

電動ブラインドの開閉時、身体の一部が電動ブラインドとフレームまたはスライ

ディンググループ間に挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。開閉動作の間は、身体を電動ブラインドの動いている部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ・ただちにスイッチを放すか、あるいは
  - ・自動開閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。
- 開閉動作が停止します。

電動ブラインドは日差しから車内を遮ります。スライディンググループを閉じているときにのみ、電動ブラインドを開閉することができます。

### 電動ブラインドのリバース機能

電動ブラインドには、自動リバース機能が装備されています。閉じている動作の間に障害物が電動ブラインドをブロックした、または妨げた場合は、電動ブラインドは自動的に再度開きます。ただし、自動リバース機能は単なる補助に過ぎず、電動ブラインドを閉じているときの注意に代わるものではありません。

##### ⚠ 警告

以下のとき、リバース機能は反応しません：

- ・小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- ・電動ブラインドをオートリバース後すぐに手動で閉じたとき

リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉じている間は、身体の一部を電動ブラインドの動いている範囲内に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ・ただちにスイッチを放すか、あるいは
- ・自動開閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。


## 開閉




オーバーヘッドコントロールパネル

- ① 開く
- ② 開く
- ③ 閉じる

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします(▷ 129 ページ)。

▶  スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。


**i** 手応えがあるところを越えるまで  スイッチを押すか引いた場合は、対応する方向で自動操作が開始されます。再度押すか引くことにより、自動作動を停止できます。

**i** スライディングルーフを開いた後、電動ブラインドは自動的に少し閉じます。これにより、車内への風が減少します。


## スライディングルーフと電動ブラインドのリセット


スライディングルーフまたは電動ブラインドが滑らかに動かない場合は、スライディングルーフおよび電動ブラインドをリセットしてください。


▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします(▷ 129 ページ)。

▶ スライディングルーフが完全に閉じるまで、 スイッチを矢印 **③** の方向

に手応えがあるところまで繰り返し引きます。

▶  スイッチを引いたまま数秒間保持します。

▶ 電動ブラインドが完全に閉じるまで、 スイッチを矢印**③**の方向に手応えのあるところまで繰り返し引きます。

▶  スイッチを引いたまま数秒間保持します。



▶ スライディングルーフ (▷ 97 ページ) および電動ブラインド (▷ 99 ページ) が再度完全に開閉することを確認します。

▶ そうでない場合は、上の手順を繰り返してください。

## スライディンググループのトラブル

 警告

故障または電力供給が遮断された後に電動ブラインドのリセットを行なわない場合、その後リバース機能が不具合をおこしたり、作動しないことがあります。電動ブラインドは、より強い力で閉じます。この手順のとき、閉じる範囲内で身体の一部を挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。このような場合や似たような状況では、閉じている間は、決して閉じる範囲に身体の一部を近づけないようにしてください。不具合または電圧供給の遮断後は、必ず電動ブラインドをリセットしてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
スライディンググループを閉じることができず、原因が分からない。	<p>閉じている間にスライディンググループが妨げられ、再度少し開いた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 妨げられた後ただちに、スライディンググループが閉じるまで、手応えがあるところまで  スイッチを再度引き下げます。 スライディンググループは、強い力で閉じます。</li> </ul> <p>閉じている間にスライディンググループが再度妨げられ、再度少し開いた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 妨げられた後ただちに、スライディンググループが閉じるまで、手応えがあるところまで  スイッチを再度引き下げます。 挟み込み防止機能なしで、スライディンググループが閉じます。</li> </ul>

役に立つ情報 .....	102
運転席の適切なシートポジション .....	102
シート .....	103
ステアリング .....	105
ミラー .....	105
メモリー機能 .....	105

## 役に立つ情報

❶ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

❶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(p.26 ページ)

## 運転席の適切なシートポジション

## ⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。



▶ シート調整に関する安全上のガイドラインを守ってください (p.103 ページ)。

▶ シート ③ が正しく調整されていることを確認してください。

手動式シートの調整 (p.104 ページ)

電動式シートの調整 (p.104 ページ)

シートを調整するときは、以下を確認してください。

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている
- 通常の起きた位置で着座している
- シートベルトを正しく装着できる
- ほぼ垂直の位置になるようにバックレストを調整している
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している
- ペダルを正しく踏むことができる

▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください (p.104 ページ)。

そのときは、目の高さ調整されたヘッドレストの中央部によって、後頭部が支えられていることを確認してください。

▶ ステアリング調整に関する安全上の注意事項に従ってください (p.105 ページ)。

▶ ステアリング ① が正しく調整されていることを確認してください。

ステアリングの調整 (p.105 ページ)

ステアリングを調整するときは、以下を確認してください。

- 腕を軽く曲げた状態で、ステアリングを握ることができる
- 足を自由に動かすことができる
- メーターパネル内のすべての表示がはっきり確認できる

- ▶ シートベルトに関する安全上のガイドラインに従ってください。(p 42 ページ)
- ▶ シートベルト ② を正しく着用しているかどうかを確認してください(p 44 ページ)。  
シートベルトは以下のようにしてください。
  - 身体に密着させる
  - 肩の中央にかかるように通っている
  - 骨盤部分の腰にかかるように通っている
- ▶ 走行する前に、ルームミラーとドアミラー(p 105 ページ)を道路と交通状況がよく見えるように調整してください。
- ▶ **メモリー機能装備車両**：シート、ドアミラーの設定 (p 105 ページ) を記憶させてください。

## シート

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

保護者のいない状態で、お様がシートを調整すると、挟み込まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

エンジンスイッチにキーがないときでも、シートを調整することができます。

#### ⚠ 警告

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないということを確認してください。

"エアバッグ" (p 46 ページ) および "子供をのせるとき" (p 59 ページ) に関する注意事項に従ってください。

#### ⚠ 警告

運転席シートが固定されていないと、走行中に予期せず動くことがあります。車のコントロールを失う原因になるおそれがあります。事故の危険性があります。車両を始動する前に、運転席シートが固定されていることを常に確認してください。

#### ⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
  - シートベルトを装着する
- 事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

#### ⚠ 警告

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込まれて負傷するおそれがあります。とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押ししまい、挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手や身体などを入れないでください。

**!** シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。

- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

**!** シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

**i** その他の関連事項：

- ラゲッジルームの拡大（リアシートを倒す）（▶ 228 ページ）

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- シートの調整
- ヘッドレストの調整
- 電動ランバーサポートの調整

### シートヒーターの作動/停止

#### 作動/停止

#### **▲** 警告

シートヒーターを連続して使用すると、シートクッションおよびバックレストが異常に過熱する原因となります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温に対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。



スイッチの3つの赤い表示灯は、選択したヒーターレベルを表しています。

約8分後に、レベル**3**からレベル**2**へ、システムが自動的に切り替わります。

約10分後に、レベル**2**からレベル**1**へ、システムが自動的に切り替わります。

レベル**1**に設定した約20分後に、システムが自動的に停止します。

▶ エンジンスイッチのキーを**1**または**2**の位置にまわします（▶ 129 ページ）。

▶ **作動させる**：希望のヒーターレベルが設定されるまで、スイッチ**①**を繰り返し押しします。

▶ **停止する**：すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ**①**を繰り返し押しします。

**i** バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートヒーターが停止することがあります。

### シートヒーターのトラブル

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## ステアリング

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

#### ⚠ 警告

子供がステアリングを調整するとステアリングに挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、ステアリングの手動調整についての情報があります。

## ミラー

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームミラー
- ドアミラー
- 自動防眩ミラー
- パーキングポジション機能付ドアミラー（助手席側）

## メモリー機能

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 設定の保存
- 記憶された位置を呼び出す

役に立つ情報 .....	108
車外ライト .....	108
ルームライト .....	111
電球の交換 .....	111
フロントウインドウワイパー .....	116

## 役に立つ情報

① この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

① メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▶ 26 ページ)

## 車外ライト

## 全体的な注意事項

日中にライトを点灯しないで走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"機能をオフにしてください(▶ 174 ページ)。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- 非常点滅灯
- ヘッドライト内側の曇り

## 車外ライトの設定

## 設定オプション

以下によって、車外ライトを設定できません。

- ライトスイッチを使用して
- コンビネーションスイッチを使用して(▶ 109 ページ)
- ヘッドライトの照射範囲の調整(ハロゲンヘッドライト装備車両のみ)(▶ 109 ページ)

## ライトスイッチ

## 操作



- ① 左側パーキングライト
- ② 右側パーキングライト
- ③ 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- ④ ヘッドライトのオートモード、ライトセンサーによる制御
- ⑤ ロービーム/ハイビームヘッドライト
- ⑥ リアフォグランプ
- ⑦ フォグランプ(フロントフォグランプ装備車両のみ)

車両から離れるときに警告音が鳴っている場合は、ライトが点灯していることがあります。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

車外ライト(車幅灯/パーキングライトを除く)は、以下を行なった場合に自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いた
- キーが **0** の位置のときに運転席ドアを開いた

### ヘッドライトの照射範囲の調整 (ハロゲンヘッドライト)



- 0 運転席シートおよび助手席シートに乗員がいる
- 1 運転席シート、助手席シートおよびリアシートに乗員がいる
- 2 運転席シート、助手席シートおよびリアシートに乗員がいて、ラゲッジルームに積荷がある
- 3 運転席、助手席シートに乗員がいて、最高許容後軸荷重で利用されている

ヘッドライト範囲ダイヤルにより、車両の積載量に合わせたヘッドライトの配光を調整します。

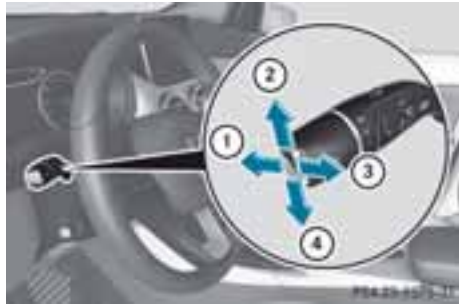
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ 車両の積載量に対応した位置にヘッドライト範囲ダイヤルをまわします。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- ヘッドライトのオートモード
- ロービームヘッドライト
- フォグランプ
- リアフォグランプ
- 車幅灯
- パーキングライト

### コンビネーションスイッチ



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示灯、右
- ③ パッシングライト
- ④ 方向指示灯、左

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- 方向指示灯
- ハイビームヘッドライト
- パッシングライト

### アダプティブハイビームアシスト

#### 全体的な注意事項



PH2.30-7447.31

この機能を使用して、ロービームとハイビームの間でヘッドライトを自動的に切り替えることができます。システムは、反対方向から接近してくる、または車両前方を走行している、ライトを点灯しているいずれかの車両を検知し、それに応じてヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

他車が検知されなくなると、システムは再びハイビームヘッドライトに切り替えます。

システムの照度センサーは、フロントウインドウ裏側のオーバーヘッドコントロールパネル付近に装着されています。

### 重要な安全上の注意事項

#### 警告

アダプティブハイビームアシストは、以下の道路利用者には反応しません。

- 歩行者などライトを持っていない
- 自転車にライトが装着されていても、ライトが暗い
- ガードレールの後ろにいるなど、道路使用者のライトが遮られている

まれに、アダプティブハイビームアシストはライトをもっている道路使用者をまったく検知しなかったり、検知が遅れたりします。このような場合は、ハイビームヘッドライトが自動で切り替わらなかったり、他の道路使用者がいるときに不意に切り替わる場合があります。事故の危険性があります。

道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。

アダプティブハイビームアシストは、道路、天候または交通状況を考慮に入れることはできません。アダプティブハイビームアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、そのときの明るさ、視界および交通状況に応じて、車両のライトを調整する責任があります。


特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている


### アダプティブハイビームアシストの作動/停止の切り替え

▶ **作動させる**：ライトスイッチを **AUTO** にまわします。



▶ **手応えがあるところを越えるまで**、コンビネーションスイッチを矢印の方向 ① に押します。


周囲が暗く、ライトセンサーによりロービームヘッドライトが点灯したときは、マルチファンクションディスプレイの表示灯  が点灯します。

約 30 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されていない場合：

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの表示灯  も点灯します。

25 km/h 以下の速度で走行しているか、他の道路使用者が検知されている、または道路が十分に照らされている場合：

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの表示灯  が消灯します。マルチファンクションディスプレイの表示灯  は点灯したままになります。

▶ **オフにする**：コンビネーションスイッチを通常的位置に戻します。マルチファンクションディスプレイの表示灯  が消灯します。

## ルームライト

ルームライトとオーバーヘッドコントロールパネルの概要は"各部の名称"をご覧ください。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームライトの自動点灯
- ルームライトの手動操作
- 緊急時点灯機能

## 電球の交換

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

作動時、電球、ランプおよびコネクターは非常に熱くなります。電球を交換するとき、これらの構成部品を触れると火傷するおそれがあります。けがの危険性があります。

電球を交換する前に、これらの構成部品を冷ましてください。

落ちた、またはガラス管に引っかき傷がある電球は使用しないでください。

以下のとき、電球が破裂するおそれがあります。

- 触れた
- 熱い
- 落とした
- 引っかいた

この用途のために設計された放電管の電球のみを使用してください。同一種類で、指定された電圧の予備電球のみを取り付けてください。

ガラス管上に付いた痕は、電球の寿命を短くします。ガラス管を素手で触らないでください。必要な場合は、冷えているときにガラス管をアルコールで清掃し、毛羽立ちのない布で拭き取ります。

作業している間は、電球を水分から保護してください。電球に液体が触れないようにしてください。

リストに挙げられている電球のみを交換してください (p. 111 ページ)。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場と交換してください。

電球交換に支援が必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

新しい電球が点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

電球やライトは、車両安全性の重要な一部です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

**LED ヘッドライト装備車両：**車両のライトクラスターには、LED ライトバルブが取り付けられています。お客様自身で電球の交換を行なわないでください。必要な専門知識とツールを備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

### 電球交換の概要 - 電球

以下の電球を交換できます。電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。



ハロゲンヘッドライト装備車両

- ① ロービームヘッドライト：H7 55 W
- ② ハイビームヘッドライト：H7 55 W
- ③ 方向指示灯：PY 21 W



テールライト（ハロゲンヘッドライト装備車両）

- ① リアフォグランプ：P 21 W
- ② バックライト：W 16 W
- ③ 方向指示灯：PY 21 W



ライセンスプレートライト（ハロゲンヘッドライト装備車両）

- ① ライセンスプレートライト：C 5 W

## フロントの電球交換

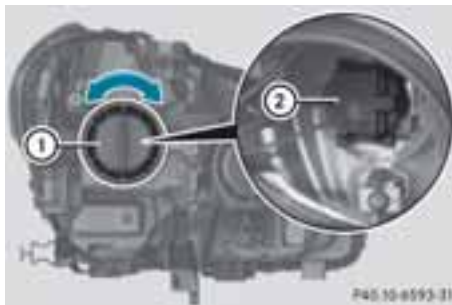
フロントホイールアーチのカバー取り付け/取り外し



フロントの方向指示灯を交換する前に、フロントホイールハウジングからカバーを取り外してください。

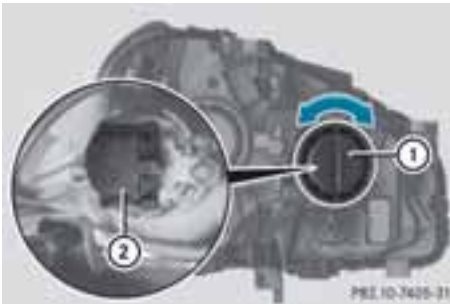
- ▶ **取り外す：** ライトスイッチをオフにします。
- ▶ 前輪を内側に転回します。
- ▶ 回転ノブ ① を 90° まわします。カバー ② が解除されます。
- ▶ カバー ② を下方に押します。
- ▶ 回転ノブ ① を 90° まわします。カバー ② がロックされます。

ロービームヘッドライト（ハロゲンライト）



- ▶ フロントホイールアーチのカバーを取り外します (▶ 112 ページ)。
- ▶ハウジングカバー①を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ソケット②を反時計回りにまわし、引き抜きます。
- ▶ソケット②から電球を抜き取ります。
- ▶新しい電球をソケット②に差し込みます。
- ▶ソケット②を差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ハウジングカバー①を押し、右にまわします。
- ▶フロントホイールアーチのカバーを交換します (▶ 112 ページ)。

## ハイビームヘッドライト (ハロゲンヘッドライト)



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ハウジングカバー①を反時計回りにまわし、取り外します。
- ▶電球②を反時計回りにまわし、引き抜きます。
- ▶新品の電球を差し込み、止まるまではめます。
- ▶ハウジングカバー①を押し、右にまわします。

## 方向指示灯 (ハロゲンヘッドライト)



- ▶ フロントホイールアーチのカバーを取り外します。(▶ 112 ページ)
- ▶ハンドルエクステンション②を反時計回りにまわして、ホルダー①から引き抜きます。
- ▶電球を軽く押して、反時計回りにまわして、引き出します。
- ▶新しい電球をホルダー①に差し込みます。
- ▶ハンドルエクステンション②をホルダー①に差し込み、固定されるまで時計回りにまわします。

## リアの電球交換

## サイドトリムパネルの開閉



左側サイドトリムパネルの図

テールライトの電球を交換する前に、ラゲッジルーム内のサイドトリムパネルを開く必要があります。

- ▶ **開く**：リリースノブ ① を反時計回りにまわし、サイドトリムパネル ② を取り外します。
- ▶ **閉じる**：サイドトリムパネル ② をはめ込み、リリースノブ ① を時計回りにまわします。

## テールライト

## 方向指示灯

- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ラゲッジルームを開きます。
- ▶ サイドトリムパネルを開きます (▷ 114 ページ)。



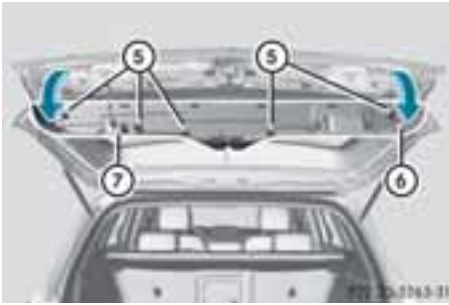
- ▶ ソケット ① を反時計回りにまわして引き抜きます。
- ▶ 電球を軽く押して、反時計回りにまわして、引き出します。
- ▶ 新しい電球を差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ バルブホルダー ① を差し込み、固定されるまで時計回りにまわします。
- ▶ サイドトリムパネルを閉じます (▷ 114 ページ)。

## バックライト/リアフォグランプ

その位置のため、テールゲートのバックライトおよびフォグランプの電球はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。



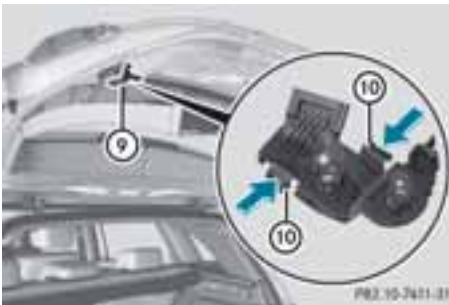
- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ クローズハンドル内側の凹部 ④ で、ハンドルの上部 ③ をドライバーなどの平たい滑らかなものでこじ開けて、取り外します。
- ▶ トリムから取り外すには、急なすばやい動きでハンドルの下部 ① を引き、その後片側に置きます。



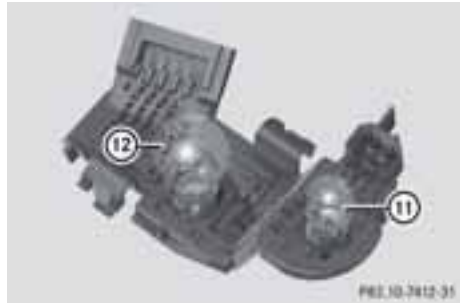
- ▶ 取り外すには、トリムの右下⑥に手を伸ばし、トリム全体に軽く力をかけて揺らします。
- ▶ ラッチを外して、ロケイターライティングのコネクター⑦を引きます。
- ▶ トリム⑥を片側に置きます。



- ▶ ソケットに届くまで、電球を交換する側のトリム⑧に残っている部品をアセンブリーからすばやく外します。



- ▶ ソケット⑨をレバー⑩の両側を使用して取り外します。



### ソケット

- ▶ **バックライト⑪**：電球をソケット⑨から取り外します。
  - ▶ 新しい電球をソケットに差し込みます。
  - ▶ **リアフォグランプ⑫**：電球をソケット⑨内へ徐々に押し、反時計回りにまわして、ソケットから取り外します。
  - ▶ 新しい電球をソケットに差し込み、時計回りにまわします。
  - ▶ 音が聞こえるまでソケットを再度差し込みます。
  - ▶ トリム⑧を位置決めし、手で軽く叩いてはめ込みます。
  - ▶ 取り付けを続ける前に、片側に金属製のクリップがすべて取り付けられていることを確認してください。2つのクリップ②はハンドル③の上部、5つのクリップ⑤はトリム⑥内部です。
  - ▶ もし無い場合、テールゲートの金属製の開口部から不足している金属製のクリップを取り外し、適切な場所に差し込んでください。
  - ▶ トリム⑥を外し、プラグコネクター⑦をロケイターライティングへ接続します。
- i** ロケイターライティングは、テールゲートが閉じて再度開いたときにのみ点灯します。
- ▶ トリム⑥を位置決めし、外側から手で軽く叩いてはめ込みます。

- ▶ ハンドルの下部 ① をもう一度差し込みます。
- ▶ ハンドルの上部 ③ を下部 ① に差し込んで、はめます。

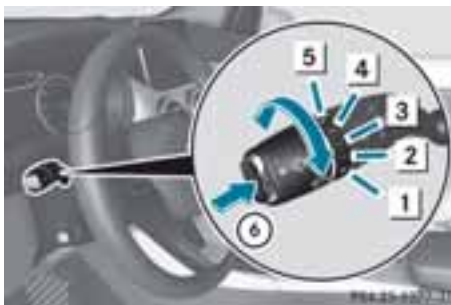
### ライセンスプレートライト



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ ドライバーを外側からレンズ ① に当てます。
- ▶ レンズ ① をてこの原理で持ち上げて取り外します。
- ▶ 電球を取り替えます。
- ▶ レンズ ① をナンバープレートライトに差し込んで、かみ合うまで押し込みます。

### フロントウインドウワイパー

#### フロントウインドウワイパーの作動/停止の切り替え



コンビネーションスイッチ

- ① フロントワイパーの停止
- ② 間欠拭き取り、低速（レインセンサーは低感度に設定）
- ③ 間欠拭き取り、高速（レインセンサーは高感度に設定）
- ④ 連続拭き取り、低速
- ⑤ 連続拭き取り、高速
- ⑥ 1 回の拭き取り / ウォッシャー液を使用してのフロントウインドウの拭き取り

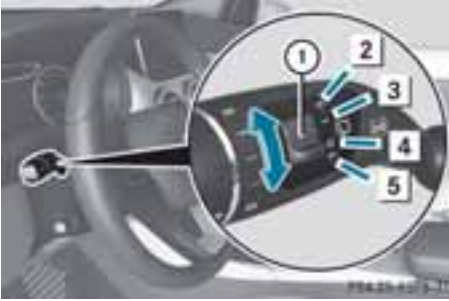
**!** レインセンサー装備車：乾燥した気候条件でフロントウインドウが汚れた場合、フロントワイパーが不意に作動するおそれがあります。ワイパーブレードを損傷したり、ウインドウに傷が付くおそれがあります。

このため、雨が降っていないときは必ずワイパースイッチを停止の位置にしてください。

レインセンサー装備車両： または の位置では、雨滴量に応じてワイパーの作動が自動的に調整されます。  
 の位置では、レインセンサーは の位置よりも高感度となり、フロントワイパーはより短い間隔で作動します。

ワイパーブレードが摩耗した場合は、フロントウインドウを適切に拭き取ることができなくなります。交通状況への注意を妨げるおそれがあります。

### リアワイパーの作動/停止の切り替え



コンビネーションスイッチ

- ① スイッチ
- ② ウォッシャー液を使用した拭き取り
- ③ I 間欠モードの作動
- ④ O 間欠モードの停止
- ⑤ ウォッシャー液を使用した拭き取り

### ワイパーブレードの交換

#### 重要な安全上の注意事項

#### 警告

ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

**!** ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム以外には触れないようにしてください。

**!** ワイパーアームがフロントウインドウ/リアウインドウから離れて倒れている場合は、ボンネット/テールゲートを決して開かないでください。

ワイパーブレードのないワイパーアームをフロントウインドウまたはリアウインドウの元の位置に決して戻さないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、フロントウインドウのワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードのないワイパーアームを放し、フロントウインドウ/リアウインドウの上に落ちた場合は、フロントウインドウ/リアウインドウが衝撃の力で損傷するおそれがあります。

メルセデス・ベンツはワイパーブレードの交換をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

### フロントウインドウのワイパーブレードの交換

#### ワイパーブレードを取り外す

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。



- ▶ 両方の解除クリップ ② を押します。
- ▶ ワイパーブレード ① を矢印 ③ の方向にワイパーアーム ④ から起こします。
- ▶ ワイパーブレード ① を矢印 ⑤ の方向に取り外します。

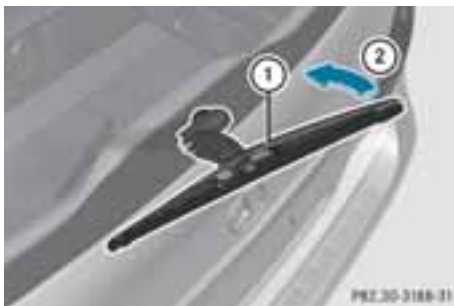
## ワイパーブレードを取り付ける



- ▶ 新しいワイパーブレード ① のラグ ⑤ の凹部 ⑥ に合わせます。
- ▶ 固定クリップ ② がブラケット ④ に固定されるまで、ワイパーブレード ① を矢印 ③ の方向へワイパーアームに向けて倒します。
- ▶ ワイパーブレード ① が正しく固定されていることを確認します。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウに倒して戻します。

## リアワイパーブレードの交換

## ワイパーブレードを取り外す



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 固定されるまでワイパーアーム ① をリアウインドウから起こします。
- ▶ ワイパーブレード ② を、ワイパーアーム ① に対して直角の位置にします。

- ▶ ワイパーアーム ① を持ち、解除されるまでワイパーブレード ② を矢印の方向に押します。
- ▶ ワイパーブレード ② を取り外します。

## ワイパーブレードを取り付ける

- ▶ 新しいワイパーブレード ② をワイパーアーム ① に合わせます。
- ▶ ワイパーアーム ① を持ち、ロックされるまでワイパーブレード ② を矢印とは反対の方向に押します。
- ▶ ワイパーブレード ② が正しい位置にあることを確認します。
- ▶ ワイパーブレード ② をワイパーアーム ① と平行の位置にします。
- ▶ ワイパーアーム ① をリアウインドウに倒します。

## フロントワイパーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ワイパーに引っかかりがある。	葉や雪などにより、ワイパーの作動が妨げられていることがある。ワイパーモーターが停止している。 ▶ 安全上の理由のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 妨げている原因を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが全く作動しない。	ワイパーの駆動系統が故障している。 ▶ コンビネーションスイッチでワイパーの他の作動を選択してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
ウインドウウォッシャー液がウインドウの中央に噴射されない。	噴射ノズルの角度がずれている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルを調整してください。

役に立つ情報 .....	122
エアコンディショナーシステムの 概要 .....	122
エアコンディショナーシステムの 操作 .....	124

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ)

## エアコンディショナーシステムの概要

## 全体的な注意事項

以下のページで推奨されている設定に従ってください。さもないとウィンドウが曇るおそれがあります。

ウィンドウを曇りから防ぐためには：

- エアコンディショナーは短時間のみ解除してください
- 内気循環モードは短時間のみ作動させてください
- AC モードを作動させてください
- 必要な場合は、フロントウィンドウデフロスター機能を短時間作動させてください

エアコンディショナーシステム/クライメートコントロール（左右独立調整）は車内の温度と湿度を調整し、空気中の好ましくない物質をろ過します。

エンジンがかかっているときにのみ、エアコンディショナーシステム/クライメートコントロール（左右独立調整）を操作できます。サイドウィンドウおよびスライディングルーフを閉じている場合のみ、最適な作動が得られます。

余熱ヒーター機能は、イグニッションがオフのときにのみ、作動または停止させることができます(▷ 124 ページ)。

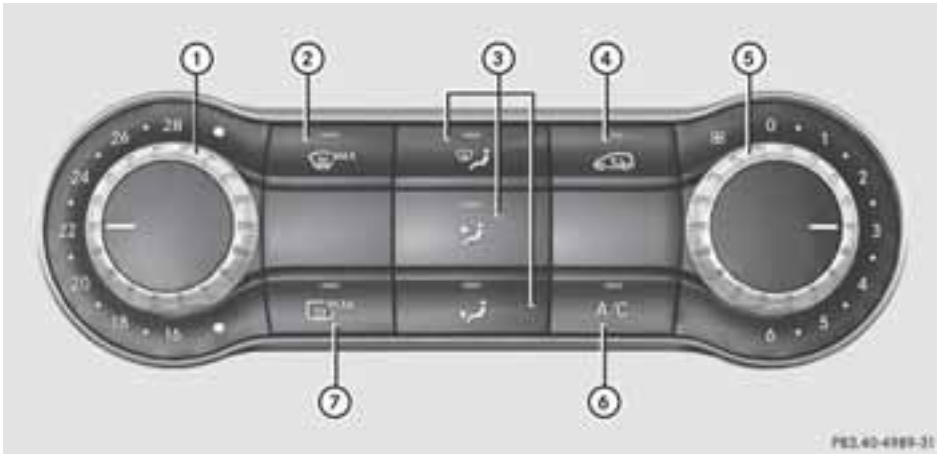
サイドトリムパネルの後ろにあるベンチレーションフラップは常に清潔にしてください(▷ 114 ページ)。さもないと、車内が正しく換気されません。

**i** 暖かい気候の間は、例えば、コンビニエンスオープニング機能を使用して少しの間車両を換気します(▷ 96 ページ)。これにより、冷却処理が速くなり、より早く希望の車内温度に達します。

**i** 内蔵フィルターにより、ほこりや煤煙の大部分の粒子や、花粉の大部分をろ過することができます。クライメートコントロール（左右独立調整）で、ガスによる汚染物質および臭いも減少します。詰まったフィルターは、車内に供給される空気の量を減らします。このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換時期に必ず従ってください。重度の大気汚染などの環境状況によっては、間隔は整備手帳に記載されているよりも短くなる場合があります。

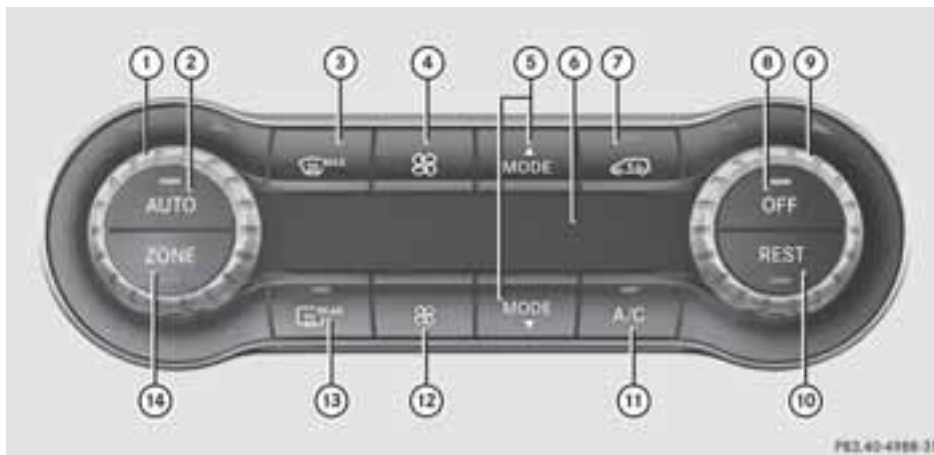
**i** 特定の環境下では、エアコンディショナーを乾燥させるために、キーを抜いてから 1 時間は、余熱ヒーター機能が自動的に作動することがあります。車両は 30 分間換気を行ないます。

## エアコンディショナーシステムのコントロールパネル



- ① 温度の設定
- ② フロントウィンドウの曇り取り
- ③ 送風配分の設定
- ④ 内気循環モードの作動/停止
- ⑤ 送風量の設定
- ⑥ AC モードの作動/停止
- ⑦ リアデフォッガーの作動/停止の切り替え

## クライメートコントロール（左右独立調整）（2ゾーン）のコントロールパネル



- ① 温度の設定、左
- ② エアコンディショナーの AUTO モードへの設定
- ③ フロントウインドウの曇り取り
- ④ 送風量を上げる
- ⑤ 送風配分の設定
- ⑥ ディスプレイ
- ⑦ 内気循環モードの作動/停止
- ⑧ エアコンディショナーの作動/停止の切り替え
- ⑨ 温度の設定、右
- ⑩ 余熱ヒーター機能の作動/停止
- ⑪ AC モードの作動/停止
- ⑫ 送風量を下げる
- ⑬ リアデフォグラーの作動/停止の切り替え
- ⑭ ゾーン機能の作動/解除の切り替え

### エアコンディショナーシステムの操作

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- エアコンディショナーの作動/停止の切り替え
- AC モードの作動/停止
- エアコンディショナーの AUTO モードへの設定
- 温度の設定
- 送風配分の設定
- 送風量の設定
- ゾーン機能の作動/停止の切り替え
- フロントウインドウの曇り取り

- ウィンドウの曇り取り
- リアデフォグガーの作動/停止の切り替え
- 内気循環モードの作動/停止
- 内気循環スイッチを使用時のコンビニエンスオープニング/クロージング
- 余熱ヒーター機能の作動/停止
- 送風口の調整

役に立つ情報 .....	128
慣らし運転の注意事項 .....	128
走行 .....	128
オートマチックトランスミッション .....	134
給油 .....	138
駐車 .....	141
運転のヒント .....	142
走行システム .....	144

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(p.26 ページ)

## 慣らし運転の注意事項

### 重要な安全上の注意事項

一部の走行および走行安全システムでは、車両が納車された後、あるいは修理後に一定距離を走行する間に、センサーが自動的に調整されます。この認識手順が終了するまでは、完全なシステムの効果は得られません。

新しい、もしくは交換されたブレーキパッド/ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後に最適な制動効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少した制動効果を補ってください。

### 最初の 1,500 km

最初から十分な注意を払ってエンジンを取り扱うことにより、エンジンの寿命まで最大限の性能を得ることができます。

- 最初の 1,500 km では、さまざまな車両速度およびエンジン回転数で走行してください。
- フルスロットルで走行するなど、この期間は車両への大きな負担は避けてください。

- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の  $\frac{2}{3}$  を超えないように、適切にギアシフト操作しながら運転してください。
- ブレーキを効かせるために、手動でギアをシフトダウンしないでください。
- 踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏むこと（キックダウン）は避けるようにしてください。

1500 km 後は、車両を徐々に最大負荷およびエンジン回転数にすることができません。

車両のエンジンおよび駆動系部品の交換を行なった場合も、慣らし運転についてのこれらの注意事項に従ってください。

## 走行

### 重要な安全上の注意事項

#### 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

#### 警告

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

### ⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

### ⚠ 警告

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下になることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- 車両にブレーキを効かせられなくなる火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

**❗** 車両が停止しているときは、エンジンを暖機しないでください。ただちに発進してください。エンジンが作動温度に達するまで、高いエンジン回転数やフルスロットルでの走行は避けてください。

車両が停止しているときにのみ、オートマチックトランスミッションを希望の走行位置にシフトしてください。

滑りやすい路面で発進するときは、可能な場所では駆動輪の空転を避けてください。ドライブトレインが損傷するおそれがあります。

## キーの位置

### キー



- 0 キーを抜く
- 1 フロントウインドウワイパーなどの電気装備への電力供給
- 2 イグニッション（すべての電気装備への電力供給）および走行位置
- 3 車両を始動する

**i** キーがその車両のものでなくても、エンジンスイッチでまわすことができます。ただし、イグニッションはオンになりません。エンジンの始動はできません。

## キーレスゴースイッチ

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴースイッチを操作するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがををするおそれがあります。

車両を操作する前に、そのようなシステムからの放射により起こりうる影響について、医師や医療機器メーカーにお問い合わせください。



- ① 右側外部アンテナの検知範囲
- ② 左側外部アンテナの検知範囲
- ③ リアアンテナの検知範囲
- ④ 車内アンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

### 全体的な注意事項

キーレスゴー装備車両には、キーレスゴー機能が内蔵されたキーと脱着可能なキーレスゴースイッチが装備されています。

車両とキーとの間で定期的に行なわれる無線通信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。エンジンを始動したときなどに、このことが行なわれます。

キーレスゴースイッチをエンジンスイッチに差し込んだときは、システムは約2秒の認識時間を必要とします。その後、キーレスゴースイッチを使用することができます。

連続してキーレスゴースイッチを数回押すことは、エンジンスイッチのキーの位置を変更することに相当します。これは、ブレーキペダルを踏んでいない場合のみです。

ブレーキペダルを踏んでキーレスゴースイッチを押した場合は、ただちにエンジンが始動します。

キーを操作せずに車両を始動する：

- キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません
  - キーが車内になければなりません
  - キーまたはキーレスゴーで車両が施錠されてはいけません (▷ 85 ページ)
- キーレスゴーキーを以下に保管しないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- 硬貨や金属片などの金属物
- 金属ケースなどの金属物の内部

キーレスゴーの機能に影響を与えるおそれがあります。

キーのリモコンで、またはキーレスゴーで車両を施錠した場合は、しばらくすると以下ようになります。

- キーレスゴースイッチでイグニッションをオンにすることができなくなります
- 車両が再度解錠されるまで、キーレスゴースイッチでエンジンを始動できなくなります

フロントドアのスイッチを使用して車両を集中施錠した場合は (▷ 92 ページ)、引き続きキーレスゴースイッチでエンジンを始動することができます。

車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約3秒間押し続けることにより、エンジンを停止することができます。この機能は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン停止機能とは独立して作動します。

## キーレスゴースイッチによるキーの位置



① キーレスゴースイッチ

② エンジンスイッチ

イグニッションをオンにしたときは、メーターパネルのすべての表示灯が点灯します。表示灯がエンジン始動後も消灯しない、または走行中に点灯する場合に関するさらなる情報は (▶ 191 ページ) をご覧ください。

キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていない場合は、キーがエンジンスイッチから抜かれていることに相当します。

▶ **電力供給を作動させる**： キーレスゴースイッチ ① を 1 回押します。

電力供給が作動します。これでフロントウインドウワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

以下の場合、電力供給が再度停止します。

- 運転席ドアを開いた、および
- この位置のときにキーレスゴースイッチ ① を 2 回押した

▶ **イグニッションをオンにする**： キーレスゴースイッチ ① を 2 回押します。イグニッションがオンになります。

以下の場合、イグニッションがオフになります。

- 運転席ドアを開いた、および
- キーレスゴースイッチ ① をこの位置で 2 回押した

## キーレスゴースイッチの取り外し

エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、通常のようにキーを使用して車両を始動することができます。車両が停止しているときのみ、キーレスゴースイッチによる方法とキー操作との間で切り替えることができます。

パーキングポジション **P** に入れる必要もあります。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

車から離れるときでも、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外す必要はありません。ただし、車両を離れるときは必ずキーを携帯してください。キーが車内にある限りは、以下のことができます。

- キーレスゴースイッチを使用して車両を始動できます
- 電気で作動する装備を操作できます

## 車両の始動

## 重要な安全上の注意事項

## ⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
  - オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
  - エンジンの始動
- 事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

#### ⚠ 警告

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

#### ⚠ 警告

動物または環境の影響によってもたらされた可燃物が熱くなっているエンジンの部品または排気システムに接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がなことを確認してください。

❗ エンジンを始動するときは、アクセルを踏まないでください。

### 全体的な注意事項

触媒コンバーターが作動温度により早く到達できるようにするために、冷間始動の間はエンジンはより高いエンジン回転数で作動します。その結果、エンジンの音が変わることがあります。

### オートマチックトランスミッション

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に **P** が表示されます。これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

シフトポジションが **N** のときも、ブレーキペダルを踏んで、エンジンを始動することができます。

### キーでの始動操作

キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用してエンジンを始動するためには、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り出してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **3** の位置にまわして(▶ 129 ページ)、エンジンが作動したらただちに放します。

### キーレスゴースイッチを使用したエンジンの始動

エンジンスイッチにキーを差し込まずに、キーレスゴースイッチを使用して車両を手動で始動することができます。車内にキーがあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。エンジン始動のためのこの手順は、ECO スタートストップ機能のエンジン自動始動機能とは独立して作動します。

有効なキーが車内にある場合は、エンジンを始動することができます。短時間でも車両から離れるときは、必ずエンジンを切ってキーを携帯してください。"重要な安全上の注意事項"に注意してください。

▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。  
▶ キーレスゴースイッチを 1 回押します(▶ 129 ページ)。エンジンが始動します。

**発進****オートマチックトランスミッション****⚠ 警告**

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

発進するときはアクセルを慎重に踏んでください。

発進すると、自動的に車両が施錠されます。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます (▶ 174 ページ)。

ブレーキペダルを踏んでいる場合にのみ、トランスミッションをポジション **P** から希望のポジションにシフトすることができます。その後でのみ、パーキングロックを解除することができます。

ブレーキペダルが踏まれていない場合は、DIRECT SELECT レバーはまだ動かすことができますが、パーキングロックはロックされたままになります。

エンジンが始動していて、トランスミッションオイル温度が  $-20^{\circ}\text{C}$  以下のときにのみ、ポジション **P** から他のシフトポジションに変えることができます。

**i** エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、触媒コンバーターがより早く作動温度に達する支援になります。

電気式パーキングブレーキの自動解除についての情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

**ヒルスタートアシスト**

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。ブレーキペダルから足を放した後に、短時間車両を停止したままにします。これにより、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

**⚠ 警告**

しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。事故やけがの危険性があります。

従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

ヒルスタートアシストは、以下の場合は作動しません。

- 平坦な道路または下り坂で発進する
- トランスミッションがポジション **N** にある
- 電気式パーキングブレーキを効かせている
- ESP<sup>®</sup>が故障している

上り坂勾配での停車に関する詳細は (▶ 136 ページ) をご覧ください。

**ECO スタートストップ機能****はじめに**

特定の条件下で車両が停車したとき、ECO スタートストップ機能はエンジンを自動的に停止します。

再度発進するとき、エンジンは自動的に始動します。それにより、ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させる支援を行いません。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

エンジンが自動的にオフになり、車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。事故やけがの危険性があります。



車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定します。

## 全体的な注意事項




- ① ECO スタートストップ機能表示  
(例：カラーマルチファンクションディスプレイ)

ECO スタートストップ機能は、以下のとき車両が停止すると、エンジンを自動的に停止します。

- 白黒マルチファンクションディスプレイ装備車両のマルチファンクションディスプレイに  ECO マークが表示されます。
- カラーマルチファンクションディスプレイ装備車両のマルチファンクションディスプレイに  ECO マークが緑色で表示されます。

ECO スタートストップ機能は、イグニッションキーでエンジンを始動するたびに自動的に作動します。

ECO スタートストップ機能が手動で解除されている(▶ 134 ページ) または故障

が原因でシステムが解除されている場合は、 ECO マークは表示されません。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- 自動エンジン停止
- 自動エンジン始動
- ECO スタートストップ機能の解除/設定

## エンジンのトラブル

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## オートマチックトランスミッション

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

#### ⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

エンジンを停止しているときは、エンジンとトランスミッションの間の動力伝達

が遮断されていることに留意してください。

車両が動き出さないように、以下を行なってください。

- エンジンが停止して車両が停止しているときは、オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** にシフトしてください
- 電気式パーキングブレーキをかけてください

## DIRECT SELECT レバー

### シフトポジションの概要



- P** パーキングロック付きパーキングポジション
- R** リバースギア
- N** ニュートラル
- D** ドライブ

DIRECT SELECT レバーは、ステアリングコラムの右側にあります。

DIRECT SELECT レバーは、常に元の位置に戻ります。現在のシフトポジション **P**、**R**、**N** または **D** は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に表示されます。これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- トランスミッションポジションおよび走行モード表示
- パーキングポジション **P** に入れる
- パーキングポジション **P** の自動選択
- リバースギア **R** に入れる
- ドライブポジション **D** に入れる

## ニュートラル **N** にシフトする

### ⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

- ▶ トランスミッションがポジション **D** または **R** にある場合：最初に手応えがあるところまで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押しします。
- ▶ トランスミッションがポジション **P** にある場合：ブレーキペダルを踏み、最初に手応えがあるところまで、

DIRECT SELECT レバーを上または下に押します。

トランスミッションがポジション R または D のときにエンジンを停止した場合は、オートマチックトランスミッションは自動的に N にシフトします。

**キーで：** この状態で、運転席ドアまたは助手席ドアを開くかエンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、オートマチックトランスミッションは自動的に P にシフトします。

**キーレスゴースイッチで：** この状態で運転席ドアか助手席ドアを開くと、オートマチックトランスミッションは自動的に P にシフトします。

けん引システム付き洗車機で車両を洗車するときなど、オートマチックトランスミッションのシフトをニュートラル N に維持しておきたい場合。

**キーで：**

- ▶ イグニッションをオンにします。
- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ ニュートラル N にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

**キーレスゴースイッチで：**

- ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。
- ▶ キーをエンジンスイッチに差し込みます。
- ▶ イグニッションをオンにします。
- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ ニュートラル N にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- シフトポジション
- 走行モード選択スイッチ
- ステアリングのギアシフトパドル
- オートマチック走行モード
- トランスミッションのトラブル

### 運転のヒント

#### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- ギアシフト操作
- アクセルペダルの位置
- キックダウン

#### 上り坂勾配で車両を停車したままにする

##### ⚠ 警告

クラッチが過熱すると、エレクトロニックマネジメントシステムは自動的に解除されます。動力伝達を遮断します。車両が上り坂で後退するなどのおそれがあります。事故の危険性があります。決して、アクセルを踏むことにより、上り坂勾配で車両を停車させないでください。

アクセルを踏んで、上り坂勾配で車両を停車させると、クラッチが過熱する可能性があります。クラッチが過熱すると、警告音が鳴ります。

マルチファンクションディスプレイに **E** は止めずに 停車して **P** にシフトして下さい というメッセージが表示されます。クラッチの温度が下がり、マルチファンクションディスプレイからディスプレイメッセージが消えたら、引き続き走行することができます。

決してアクセルペダルを踏んだまま上り坂勾配で車両を停車させないでください。その代わりに、以下のときのみ上り坂勾配に車両を停車することができます。

- ブレーキペダルを踏んでいる
- ホールド機能を作動させている
- 電気式パーキングブレーキを効かせている

### マニュアル走行モード

#### 全体的な注意事項

マニュアル走行モード **M** では、ステアリングのギアシフトパドルを使用して、ギアをご自身で変更することができます。そのためには、セレクターレバーが **D** に入っている必要があります。そのとき選択され、入っているギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。マニュアル走行モード **M** は、シフトチェンジの自発性、応答性および滑らかさの点で、走行モード **E** および **S** と異なります。

ギア	走行状況
<b>3</b>	エンジンのブレーキ効果を利用します

<b>2</b>	下り坂や以下を走行しているときに、エンジンのブレーキ効果が必要なときに使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 急峻な山道で</li> <li>• 山間路で</li> <li>• 過酷な状況で</li> </ul>
<b>1</b>	非常に急な下り坂や長い下り坂などでエンジンのブレーキ効果を利用します

### マニュアル走行モードの作動

#### 常時作動

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されるまで、走行モード選択スイッチ (p. 136 ページ) を繰り返し押します。走行モード **E** または **S** を選択するまで、マニュアル走行モード **M** が作動したままになります。

#### 一時的な作動

- ▶ 左または右側のステアリングのギアシフトパドル (p. 136 ページ) を引きます。マニュアル走行モード **M** が一時的に作動しています。ギアシフトパドルを引くことによりにより、オートマチックトランスミッションは次のギアへ下がる、または上がります。

ステアリングのギアシフトパドルを使用してマニュアル走行モード **M** を作動させたとき、一時的に作動したマニュアル走行モード **M** は、運転状況が許せば、制限時間の後で自動的に解除されます。この場合、オートマチックトランスミッションは以前作動していたオートマチック走行モード **E** または **S** に切り替わります。下り坂勾配を走行したとき、一時的に作動したマニュアル走行モード **M** は、車両が下り坂を走行しているときにアクセル

ペダルを踏んだときにのみ、解除されません。

## シフトアップ

- ▶ 右側のステアリングのギアシフトパドルを引きます(▶ 136 ページ)。オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトアップします。

エンジン損傷を防ぐために、以下のときオートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップします。

- 現在締結しているギアでエンジン最高回転数に到達したとき
- アクセルペダルを踏んだ

## 推奨ギアシフト



経済的な運転スタイルをとることができるよう、推奨ギアシフトは運転者を支援します。推奨ギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- ▶ メーターパネルのマルチファンクションディスプレイに表示されたときは、推奨ギアシフト ① に従って推奨ギア ② にシフトしてください。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- シフトダウン
- キックダウン
- マニュアル走行モードの解除

## 給油

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

#### ⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

#### ⚠ 警告

静電気の蓄積により、火花が発生したり、燃料の気体に引火するおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。

燃料給油口を開いたり、給油ノズルに触れる前に、必ず車体に触ってください。蓄積されている可能性がある静電気を放電します。

- ❗ ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、エンジンスイッチをオンにしないでください。さ

もないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。たとえ少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

❗ 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

❗ 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

❗ 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

給油作業中は車内に戻らないでください。さもないと、再度帯電することがあります。

燃料タンクに給油しすぎた場合は、給油ポンプノズルを外すときに燃料が飛散することがあります。

燃料および燃料品質についてのさらなる情報 (▷ 295 ページ)。

### セルフサービス式のガソリンスタンド

給油についての注意事項に従ってください (▷ 138 ページ)。

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウィンドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行ってください。


給油作業を行なう人以外は燃料給油口フラップに近づかないでください。

- 燃料給油口キャップの開閉は確実に行ってください。火気を近づけないようにしてください。
- 給油ポンプノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。さもないと、燃料があふれるおそれがあります。
- 給油ポンプノズルは常にゆっくりと動かしてください。さもないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項に従ってください。

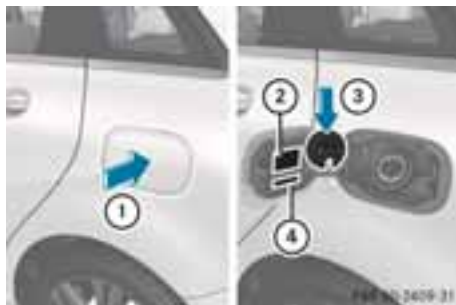
### 給油

#### 全体的な注意事項

キーで車両を解錠または施錠すると、燃料給油口フラップも自動的に解錠または施錠されます。

燃料給油口キャップの位置はメーターパネルに表示  されています。給油ポンプマークの横の矢印は、燃料給油口キャップのある車両側面を示しています。燃料給油口フラップは車両の左側後方にあります。

## 燃料給油口フラップを開く



- ① 燃料給油口フラップを開く
- ② タイヤ空気圧表
- ③ 燃料給油口キャップを差し込む
- ④ 給油燃料種類に関する説明ラベル

- ▶ **キーレスゴー非装備車両**：エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車両**：運転席ドアを開きます。  
車両の電気装備が **0** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。
- ▶ 燃料給油口フラップを矢印 ① の方向に押します。  
燃料給油口フラップが開きます。
- ▶ 燃料給油口キャップを反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 燃料給油口キャップを燃料給油口フラップ ③ 内側のホルダーに差し込みます。
- ▶ タンクの補給口に給油ポンプノズルを完全に差し込んで掛け、給油します。
- ▶ ポンプノズルが停止するまでのみ給油してください。

最初にポンプが給油を停止した後は、それ以上燃料を追加しないでください。さもないと、燃料が漏れることがあります。

## 燃料給油口フラップを閉じる

- ▶ キャップを給油口に取り付け、音がしてロックするまで時計回りにまわします。
- ▶ 燃料給油口フラップを閉じます。

車両を施錠する前に燃料給油口フラップを閉じてください。

## 燃料および燃料タンクのトラブル

この項目では、安全性に関わるトラブルの内容と対応方法について説明しています。さらなるトラブルの内容および対応方法は、デジタル版取扱説明書にあります。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
車両から燃料が漏れている。	燃料ラインまたは燃料タンクが故障している。 <b>⚠ 警告</b> 火災または爆発のおそれがある。 ▶ ただちにキーを <b>0</b> の位置にまわして、抜きます(▶ 129 ページ)。 ▶ いかなる場合も、エンジンを再始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

## 駐車

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

葉、草または小枝のような可燃性の素材は、排気システムの高温部品または排気ガスの排気に長時間触れると発火することがあります。火災の危険性があります。可燃性の素材が車両の熱い部品に触れないように車両を駐車してください。特に、乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないでください。

#### ⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者の

いない状態で子供を車内に残さないでください。

**!** 車両が動き出さないように、必ず適切な方法で固定してください。車体または駆動系を損傷するおそれがあります。

車両が不意に動き出さないためには、以下のようにしてください。

- 電気式パーキングブレーキを効かせる。
- トランスミッションはシフトポジションが **P** にあり、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示が **P** を表示していること。
- エンジンスイッチからキーが取り外されている。
- 上り坂または下り坂の勾配では、前輪を縁石方向に向けなければなりません。

## エンジンの停止

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動

き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、エンジンを停止する方法が記載されています。

## 電気式パーキングブレーキ

### 全体的な注意事項

#### 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

電気式パーキングブレーキの機能は、バッテリー電圧の影響を受けます。バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、解除してあるパーキングブレーキを効かせることができない場合があります。

- ▶ このような場合は、水平な場所にのみ車両を駐車して、動き出さないように固定してください。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。

バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、効かせているパーキングブレーキを解除することができないことがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。エンジンが停止しているときに、電気式パーキングブレーキは定期的に機能チェックを行ないます。音が発生しますが正常です。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- 手動での作動/解除
- 自動的な作動
- 自動解除
- 緊急ブレーキ操作

## 長期間の車両の駐車

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## 運転のヒント

### 全体的な注意事項

### 重要な安全上の注意事項

#### 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

## 繊細な運転 - 燃料の節約

燃料を節約するために以下のヒントに注意してください。

- タイヤは常に推奨タイヤ空気圧に充填されている必要があります。
- 必要のない荷物は取り出してください。
- 必要でないときはルーフラックを取り外してください。
- 低いエンジン回転数でエンジンを暖機してください。
- 頻繁な加速やブレーキ操作は避けてください。
- 整備手帳のメンテナンス間隔、またはサービスインターバル表示で示されたとおりに、メンテナンス作業を実行してください。

寒い気候、交通渋滞、短距離の走行および丘陵地を走行する場合も、燃料消費量は増加します。

### ECO 表示

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### ブレーキ

#### 重要な安全上の注意事項

##### ⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

## 下り坂勾配

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## 高い、および低い負荷

### ⚠ 警告

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

## 濡れた路面

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## 塩化物が散布された道路でのブレーキ性能の制約

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

## 新品のブレーキパッド/ライニング

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### 濡れた路面の走行

#### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- ハイドロブレーキング現象
- 冠水路の走行

## 冬季の走行

### ⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

### ⚠ 危険

マフラーが遮られ、適切な換気が可能でない場合は、一酸化炭素（CO）のような有毒ガスが車内に入り込んでくる可能性があります。車両が雪にはまった場合などがあてはまります。致命的なけがの危険性があります。

エンジンまたは補助ヒーターを作動させたままにする場合は、マフラーや車両周辺に雪がないことを確認してください。新鮮な空気の適切な供給を確保するために、風のほうを向いていない車両側のウインドウを開きます。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

## 走行システム

### クルーズコントロール

#### 全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂勾配で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時低いギアを選択してください。このため、マニュアル走行モード **M** (▶ 137 ページ) に必ずシフトしてください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステム

への負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。30 km/h 以上の走行速度を記憶させることができます。

スピードメーターに表示される速度は設定した速度と若干異なる場合があります。

#### 重要な安全上の注意事項

運転スタイルを周囲に合わせていない場合、クルーズコントロールは事故の危険性を軽減できず、また物理的法則を越えて回避することもできません。クルーズコントロールは道路、天気、交通事情を考慮することはできません。クルーズコントロールは支援機能にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

以下のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 混雑している道路またはカーブの多い道路など、一定の速度を保つことができない道路および交通状況
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

運転者を交代する場合は、次の運転者に保存した速度を伝えてください。

## クルーズコントロールレバー



- ① 速度を設定する、または上げる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の速度/最後に記憶させた速度に設定する
- ④ 速度を設定する/下げる
- ⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表しています。

- LIM 表示灯が消灯：クルーズコントロールが選択されています。
- LIM 表示灯が点灯：可変スピードリミッターが選択されています。

クルーズコントロールを作動させたときは、記憶させた速度がマルチファンクションディスプレイに 5 秒間表示されます。

### クルーズコントロールの選択

- ▶ **クルーズコントロールの選択**：LIM 表示灯 ② がオンまたはオフかどうか確認します。

消灯しているときは、クルーズコントロールが選択されています。

- ▶ 点灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押しします。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

### 作動条件

クルーズコントロールを作動させるためには、以下の条件をすべて満たしている必要があります。

- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- 30 km/h より速く走行している。
- ESP®は設定されているが、介入していない。
- トランスミッションがポジション **D** である。
- クルーズコントロールが選択されている。

### 速度の記憶、維持、呼び出し

#### 現在の速度の記憶および維持

30 km/h より速く走行している場合は、現在の速度を保存できます。

- ▶ 希望の速度まで車両を加速させます。
- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く操作します。

- ▶ アクセルペダルから足を放してください。

クルーズコントロールが作動します。車両は自動的に速度を維持します。

- ① 上り坂では、クルーズコントロールは記憶させた速度を維持できないことがあります。勾配がなくなると、再度記憶させた速度になります。下り坂では、クルーズコントロールは自動的に車両にブ

ブレーキを効かせることにより、記憶させた速度を維持します。

### 現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す

#### ⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。初めてクルーズコントロールを作動させたときは、現在の速度が記憶されるか、または以前に記憶させた速度に車両速度を制御します。

### 速度の設定

車両が設定速度まで加速または減速するまでには少し時間がかかることに注意してください。

- ▶ より高い速度へは上 ① に、より低い速度へは下 ④ にクルーズコントロールレバーを押します。
- ▶ 希望する速度に到達するまで、クルーズコントロールレバーを押して保持します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを放します。新しい速度が記憶されます。
- ▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところまで、クルーズコ

ントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。

最後に記憶させた速度が 1 km/h 単位で増減します。

- ▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところを越えるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。最後に記憶された速度が 10 km/h 単位で増減します。

❗ クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏んだ場合でも解除されません。例えば、追い越しのために一時的に加速した場合は、追い越しが終了した後に、クルーズコントロールは最後に記憶させた速度に車両の速度を調整します。

### クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方に軽く押します ⑥。

または

- ▶ ブレーキを効かせます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されません。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

以下の場合にはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキで車両を停止している
- 30 km/h 以下で走行した
- ESP®が介入した、または ESP®を解除した
- 走行している間にトランスミッションをポジション N にシフトした

クルーズコントロールが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに**クルーズコントロール 解除**メッセージが約 5 秒間表示されます。

**i** エンジンを停止したときは、記憶させた最後の速度は消去されます。

## 可変スピードリミッター

### 全体的な注意事項

設定された速度を超えないように、可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂勾配で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時低いギアを選択してください。このため、マニュアル走行モード **M** に必ずシフトしてください(▶ 137 ページ)。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。さらに制動効果が必要な場合は、連続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

スピードリミッターまたはスノータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変スピードリミッター**は市街地などでの速度を制限するためのものです。
- **スノータイヤスピードリミッター**は、ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長時間にわたって速度を制限するためのものです。(▶ 149 ページ)

**i** スピードメーターに表示される速度は保存した制限速度と若干異なる場合があります。

### 重要な安全上の注意事項

運転スタイルを周囲に合わせていない場合、スピードリミッターは事故の危険性を低減させることができず、また物理的法則を回避することもできません。スピードリミッターは道路、天候および交通状況を考慮することはできません。スピードリミッターは支援機能にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

運転者を交代する場合は、次の運転者に保存した速度を伝えてください。

## 可変スピードリミッター

### 全体的な注意事項



- ① 速度を設定する、または上げる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の速度/最後に記憶させた速度に設定する
- ④ 速度を設定する/下げる
- ⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールまたはディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：** クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、30 km/h と技術的に許容される車両の最高速度の間で速度を制限することができます。ウィンタータイヤスピードリミッターの設定値がこの値より低い場合は、(▶ 149 ページ)が適用されます。

### 可変スピードリミッターの選択

- ▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているか確認してください。

点灯している場合は、可変スピードリミッターはすでに選択されています。点灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押しします。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

### 現在の速度の記憶

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のいかなる速度にも速度を制限することができます。

- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く操作します。  
現在の速度が記憶され、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

### 速度を設定する、または呼び出す

#### ⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に

減速することがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。

### 速度の設定

- ▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところを越えるまで、より高い速度へは上 ① に、より低い速度へは下 ④ に、クルーズコントロールレバーを軽く押しします。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えがあるところを越えるまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。より高い速度へは上 ① に、より低い速度へは下 ④ にクルーズコントロールレバーを押します。

- ▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：** より高い速度へは上 ① に、より低い速度へは下 ④ に、手応えがあるところまでクルーズコントロールレバーを軽く押しします。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えがあるところまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。より高い速度へは上 ① に、より低い速度へは下 ④ にクルーズコントロールレバーを押します。

### 可変スピードリミッターの待機状態への切り替え

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合は（キックダウン）、可変スピードリミッターは待機モードに切り替わります。マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージ

が表示されます。**可変スピードリミッター制御待機中**。

この後は、記憶させている速度を超えることができます。可変スピードリミッターは、以下のときに再度作動します。

- キックダウンをせずに、記憶させている速度以下で走行した
- 新たに速度を設定した、または
- 最後に保存された速度を再度呼び出した

マルチファンクションディスプレイのメッセージ **可変スピードリミッター制御待機中** が消えます。

### 可変スピードリミッターの解除

ブレーキ操作で可変スピードリミッターを解除することはできません。

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ④ に軽く押します。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押します。  
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

- ❶ エンジンを停止したときは、記憶させた最後の速度は消去されます。

### スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、160 km/h (例えばウィンタータイヤで走行するとき) から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます (▶ 174 ページ)。

記憶させた速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除した場合でも、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合でも (キックダウン)、記憶させた制限速度を超えることはできません。

## ディストロニック・プラス

### 全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する支援を行ないます。車両はレーダーセンサーシステムの支援で検知されます。ディストロニック・プラスは、設定速度を超えないように、または先行車との設定距離を維持するために自動的に車両にブレーキを効かせます。

長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。荷物を積載している車両を運転するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

ディストロニック・プラスが衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告を行ないます。運転者の操作なしでは、ディストロニック・プラスは衝突を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯が点灯します。安全な場合にのみ、ただちにブレーキを効かせて先行車両との距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

ディストロニック・プラスは 0 km/h ~ 200 km/h の間の速度で作動します。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行いません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

### ⚠ 警告

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者および複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

そのような場合は、ディストロニック・プラスは以下になることがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 意図せず加速する、またはブレーキをかける

事故の危険性があります。

特にディストロニック・プラスが警告した場合は、慎重に走行を続け、ブレーキを効かせる準備をしてください。

### ⚠ 警告

ディストロニック・プラスは最大可能減速の50%まで車両にブレーキを効かせます。減速が十分でない場合は、ディストロニック・プラスは視覚的および聴覚的警告で運転者に警告します。事故の危険性があります。

これらの状況では自分でブレーキを効かせ、回避行動を取るよう試みてください。

❗ ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動しているときは、特定の状況で車両は自動的にブレーキを効かせます。

車両への損傷を防ぐために、以下の、または類似した状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください。

- けん引するとき
- 洗車機の中

運転スタイルを合わせられない場合は、ディストロニック・プラスは事故の危険性を低減することはできません。物理的限界を超えることはできません。ディストロニック・プラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

以下のときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

- 混雑している道路またはカーブの多い道路など、一定の速度を保つことができない道路および交通状況
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なる車線を走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射の可能性がある

ディストロニック・プラスが先行車両を検知しなくなった場合は、記憶させた速度まで予期せず加速することがあります。速度は以下になるおそれがあります。

- 変更される車線や滑りやすい道路で非常に高くなりすぎる
- 左を走行している車両を追い越すとき、右車線で非常に高くなる
- 右を走行している車両を追い越すとき、左車線で非常に高くなる

運転者を交代する場合は、次の運転者に保存した速度を伝えてください。

## クルーズコントロールレバー



- ① 現在の走行速度、またはより高い速度を記憶させる
- ② 指定最短距離を設定する
- ③ LIM 表示灯
- ④ 現在の走行速度を記憶する、または記憶されている速度を呼び出す
- ⑤ 現在の走行速度、またはより低い速度を記憶させる

⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える

⑦ ディストロニック・プラスを解除する  
クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：** ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

## ディストロニック・プラスの選択

▶ LIM 表示灯 ③ が消灯しているか確認してください。

消灯している場合は、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。

▶ 点灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ④ に押しします。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

## ディストロニック・プラスの作動

### 作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件をすべて満たさなければなりません。

- エンジンがかかっていなければならぬ。ディストロニック・プラスを使用する準備ができるまで、2 分程度走行しなければならない。
- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- ESP®は設定されているが、介入していない。
- アクティブパーキングアシストが作動していない。

- トランスミッションがポジション **D** である。
- **P** から **D** にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが着用されている。
- 助手席ドアとリアドアが閉じていなければならない。
- クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスの機能が選択されている (▷ 151 ページ)。

### オンにする

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前 ④、上 ① または下 ⑤ に軽く引きます。ディストロニック・プラスが作動します。
- ▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを押し上げたままにするか ① 下げたままにします ⑤。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。記憶させた希望の速度までのみ、先行車両の速度に自車の速度が合わせられます。

**i** アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイに **ディストロニック・プラス制御待機中** というメッセージが表示されます。このときは、ゆっくり走行している先行車両との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止しているときもディストロニック・プラスを作動させることができます。設定できる最低速度は 30 km/h です。

### ディストロニック・プラスでの運転

#### 発進と走行

未確認の障害物に面しているとき、または他車と異なるラインを走行するときにも、車両は発進できます。その後、車

両は自動的にブレーキを効かせます。いつでもブレーキを効かせられる準備をしてください。

ブレーキを踏んだとき、車両が停止していない場合はディストロニック・プラスは解除されます。

▶ **ディストロニック・プラスで発進した場合**：ブレーキペダルから足を放します。

▶ クルーズコントロールレバー (▷ 151 ページ) を手前に軽く引きます ④。

または

▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。

車両が発進して、走行速度を先行車両の速度に合わせます。

前方に車両を検知していない場合は、車両は設定した速度まで加速します。

先行車両がない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

先行車両が減速したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両にブレーキを効かせます。このようにして設定した車間距離が維持されます。

前方でより速く走行している車両をディストロニック・プラスが検知した場合は、走行速度が上がります。記憶した速度まで車両は加速します。

#### 走行モードの選択

走行モード **S** または **M** を選択しているときは、ディストロニック・プラスはスポーティな運転スタイルを支援します (▷ 136 ページ)。先行車両の後方まで、または設定した速度まで非常にダイナミックに加速します。走行モード **E** (AMG 車両： **C**) を選択している場合は、車両はさらに穏やかに加速します。この設定は交通渋滞で推奨されます。

## 車線変更

以下のときに追い越し車線に移る場合は、ディストロニック・プラスは運転者を支援します。

- 70 km/h 以上で走行している
- ディストロニック・プラスが先行車両との距離を維持している
- 対応する方向指示灯を作動させている
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していない

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、車両と先行車両との距離が短すぎる場合は、加速は中断されます。

## 停止

### ⚠ 警告

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっているにもかかわらず以下の場合には車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

ディストロニック・プラスの解除についてのさらなる情報は、(▶ 154 ページ)をご覧ください。

先行車両が停止したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。

① その後すぐに、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービスマスターブレーキの負担が軽減されます。

② 設定最短距離によっては、車両は先行車両の後方に十分な距離があるところで停止することがあります。設定最短距離はクルーズコントロールレバーを使用して設定します。

ホールド機能を作動させているときは、以下の場合にトランスミッションは自動的にポジション P にシフトします。

- 運転席のシートベルトが着用されていない、運転席ドアを開いた
- ECO スタートストップ機能による自動停止以外の方法でエンジンを停止した車両が停止しているときにディストロニック・プラスが作動状態で以下の場合には、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。
- システムに異常が発生した
- 電力供給が不十分である

電気式パーキングブレーキが故障した場合は、トランスミッションが自動的にポジション P にシフトすることがあります。

## 速度の設定



車両が設定速度まで加速または減速するまでには少し時間がかかることに注意してください。

- ▶ より高い速度へは上 ① に、より低い速度へは下 ② にクルーズコントロールレバーを押します。
- ▶ 希望する速度に到達するまで、クルーズコントロールレバーを押して保持します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを放します。  
新しい速度が記憶されます。ディストロニック・プラスが作動し、新しく記憶させた速度に車両速度を調整します。
- ▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く押します。  
最後に記憶させた速度が 1 km/h 単位で増減します。
- ▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところを越えるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く押します。  
最後に記憶された速度が 10 km/h 単位で増減します。

❶ アクセルペダルを踏んだ場合でも、ディストロニック・プラスは解除されません。追い越すために加速した場合は、追い越しを終了した後に、ディストロニック・プラスは最後に記憶させた速度に車両の速度を調整します。

### 指定最短距離の設定

時間間隔を 1 秒から 2 秒の間で変えることにより、ディストロニック・プラスの設定最短距離を設定することができます。この機能により、車両速度に応じてディストロニック・プラスが維持する、先行車両との最短距離を設定することができます。マルチファンクションディスプレイでこの距離を表示することができます (▶ 155 ページ)。

❶ 法令に要求されているような先行車両との最短距離を維持していることを確認してください。必要であれば、先行車両との距離を調整してください。



- ▶ **長くする：** コントローラー ③ を ② の方向にまわします。  
ディストロニック・プラスは自車と先行車両との距離をより長く維持します。
- ▶ **短くする：** コントローラー ③ を ① の方向にまわします。  
ディストロニック・プラスは自車と先行車両との距離をより短く維持します。

### ディストロニック・プラスの解除



ディストロニック・プラスを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。  
または
- ▶ 車両が停止していないときにブレーキを効かせます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ③ に軽く押します。  
可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除したときは、マルチファンクションディスプレイに **ディストロニックプラス オフ** というメッセージが約 5 秒間表示されます。

**i** エンジンを停止するまでは、最後に記憶させた速度が記憶されたままになります。アクセルペダルを踏んだ場合でも、ディストロニック・プラスは解除されません。

以下の場合、ディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせた、または車両が自動的に電気式パーキングブレーキで固定された
- ESP®が介入した、または ESP®を解除した
- トランスミッションが **P**、**R**、または **N** ポジションにある
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを運転者の方向に引き、助手席ドアまたはいずれかのリアドアが開いている
- 車が横滑りしている
- アクティブパーキングアシストを作動させた

ディストロニック・プラスが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに **ディストロニック・プラス オフ** というメッセージが約 5 秒間表示されます。

## メーターパネルのディストロニック・プラス表示

### スピードメーターの表示



例：スピードメーターのディストロニック・プラスの表示

ディストロニック・プラスが作動している、前方に車両が検知されていない場合、設定した速度域の 1 個または 2 個のセグメント ② が点灯します。

ディストロニック・プラスが先行車を検知すると、先行車の速度 ③ と設定した速度 ① の間のセグメント ② が点灯します。

**i** 設計上の理由により、スピードメーターに表示された速度はディストロニック・プラスで設定された速度と多少異なることがあります。

### ディストロニック・プラスが非作動のときの表示

**白黒マルチファンクションディスプレイ 装備車両：** マルチファンクションディスプレイを使用して、車間ディスプレイ機能を選択します。

**カラーマルチファンクションディスプレイによる車両表示：** マルチファンクションディスプレイのアシストメニューでアシスト一覧を選択できます。



## アシスト一覧

- ① 検知された先行車両
- ② 距離インジケータ：先行車両までの現在の距離
- ③ 先行車両までの設定最短距離、調整可能
- ④ 車両

▶ カラーマルチファンクションディスプレイ装備車両：マルチファンクションディスプレイを使用して、[アシスト一覧](#)機能を選択します(▷ 174 ページ)。



車間ディスプレイ表示（白黒マルチファンクションディスプレイ）

- ① 検知された先行車両
- ② 距離インジケータ：先行車両までの現在の距離
- ③ 先行車両までの設定最短距離、調整可能
- ④ 車両

▶ 白黒マルチファンクションディスプレイ装備車両：マルチファンクション

ディスプレイを使用して、[車間ディスプレイ](#)機能を選択します(▷ 174 ページ)。

### ディストロニック・プラスが作動しているときの表示

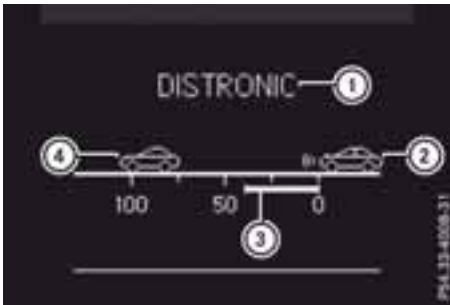
ディストロニック・プラスを作動させると、最初に設定した速度が約 5 秒間表示されます。



## アシスト一覧

- ① 検知された先行車両
- ② 先行車両までの設定最短距離、調整可能
- ③ 車両
- ④ ディストロニック・プラス作動（文字はクルーズコントロールレバーが動かされた場合のみ表示されます）

▶ カラーマルチファンクションディスプレイ装備車両：マルチファンクションディスプレイを使用して、[アシスト一覧](#)機能を選択します(▷ 174 ページ)。



車間ディスプレイ表示（白黒マルチファンクションディスプレイ）

- ① ディストロニック・プラス作動
- ② 車両
- ③ 先行車両までの設定最短距離、調整可能
- ④ 検知された先行車両

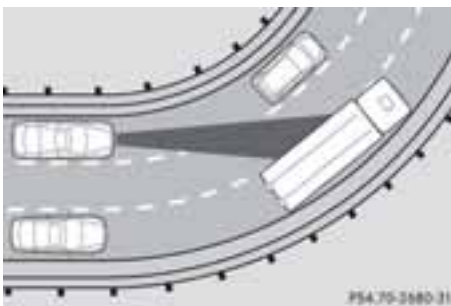
▶ **白黒マルチファンクションディスプレイ装備車両**：マルチファンクションディスプレイを使用して、**車間ディスプレイ**機能を選択します（▶ 174 ページ）。

## ディストロニック・プラスでの運転のヒント

### 全体的な注意事項

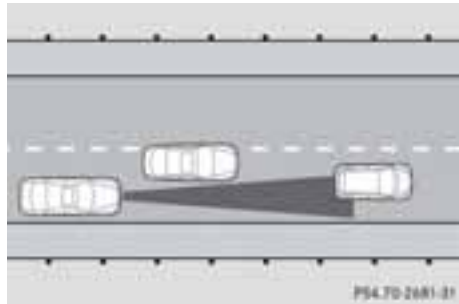
以下には、特に注意すべき道路や交通状況の記載が含まれています。そのような状況では必要であればブレーキを効かせてください。ディストロニック・プラスは解除されます。

### カーブの走行、侵入および退出時



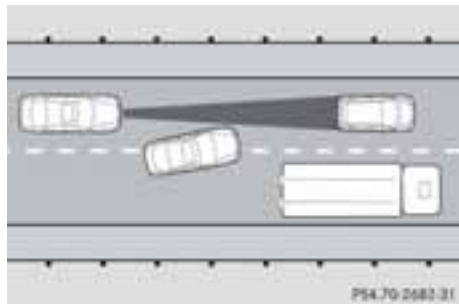
カーブではディストロニック・プラスの車両を検知する能力には限界があります。予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

### 車線の中央を走行していない車両



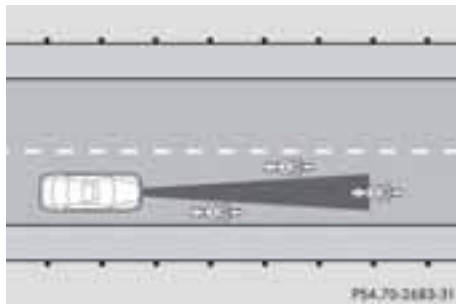
ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を認識することができません。先行車両との距離は非常に短くなる場合があります。

### 車線変更する他の車両



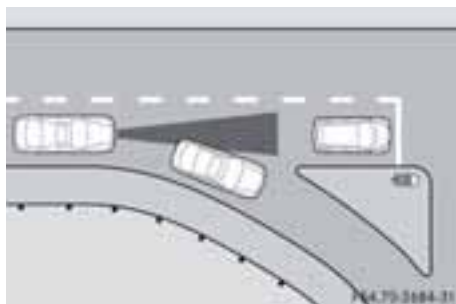
ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。この車両との距離は非常に短くなる場合があります。

## 幅の狭い車両



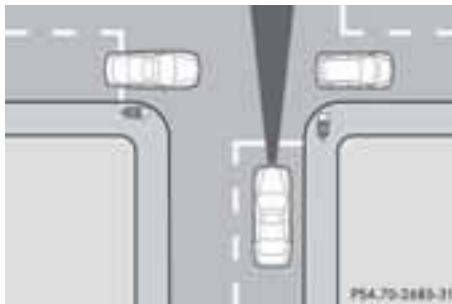
ディストロニック・プラスは道路の端を走行する幅の狭い車両を検知しないことがあります。先行車両との距離は非常に短くなることがあります。

## 障害物や停止車両



ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないことがあります。例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

## 横切る車両



ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、例えば不意に車両が発進することがあります。

## ホールド機能

## 全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を支援します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏んだときは、ブレーキ効果が失われホールド機能は解除されます。

## 重要な安全上の注意事項

## ⚠ 警告

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを効かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される

- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
  - バッテリーの接続が外された
- 事故の危険性があります。
- 車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

**!** ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動しているときは、特定の状況で車両は自動的にブレーキを効かせます。

車両への損傷を防ぐために、以下の、または類似した状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください。

- けん引するとき
- 洗車機の中

ホールド機能を解除します (▷ 159 ページ)。

### 作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 車両が停止している
- エンジンがかかっている、または ECO スタートストップ機能によって自動的に停止している
- 運転席ドアを閉じている、または運転者がシートベルトを着用している
- 電気式パーキングブレーキが解除されている
- ディストロニック・プラスが解除されている
- オートマチックトランスミッション装備車両で **D**、**R**、**N** のポジションにトランスミッションがある

### ホールド機能を作動させる



- ▶ 作動条件が満たされていることを確認します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
- ▶ マルチファンクションディスプレイに ① が表示されるまでブレーキペダルを素早く深く踏み込みます。ホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を放すことができます。

**!** 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

### ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んだ。オートマチックトランスミッション装備車両：トランスミッションがポジション **D** または **R** のときにのみ。
- オートマチックトランスミッション装備車両で、トランスミッションがポジション **P** である。
- マルチファンクションディスプレイの ① が消えるまでブレーキペダルを再度深く踏んだ。
- ディストロニック・プラスを作動させた。
- 電気式パーキングブレーキを使用して車両を動かさないようにした。

**!** その後すぐに、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービブレーキの負担が軽減されます。

ホールド機能を作動させているときは、以下の場合にトランスミッションは自動的にポジション **P** にシフトします。

- 運転席のシートベルトが着用されていなく、運転席ドアを開いた
- ECO スタートストップ機能による自動停止以外の方法でエンジンを停止した

ホールド機能が作動しているときに、車両が停止している以下の場合に、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- システムに異常が発生した
- 電力供給が不十分である

## 4MATIC

**!** 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。ディファレンシャルを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。すべての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていないかなりません。車輪すべてが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

4MATIC は、接地力が不十分なため駆動輪が空転したときはいつでも、ESP® とともに車両の駆動力を向上させます。

運転スタイルを合わせられない場合は、4MATIC は事故の危険性を軽減できないだけでなく、物理的法則を乗り越えることもできません。4MATIC は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。4MATIC はあくまでも運転を支援するシステムです。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

接地力が不十分なため駆動輪が空転する場合

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 走行中はアクセルペダルを緩めてください。

**i** 冬に走行するときは、ウィンタータイヤ (M+S タイヤ) や必要であればスノーチェーンを装着すると 4MATIC の効果が最大限に発揮されます。

## パークトロニック

### 重要な安全上の注意事項

パークトロニックは超音波センサーによる、電子的な駐車支援です。フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 6 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。パークトロニックは、車両と物体との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

**!** 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは雪やその他の超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。自動洗車機やトラックの圧縮空気ブレーキ、空気ドリルなどが発生する超音波によりパークトロニックが機能しないことがあります。

不整地などではパークトロンニックが正しく作動しないことがあります。

以下のときに、パークトロンニックは自動的に作動します。

- イグニッションをオンにした
  - トランスミッションをポジション **D**、**R** または **N** にシフトした
  - 電気式パーキングブレーキを解除した
- パークトロンニックは、18 km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

## センサーの範囲

### 全体的な注意事項

以下にある物を、パークトロンニックは考慮に入れません。

- 人や動物、障害物などが検知範囲の下にある
- 突き出た荷物、車両後部、または積載用スロープなどが検知範囲の上にある



① 例：左側フロントバンパーのセンサー  
センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。さもないと、適切に機能しないことがあります。センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください (p. 248 ページ)。

## 走行可能距離



### フロントセンサー

センター	100 cm
コーナー	60 cm

### リアセンサー

センター	120 cm
コーナー	80 cm

### 最短距離

センター	20 cm
コーナー	20 cm

この範囲内に障害物がある場合は、対応する警告表示が点灯して警告音が鳴ります。距離が最短以下になった場合は、距離が表示されなくなることがあります。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 警告表示
- パークトロニックの解除/作動
- パークトロニックのトラブル

## アクティブパーキングアシスト

### 全体的な注意事項

アクティブパーキングアシストは、超音波により駐車を支援するシステムです。車両の両側の道路を測定します。駐車マークは、適切な駐車スペースを示します。駐車している間、または駐車スペースから出るとき、ステアリング操作への介入およびブレーキの適用によって運転者を補助します。パークトロニックも利用できます (▶ 160 ページ)。

### 重要な安全上の注意事項

アクティブパーキングアシストは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。操作範囲に人や動物や物がないことを確認してください。

パークトロニックが解除されているときは、アクティブパーキングアシストも使用できません。

#### ⚠ 警告

検知範囲上に障害物がある場合:

- 作動中のパーキングアシストのステアリング操作が早すぎる場合があります。
- 車両が障害物の前で停車しないことがあります。

衝突する原因となる可能性があります。事故の危険性があります。

検知範囲上に障害物があるときは、停止してアクティブパーキングアシストをオフにしてください。

#### ⚠ 警告

駐車するときや駐車スペースから出るとき、車両がはみ出し、対向車線に入ることがあります。他の道路使用者とぶつかる可能性があります。事故の危険性があります。

他の道路利用者に注意してください。必要な場合は停車して、アクティブパーキングアシストの作動を解除してください。

**!** 避けられないときは、ゆっくりと鋭角でない角度で縁石などの障害物を乗り越えてください。ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

アクティブパーキングアシストは、以下のような駐車するのに適さないスペースを表示することがあります。

- 駐車または停車が禁止されている。
- 私道の手前または建物の出入り口。
- 路面が駐車するのに適していない場所。

駐車のヒント：

- 狭い道路では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- ゴミが散乱していたり、草が茂っている駐車スペースは、確認や測定が正しく行なわれないことがあります。
- トレーラーけん引部が一部を占有している駐車スペースを識別できなかったり、正しく測定できないことがあります。
- 雪や激しい雨により、正しく計測されていない駐車スペースに誘導されることがあります。
- 駐車操作を行なっている間は、パークトロニック (▶ 162 ページ) の警告メッセージに注意してください。
- 運転者はいつでもステアリング操作に介入して修正できます。その場合はア

クティブパーキングアシストが解除されます。

- 車両からはみ出している荷物を運んでいるときは、アクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、アクティブパーキングアシストを絶対に使用しないでください。
- タイヤ空気圧が常に適正であることを確認してください。これは車両の駐車動作に直接影響を与えます。

アクティブパーキングアシストは以下のような駐車スペースで使用してください。

- 進行方向と平行または直角である。
- カーブしていないまっすぐな道にある。
- 歩道などでなく、道路と同じ高さにある。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 駐車スペースの検知
- 駐車
- 駐車スペースからの退出
- アクティブパーキングアシストの中止

## リアビューカメラ

### 全体的な注意事項



リアビューカメラ①は、映像によって駐車およびステアリング操作を支援します。COMAND ディスプレイに、ガイドラインとともに車両後方の映像を表示します。車両後方のエリアは、ルームミラーに映るように鏡像で表示されます。

**i** COMAND ディスプレイに表示されるメッセージの文字は、言語設定により異なります。以下は COMAND ディスプレイのリアビューカメラディスプレイの例です。

清掃についての注意事項をご覧ください (p. 248 ページ)。

### 重要な安全上の注意事項

リアビューカメラは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

以下のような環境ではリアビューカメラが機能しなかったり、制限された方法で機能します。

- トランクリッドが開いている場合
- 激しい雨、雪または霧で
- 夜や非常に暗い場所で
- カメラが非常に明るい光に照らされている場合
- 周囲が蛍光灯の電球や LED の光で照らされている場合 (ディスプレイがちらつくことがあります)
- 冬に暖かい車庫に入ったときなど、急激な温度変化が原因でカメラが曇った場合

- カメラのレンズが汚れている、または遮られている場合。清掃に関する注意事項に従ってください (▶ 248 ページ)
- 車両の後部が損傷している場合。この場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場カメラの位置および設定を点検してください

車両後部に追加したアクセサリー（ナンバープレートホルダー、自転車ラックなど）により、リアビューカメラの視界および他の機能が制限される可能性があります。

**!** 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くにあるように見ることがあります。

- 駐車車両のバンパー
- トレーラーのトーイングバー
- トレーラーけん引ヒッチのボールヘッドカップリング
- 大型車のリア部
- 傾いた柱

ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。障害物に近付くときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。

リアビューカメラは、障害物の歪んだ映像を表示したり、それらを正しく、またはまったく表示しないことがあります。以下のような場所にある障害物は、リアビューカメラで表示されません。

- リアバンパーのすぐ近く
- リアバンパーの下
- テールゲートハンドルの上のエリア

### リアビューカメラの作動/停止

- ▶ **作動させる**： エンジンスイッチのキーが 2 の位置にあることを確認します。
- ▶ COMAND システムで、"**リバース連動**" 機能が選択されていることを確認し

ます。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

- ▶ **リバースギア**に入れます。車両後方のエリアがガイドライン入りで、COMAND システムディスプレイに表示されます。

操作手順中はリアビューカメラの映像が利用できるようになります。

**停止する**：トランスミッションを P にシフトした場合、または短距離を前進した後に、リアビューカメラは停止します。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- COMAND システムディスプレイの表示
- "後退駐車"機能
- 広角機能

### アテンションアシスト

#### 全体的な注意事項

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間の変化の少ない走行をするときに運転者を支援します。60 km/h ~ 200 km/h の速度域で作動します。運転者の疲労や集中力欠如の増加の典型的な兆候を検知した場合は、アテンションアシストは休憩を促します。

#### 重要な安全上の注意事項

アテンションアシストは単なる支援にすぎません。疲労や集中力欠如を検知するのが遅すぎたり、まったくしないことがあります。十分な休憩を取り、集中力がある運転者の代わりになるものではありません。

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。


- 走行時間が約 30 分以下の場合
- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪い場合
- 横風が強い場合
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっている場合
- 主に 60 km/h 以下、または 200 km/h 以上の速度で走行している場合
- 時刻が正しく設定されていない場合
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況の場合

走行を継続するときは、以下のときにアテンションアシストはリセットされ、運転者の疲労の評価を開始します。

- エンジンを停止した
- 運転者を交代したり、休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席のドアを開いた

### 白黒マルチファンクションディスプレイでのアテンションレベルを表示する



- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、ステータス一覧を選択します (▷ 174 ページ)。
- ▶  を押して、アテンションアシストの評価を表示させます。

以下の情報が表示されます。

- 最後の休憩からの走行時間
- 低いから高いまで 5 段階のバー表示で表示される、アテンションアシスト (注意レベル) によって判断されるアテンションレベル
- アテンションアシストがアテンションレベルを算出できず、警告を発することができない場合は、**システム停止** というメッセージが表示されます。60 km/h 以下、または 200 km/h 以上の速度で走行している場合などは、バー表示が変更されます。

### カラーマルチファンクションディスプレイでのアテンションレベルの表示



マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー (▷ 174 ページ) に現在のステータス情報を表示させることができます。

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストのアシスト一覧表示を選択します (▷ 174 ページ)。

以下の情報が表示されます。


- 最後の休憩からの走行時間
- 低いから高いまで5段階のバー表示で表示される、アテンションアシスト(注意バル)によって判断されるアテンションレベル
- アテンションアシストがアテンションレベルを算出できず、警告を発することができない場合は、**沈黙停止**というメッセージが表示されます。60 km/h以下、または200 km/h以上の速度で走行している場合などは、バー表示が変更されます。


### アテンションアシストの設定

- ▶マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストを動作させます(▶174ページ)。  
システムは、選択された以下の設定によって運転者のアテンションレベルを判断します。

**標準**を選択：アテンションレベルを判断するシステムの感度が標準に設定されます。

**高感度**を選択：感度がより高く設定されます。それに従ってアテンションアシストにより検知されるアテンションレベルが合わされ、運転者に早く知らされます。

**白黒マルチファンクションディスプレイ** 装備車両：アテンションアシストが設定されているときは、マルチファンクションディスプレイのステータス一覧に  マークが表示されます。

**カラーマルチファンクションディスプレイ** 装備車両：アテンションアシストが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に  マークが表示されます。

アテンションアシストが解除されているときは、エンジンが停止した後に自動的に再設定されます。選択される感度は、

最後に設定した選択に対応します(標準/高感度)。

### マルチファンクションディスプレイの警告

疲労または集中力欠如の増加が検知された場合は、マルチファンクションディスプレイに **アテンションアシスト休憩しませんか?** と警告が表示されます。

マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージに加えて、警告音が聞こえます。

- ▶必要な場合は、休憩を取ってください。
- ▶ステアリングの **OK** スイッチを押して、メッセージを確定します。

運転時間が長くなるような場合には、十分な回復を考慮に入れ、都合の良い時間に定期的に休憩を取ってください。休憩を取らず、アテンションアシストがなお集中力欠如の増加を検知している場合は、15分後に再度警告されます。これは、アテンションアシストが疲労または集中力低下の増加の兆候を検知した場合のみ実行されます。

警告がマルチファンクションディスプレイに表示された場合は、COMANDシステムでサービスステーションの検索が実行されます。ガソリンスタンドを選択することができ、このガソリンスタンドへのナビゲーションを開始します。この機能はCOMANDシステムで設定および解除できます。

### レーントラッキングパッケージ

#### 全体的な注意事項

レーントラッキングパッケージはブラインドスポットアシスト(▶167ページ)とレーンキーピングアシスト(▶168ページ)で構成されます。

## ブラインドスポットアシスト

### 全体的な注意事項

ブラインドスポットアシストは、左右の後ろ向き2つのレーダーセンサーで、運転者には見えない車両の側方エリアをモニターします。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。車線変更するために該当する方向指し灯を作動させた場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告も発せられます。

ブラインドスポットアシストは、約30 km/h以上の速度で運転者の支援を行いません。

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

ブラインドスポットアシストは以下の場合には車両に反応しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき

このような状況では、ブラインドスポットアシストは運転者に警告を発することができません。事故の危険性があります。常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側と安全な車間距離を維持してください。

ブラインドスポットアシストは単なる支援にすぎません。いくつかの車両は検知できないことがあり、注意を払った走行の代わりになるものではありません。他の道路使用者および障害物との十分な側方距離があることを常に確認してください。

### レーダーセンサー

ブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、リアバンパーに内蔵されています。バンパーに汚れ、凍結あるいは泥が付着していないようにしてください。

自転車キャリアや突き出た荷物などでセンサーが覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。ブラインドスポットアシストが正常に作動しなくなることがあります。

### センサーのモニター範囲

特に以下のときは、障害物の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両である
- 非常に幅の広い車線
- 幅の狭い車線
- 車両が車線の中央を走行していない
- ガードレールその他の道路分離帯

このときは、モニター範囲にある車両は示されません。



ブラインドスポットアシストは、図に示すように車両後方および真横の3.0 mまでの範囲をモニターします。そのため、ブラインドスポットアシストはリアバン

パーに装着されたレーダーセンサーを使用します。

車線の幅が狭い場合、車両が中央を走行していない場合は2車線横を走行している車両が検知されることがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または類似の連続している車線境界の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります
- トレーラーなどの特に長い車両と長時間並走しているときに、警告が中断されることがあります

### 警告表示



#### ① 警告表示

ブラインドスポットアシストは、30 km/h 以下の速度では作動しません。このときは、モニター範囲にある車両は示されません。

ブラインドスポットアシストが設定されている場合は、ドアミラーの表示灯①が約 30 km/h の速度まで黄色に点灯します。約 30 km/h 以上の速度では、表示灯が消え、ブラインドスポットアシストが作動可能になります。

30km/h 以上の速度で、ブラインドスポットアシストのモニター範囲内で車両が検知された場合は、対応する側の警告

灯①が赤色に点灯します。この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ってきたときに常に行なわれます。車両を追い越すときは、速度差が 12 km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

リバースギアに入れた場合は、黄色の表示灯は消灯します。そして、ブラインドスポットアシストが解除されます。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- 衝突警告
- ブラインドスポットアシストの作動

### レーンキーピングアシスト

#### 全体的な注意事項



レーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部に装着されたカメラ①で車両前方をモニターします。レーンキーピングアシストは道路の車線マークを検知し、不意に車線から離れる前に警告を發します。

この機能は、60 km/h ~ 200 km/h の間の速度域内で作動します。

前輪が車線マークを越えた場合は警告が行なわれます。警告は、ステアリングを 1.5 秒以内で継続的に振動させることにより行なわれます。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

レーンキープアシストは常に明確に車線ラインを検知することはできません。このような場合、レーンキープアシストは以下を行うことがあります

- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

特にレーンキープアシストが警告しているときは、必ず交通状況および車線内を保つように特に注意してください。

### ⚠ 警告

車両が元の車線に戻らないと、レーンキープアシストによって警告が発せられます。事故の危険性があります。

レーンキープアシストが警告しているときは、常に運転者自身で車両のステアリング操作やブレーキ操作または加速操作を行ってください。

運転スタイルを合わせていない場合は、レーンキープアシストは事故の危険性を軽減することができません。また、物理的限界を超えることはできません。レーンキープアシストは、道路、天候、または交通状況を考慮することはできません。レーンキープアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

レーンキープアシストは車両を車線内に維持することはできません。

以下のときは、システムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や霧雨などにより、視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射光などで眩惑がある（路面が濡れている場合など）

- フロントウィンドウが汚れていたり、曇っている、またはカメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 工事エリアなどで1車線分の車線マークがまったくないか、または複数ある、不明瞭である
- 車線マークが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路に著しく様々な日陰の状況がある

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下に関する情報があります。

- レーンキープアシストの作動

役に立つ情報 .....	172
重要な安全上の注意事項 .....	172
表示および操作 .....	172
メニューおよびサブメニュー .....	174
ディスプレイメッセージ .....	175
メーターパネルの警告および表示 灯 .....	189

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で情報をご覧ください。(▷ 26 ページ)

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

### ⚠ 警告

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能を認識することができません。走行安全性が損なわれる可能性があります。事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で点検を受けてください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。そのため、車両が安

全に作動していることを常に確認ください。

車両の操作安全性が損なわれている場合は、できるだけ早く車両を安全に駐車します。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

概要については、メーターパネルのイラストをご覧ください(▷ 32 ページ)。

## 表示および操作

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- メーターパネル照明
- 冷却水温度計
- タコメーター
- 外気温度表示
- セグメント付きスピードメーター
- マルチファンクションディスプレイ

## マルチファンクションディスプレイの操作





- ① マルチファンクションディスプレイ
- ② 右側コントロールパネル
- ③ 左側コントロールパネル

▶ **マルチファンクションディスプレイを  
作動させる：** エンジンスイッチのキー  
を 1 の位置にまわします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの表示と設定を操作することができます。

## 左側コントロールパネル







◀	• メニューやメニューバーの呼び出し
▶	• メニューやメニューバーの呼び出し
▲	<b>軽く押す：</b>
▼	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リストのスクロール</li> <li>• サブメニューや機能の選択</li> <li>• <b>オーディオ</b>メニュー：チャンネルプリセットリストまたは放送局リストが開いている場合、前/次の放送局、オーディオトラックまたはビデオシーンの選択</li> <li>• <b>TEL</b>（電話）メニュー：電話帳の表示、名前や電話番号の選択</li> </ul>
▲	<b>押し続けて保持する：</b>
▼	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>オーディオ</b>メニュー：高速スクロールを使用しての、希望の周波数バンドでのプリセットリストまたは放送局リスト、または音楽トラックまたは画像シーンの選択</li> <li>• <b>TEL</b>（電話）メニュー：電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始</li> </ul>
OK	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 選択/ディスプレイメッセージの確定</li> <li>• <b>Tel</b>（電話）メニュー：電話帳への切り替え、および選択した番号の発信開始</li> </ul>

	<b>軽く押す：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 戻る</li> <li>• 音声認識機能の停止（別冊の取扱説明書をご覧ください）</li> <li>• ディスプレイメッセージの消去/最後に使用した <b>トリップ</b> メニュー機能の呼び出し</li> <li>• 電話帳/発信履歴の終了</li> </ul>
	<b>押し続けて保持する：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>トリップ</b> メニューの基本画面の呼び出し</li> </ul>

車両に装着されている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。



- **トリップ** メニュー
- **ナビ** メニュー（ナビゲーション案内）
- **オーディオ** メニュー
- **TEL** メニュー（電話）
- **アシスト** メニュー（アシスト）
- **メンテナンス** メニュー
- **設定** メニュー（設定）

### 右側コントロールパネル

	• 音声認識機能の作動（別冊の取扱説明書をご覧ください）
	• ミュート
	• 音量を調整する
	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通話の拒否、または終了</li> <li>• 電話帳/発信履歴の終了</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発信、または受話</li> <li>• 発信履歴への切り替え</li> </ul>

## メニューおよびサブメニュー

### メニュー概要

ステアリングの  または  スイッチを押してメニューバーを呼び出し、メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 173 ページ)。

デジタル版取扱説明書には、個別のメニューに関するさらなる情報が記載されています。

## ディスプレイメッセージ

### はじめに

#### 全体的な注意事項

本項目では、安全に関わるディスプレイメッセージおよびその対応方法などについて記載しています。他のメッセージおよびその対応方法の記載については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項にも従ってください。

いくつかのディスプレイメッセージは、警告音、または連続音が伴います。

イグニッションをオフにしたときは、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。重要度の高いディスプレイメッセージの原因が修正されると、同様にこれらのディスプレイメッセージも削除されます。

車両を駐停車するときは、ホールド機能 (▷ 158 ページ) および駐車 (▷ 141 ページ) についての注意事項に従ってください。

#### ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの **OK** または **↔** スイッチを押します。

ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイは、重要度の高いメッセージを赤色で表示します。一部の重要度の高いディスプレイメッセージは非表示にはできません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

#### メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは **メッセージメモリー** 中の特定のディスプレイメッセージを保存します。以下のようにしてディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**メナツ** メニューを選択します。

ディスプレイメッセージがある場合は、例えばマルチファンクションディスプレイに **2 メッセージ** と表示されます。

▶ **▲** または **▼** スイッチを押して、例えば **2 メッセージ** を選択します。

▶ **OK** を押して確定します。

▶ **▲** または **▼** スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

## 安全システム

## ディスプレイメッセージ



現在 使用できません  
取扱説明書を参照

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび PRE-SAFE®が一時的に作動しない。

アダプティブブレーキライトおよび CPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

さらに、メーターパネルの 、 および  警告灯が点灯することがある。

アテンションアシストが解除されている。

考えられる原因：

- 自己診断がまだ完了していない。
- バッテリーの電圧が不十分なことがある

 **警告**

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。

スリップの危険性や事故の危険性が高まります。

▶ 20km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な直線路を慎重に走行してください。

ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能は再度作動可能になります。

ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。







作動できません 取扱  
説明書を参照

故障のため、ABS、BAS、ESP®、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび PRE-SAFE®が作動しない。

アダプティブブレーキライトおよび CPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

メーターパネルの 、、 および  警告灯も点灯することがある。  
アテンションアシストが解除されている。

**⚠ 警告**

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。

ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

スリップの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



現在 使用できません  
取扱説明書を参照

ESP<sup>®</sup>、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび PRE-SAFE<sup>®</sup>が一時的に作動しない。

アダプティブブレーキライトおよび CPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

さらに、メーターパネルの  および  警告灯が点灯することがある。

アテンションアシストが解除されている。

たとえば、自己診断がまだ完了していないことがある。

### 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。

緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

スリップの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。  
ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能は再度作動可能になります。

ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：



- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



作動できません 取扱  
説明書を参照

故障のため、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび PRE-SAFE®が作動しない。  
アダプティブブレーキライトおよび CPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。  
さらに、メーターパネルの  および  警告灯が点灯することがある。  
アテンションアシストが解除されている。

 **警告**

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。

緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。

スリップの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



作動できません 取扱  
説明書を参照

故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション）、ABS、BAS、ESP<sup>®</sup>、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび PRE-SAFE<sup>®</sup>が作動しない。

アダプティブブレーキライトおよび CPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。

警告音が鳴る。

さらに、メーターパネルの 、 および  警告灯が点灯することがある。

### ⚠ 警告






ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。







ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。

ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。

スリップの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<div data-bbox="120 213 202 256" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">①</div> ブレーキ液レベル 点検してください	<p>ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。さらに、メーターパネルの赤色の  警告灯も点灯し、警告音も鳴った。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>ブレーキ性能が損なわれることがあります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。</li> <li>▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 141 ページ)。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。</li> <li>▶ ブレーキ液を補給しないでください。これを行っても問題は解消しません。</li> </ul>
<div data-bbox="120 754 202 798" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"></div> SRS システム 故障 工場で点検	<p>乗員保護装置が故障している。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。</li> </ul> <p>乗員保護装置に関するさらなる情報は、(▶ 40 ページ) をご覧ください。</p>
<div data-bbox="120 1153 202 1197" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"></div> フロント左 SRS システム故障 工場で点検またはフロント右 SRS システム故障 工場で点検	<p>フロント左または右の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。</li> </ul>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>リア左 SRS システム故障 工場で点検またはリア右 SRS システム故障 工場で点検</p>	<p>リア左側または右側の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p><b>△ 警告</b></p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>リア中央 SRS システム故障 工場での点検</p>	<p>リア中央の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p><b>△ 警告</b></p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>左ウィンドウバッグ故障 工場での点検または右ウィンドウバッグ故障 工場での点検</p>	<p>左または右のウィンドウバッグに故障がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p><b>△ 警告</b></p> <p>左または右のウィンドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

## 助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照

以下にも関わらず、走行中に助手席エアバッグが無効になっている。

- 大人の乗員  
または
- 助手席シートにいる、対応する身長の子供

シートに余分な力がかかっている場合は、システムが検知する体重が低くなりすぎることがあります。

**⚠ 警告**

事故の際に助手席エアバッグが作動しません。

けがのおそれがあります。

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 141 ページ)。
- ▶ イグニッションをオフにします。
- ▶ 助手席シートの乗員を車両から降ろしてください。
- ▶ 乗員がいないことを確認し、助手席ドアを閉じてイグニッションをオンにしてください。
- ▶ センターコンソールの助手席エアバッグ表示灯、およびマルチファンクションディスプレイに注意して、以下を確認してください。

シートに乗員がいないくて、イグニッションがオンである：

- 助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、同時に約 6 秒間点灯しなければなりません
- そのとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままにならなければなりません。表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席エアバッグを無効にしています。(▶ 50 ページ)
- マルチファンクションディスプレイに [助手席エアバッグ オン 取扱説明書を参照](#) または [助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照](#) というメッセージが表示されていないかもしれません。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>▶ 必要なシステムチェックが完了するまで、少なくとも60秒お待ちください。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されていないことを確認してください。</p> <p>これらの条件が満たされた場合は、再度助手席シートに乗車することができます。助手席エアバッグオフまたはオン表示灯が点灯したままになるか、または消灯するかどうかは、助手席フロントエアバッグ自動解除システムが乗員をどのように検知したかにより異なります。</p> <p>条件が満たされていない場合は、システムは正常に作動していません。</p> <p>▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p> <p>助手席エアバッグ自動解除機能に関するさらなる情報は、(▶ 50 ページ)をご覧ください。</p>
助手席エアバッグオン取扱説明書を参照	<p>以下にも関わらず、走行中に助手席エアバッグが有効になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• システムの重量規定値よりも軽い子供、小柄な大人、荷物が助手席シートにある</li> <li>または</li> <li>• 助手席シートに乗員がいない</li> </ul> <p>システムは、シートに余分な重量をかけている物や力を検知することがあります。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>エアバッグが不意に作動することがあります。けがのおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。</li> <li>▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 141 ページ)。</li> <li>▶ イグニッションをオフにします。</li> <li>▶ 助手席ドアを開いてください。</li> <li>▶ 助手席シートから子供とチャイルドセーフティシートを降ろしてください。</li> </ul>

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

- ▶ シートに余分な力をかけている物がないことを確認してください。  
さもないと、余分にかかっている力をシステムが検知し、乗員の体重を実際よりも重く判断することがあります。
- ▶ 乗員がいないことを確認し、助手席ドアを閉じてイグニッションをオンにしてください。
- ▶ センターコンソールの助手席エアバッグ表示灯、およびマルチファンクションディスプレイに注意して、以下を確認してください。  
シートに乗員がいないくて、イグニッションがオンである：
  - 助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、同時に約 6 秒間点灯しなければなりません
  - そのとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままにならなければなりません。表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席エアバッグを無効にしています。(▷ 50 ページ)
  - マルチファンクションディスプレイに [助手席エアバッグ オン 取扱説明書を参照](#) または [助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照](#) というメッセージが表示されてはいけません。
- ▶ 必要なシステムチェックが完了するまで、少なくとも 60 秒お待ちください。
- ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されていないことを確認してください。

これらの条件が満たされた場合は、再度助手席シートに乗車することができます。助手席エアバッグオフまたはオン表示灯が点灯したままになるか、または消灯するかどうかは、助手席フロントエアバッグ自動解除システムが乗員をどのように検知したかにより異なります。

条件が満たされていない場合は、システムは正常に作動していません。

- ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

助手席エアバッグ自動解除機能に関するさらなる情報は、(▷ 50 ページ)をご覧ください。

## エンジン

## ディスプレイメッセージ



冷却水が減少 停車して エンジンを停止

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

冷却水が熱すぎる。  
警告音も鳴った。

 **警告**

エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートした状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。

ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重度の火傷を負うおそれがあります。けがのおそれがあります。

- ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。
- ▶ 動き出さないように車両を固定してください (▶ 141 ページ)。
- ▶ エンジンが冷えるまで待ってください。
- ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。
- ▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水温度が 120 °C 以下になるまではエンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。
- ▶ 冷却水温度表示に注意してください。
- ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

通常の使用条件下で指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120 °C まで上がることがあります。

## タイヤ

## ディスプレイメッセージ

## 考えられる原因および影響 ▶ 解決方法

## タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください

タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。

警告音も鳴った。

考えられる原因：

- ホイールおよびタイヤの位置を変更した、または新しいホイールおよびタイヤを取り付けた
- 1本または複数のタイヤ空気圧が正しくない



## ⚠ 警告



空気圧不足のタイヤは以下のような危険をもたらします：

- 負荷や車両の速度が上昇すると特に、タイヤがバーストすることがあります
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が著しく損なわれることがあります
- 走行特性、およびステアリング操作やブレーキ操作が著しく損なわれることがあります

事故の危険性があります。

- ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 141 ページ)。
- ▶ タイヤを点検し、必要な場合はタイヤがパンクしたときの指示に従ってください (▶ 252 ページ)。
- ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要な場合は、タイヤ空気圧を調整してください。
- ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。 (▶ 279 ページ)

車両	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
シフトポジションがPではないため車が動くおそれがあります	<p>セレクターレバーがポジションR、NまたはDのときに運転席ドアを開いた/完全に閉じていない。 警告音も鳴った。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>車両が動き出すおそれがあります。 事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ セレクターレバーをPの位置にシフトします。</li> <li>▶ 車両が動き出さないように固定してください(▶ 141 ページ)。</li> <li>▶ 運転席ドアを完全に閉じてください。</li> </ul>
	<p>テールゲートが開いている。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>エンジンがかかっているときにテールゲートが開いている場合は、排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ テールゲートを閉じてください。</li> </ul>
	<p>ボンネットが開いている。 警告音も鳴った。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>車両が動いているときに、開いたボンネットで視界が遮られることがあります。 事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。</li> <li>▶ 車両が動き出さないように固定してください(▶ 141 ページ)。</li> <li>▶ ボンネットを閉じてください。</li> </ul>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>パワーステアリング故障 取扱説明書を参照</p>	<p>パワーステアリングのアシストが故障している。警告音も鳴った。</p> <p><b>▲ 警告</b></p> <p>ステアリング操作に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要とされる大きな力を加えることができるかどうかを確認してください。</li> <li>▶ <b>安全にステアリング操作ができる場合</b>：慎重にメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。</li> <li>▶ <b>安全にステアリング操作ができない場合</b>：走行を続けしないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。</li> </ul>
 <p>ステアリングロック故障 取扱説明書を参照</p>	<p>電動ステアリングロックが故障している。</p> <p><b>▲ 警告</b></p> <p>電動ステアリングロックによりステアリングがロックされている可能性があります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。</li> <li>▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 141 ページ)。</li> <li>▶ 走行を続けず、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。</li> </ul>

## メーターパネルの警告および表示灯

### 全体的な注意事項



この章では、メーターパネルに表示される安全に関わる表示灯と警告灯および対応方法について説明しています。メーターパネルに表示される他の表示灯と警告灯の概要および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

システムによっては、イグニッションがオンのときに自己診断を実行することがあります。診断中、一部の警告灯および表示灯が一時的にオンになったり、点滅したりすることがあります。この動作は、心配することはありません。

エンジン始動後あるいは走行中、警告灯および表示灯は、オンになったり、点滅したりして、故障の警告を出します。


## 安全性


## シートベルト


トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p> エンジンを始動した後、運転席ドアまたは助手席ドアを閉じるとすぐに、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。</p>	<p>運転者または助手席乗員がシートベルトを着用していない。</p> <p>▶ シートベルトを着用してください (p 44 ページ)。 警告灯が消灯します。</p> <p>助手席シートの上に荷物を置いている。</p> <p>▶ 助手席シートから物を取り除き、安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。</p>
<p> 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。</p>	<p>運転者または助手席乗員がシートベルトを着用していない。同時に、25 km/h 以上の速度で走行しているか、または速度が一時的に 25 km/h を超えた。</p> <p>▶ シートベルトを着用してください (p 44 ページ)。 警告灯が消灯し、警告音も停止します。</p> <p>助手席シートの上に荷物を置いている。同時に、25 km/h 以上の速度で走行しているか、または速度が一時的に 25 km/h を超えた。</p> <p>▶ 助手席シートから物を取り除き、安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も停止します。</p>



## 安全システム




トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p><b>⚠ 警告</b></p> <p>ブレーキの倍力装置が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えることがあります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。</li> <li>▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 141 ページ)。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。</li> <li>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</li> </ul>
<p><b>Ⓜ</b></p> <p>エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>ブレーキ性能が損なわれることがあります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。</li> <li>▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 141 ページ)。</li> <li>▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給しても問題は解消しません。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。</li> <li>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</li> </ul>



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。</p>	<p>故障のため、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、ESP<sup>®</sup>（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE<sup>®</sup>、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトなども解除されている。 アテンションアシストが解除されている。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。</p> <p>ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。</p> <p>ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。</p> <p>スリップの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</li> <li>▶ 注意して運転してください。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</li> </ul> <p>ABS コントロールユニットが故障している場合は、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションのような他のシステムも作動しなくなることがあります。</p>




トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p> エンジンがかかっているときに黄色のABS 警告灯が点灯する。</p>	<p>ABS が一時的に作動しない。そのため、BAS、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、ESP<sup>®</sup>、EDB（エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション）、PRE-SAFE<sup>®</sup>、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトなども解除されている。</p> <p>考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己診断がまだ完了していない。</li> <li>• バッテリーの電圧が不十分なことがある</li> </ul> <p>アテンションアシストが解除されている。</p> <p><b>▲ 警告</b></p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。</p> <p>ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。</p> <p>ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <p>▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 警告灯が消灯したときは、上記の機能が再度作動します。</p> <p>警告灯が点灯したままの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</li> <li>▶ 注意して運転してください。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。</li> </ul>


トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに黄色のABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>EBD が故障している。そのため、ABS、BAS、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、ESP<sup>®</sup>、PRE-SAFE<sup>®</sup>、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトなども解除されている。アテンションアシストが解除されている。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。</p> <p>ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。</p> <p>スリップの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</li> <li>▶ 注意して運転してください。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</li> </ul>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>走行システムが作動しているときに赤色のブレーキシステム警告灯および黄色のABS、ESP®およびESP®解除表示灯が点灯する。</p>	<p>ABS および ESP®が故障している。そのため、BAS、CPA プラス（緊急ブレーキ機能）、EBD、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトなども解除されている。 アテンションアシストが解除されている。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。 ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。</p> <p>ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 スリップの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</li> <li>▶ 注意して運転してください。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</li> </ul>
 <p>走行中に黄色のESP®警告灯が点滅する。</p>	<p>スリップする危険性があるか、少なくとも1つの車輪が空転し始めているため、ESP®やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニック・プラスが解除されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。</li> <li>▶ 走行中は緩やかに加速してください。</li> <li>▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。</li> <li>▶ ESP®を解除しないでください。</li> </ul> <p>まれに (▶ 78 ページ)、ESP®を解除したほうがいい場合があります。</p> <p>ESP®についての重要な安全上の注意事項に従ってください (▶ 77 ページ)。</p>



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに、黄色のESP<sup>®</sup>解除警告灯が点灯する。</p>	<p>ESP<sup>®</sup>が解除されている。横滑りし始めた場合や車輪が空転し始めた場合に、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。</p> <p><b>▲ 警告</b></p> <p>ESP<sup>®</sup>が解除されている場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。 スリップの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <p>▶ ESP<sup>®</sup>を再度設定してください。 まれに (▶ 78 ページ)、ESP<sup>®</sup>を解除したほうが良い場合があります。 ESP<sup>®</sup>についての重要な安全上の注意事項に従ってください (▶ 77 ページ)。</p> <p>▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。</p> <p>ESP<sup>®</sup>を設定することができない場合：</p> <p>▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で ESP<sup>®</sup>の点検を受けてください。</p>
  <p>エンジンがかかっているときに黄色のESP<sup>®</sup>およびESP<sup>®</sup>解除表示灯が点灯する。</p>	<p>故障のため、ESP<sup>®</sup>、BAS、CPA プラス (緊急ブレーキ機能)、PRE-SAFE<sup>®</sup>、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトが解除されている。 アテンションアシストが解除されている。</p> <p><b>▲ 警告</b></p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。 スリップの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。</p>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
  エンジンがかかっているときに黄色のESP <sup>®</sup> およびESP <sup>®</sup> 解除表示灯が点灯する。	<p>ESP<sup>®</sup>、BAS、PRE-SAFE<sup>®</sup>、ホールド機能およびヒルススタートアシストが一時的に作動しない。            アダプティブブレーキライトおよびCPA プラス（緊急ブレーキ機能）も故障していることがある。            アテンションアシストが解除されている。            自己診断がまだ完了していない。</p> <p><b>⚠ 警告</b></p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。            緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。            ESP<sup>®</sup>が作動しない場合は、ESP<sup>®</sup>が車両を安定させることができません。            スリップの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <p>▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。            警告灯が消灯したときは、上記の機能が再度作動します。</p> <p>警告灯が点灯したままの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</li> <li>▶ 注意して運転してください。</li> <li>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</li> </ul>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>電気式パーキングブレーキの赤色の表示灯が点滅または点灯する、および/または電気式パーキングブレーキの黄色の警告灯が点灯する。</p>	<p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</p>
 <p>エンジンがかかっているときに、赤色の乗員保護装置警告灯が点灯する。</p>	<p>乗員保護装置が故障している。</p> <p> <b>警告</b></p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。けがのおそれがあります。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</p> <p>▶ 注意して運転してください。</p> <p>▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場乗員保護装置を点検してください。</p> <p>乗員保護装置に関するさらなる情報は、(▶ 40 ページ) をご覧ください。</p>

エンジン	
トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>冷却水温度が 120 °C を超えている。エンジンラジエターへの送風が遮られているか、冷却水レベルが低すぎることもある。</p> <p><b>▲ 警告</b></p> <p>エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。</p> <p>エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートした状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。</p> <p>ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重度の火傷を負うおそれがあります。けがのおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</li> <li>▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。</li> <li>▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 141 ページ)。</li> <li>▶ 車両から降り、エンジンが冷えるまで車両から安全な距離を確保してください。</li> <li>▶ 注意事項 (▶ 244 ページ) に従って、冷却水レベルを点検し、冷却水を補給してください。</li> <li>▶ 頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、エンジン冷却システムの点検を受けてください。</li> <li>▶ 凍った泥などにより、エンジンラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。</li> <li>▶ 冷却水温度が 120 °C 以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。</li> <li>▶ そのときは、山道の走行や発進/停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。</li> </ul>

**走行システム**

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 車両が動いている間に、赤色の車間距離警告灯が点灯する。	選択されている速度に対して、先行車両との距離が近すぎる。 ▶ 距離を広げてください。
 車両が動いている間に、赤色の車間距離警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	同じ走行車線にいる車両または静止している障害物に急速に接近している。 ▶ ただちにブレーキを効かせる準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。ブレーキ操作や危険回避操作が必要となることがあります。  CPA プラス（緊急ブレーキ機能）の車間距離警告機能についてのさらなる情報は、(▶ 74 ページ)をご覧ください。

全体的な注意事項 .....	202
重要な安全上の注意事項 .....	202
機能の制限 .....	202
Audio 20/COMAND システム の操作システム .....	203

## 全体的な注意事項

本取扱説明書の COMAND システムの項目には、COMAND システムを操作するための基本的な概要が記載されています。さらなる情報はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

COMAND システムを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

COMAND システムは、例えば以下のことを考慮せずに目的地までのルートを検索します：

- 信号
- 一時停止および優先標識
- 駐車または停車の規制
- 道路の道幅の狭さ
- その他、道路や交通ルール、規則

COMAND システムは、地図上のデータが実際の状況と違う場合には、適切でない走行案内をすることがあります。例えば、道路が変更されたり、または一方通行の方向が変更になったときです。

このため、走行中は、道路や交通ルール、規則に常に従ってください。システムの走行案内よりも道路や交通ルール、規則を常に優先してください。

わずか 50 km/h の速度でも、車両は 1 秒あたり約 14 m の距離を進むことを念頭においてください。

## 機能の制限

安全上の理由のため、車両が動いている間はいくつかの機能が制限されたり、利用できません。このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、このことに関してのメッセージが表示されることで、確認できます。

## Audio 20/COMAND システムの操作システム

## 概要

## 構成部品



- ① ディスプレイ
- ② COMAND コントロールパネル
- ③ コントローラーおよびスイッチ

COMAND システムは、以下のものから構成されています：

- ディスプレイ
- シングルディスクドライブ付き COMAND コントロールパネル
- コントローラーおよびスイッチ
- センターコンソールの USB またはメディアインターフェース用の 2 つの接続オプション  
iPod® は USB ケーブル経由で接続されます。

## 機能

- **FM ラジオ/AM ラジオ (交通情報)**

インターネットラジオ、通信をご覧ください。

- **メディア**

- サポートしているメディア：オーディオ CD、MP3 CD、DVD ビデオ、USB またはメディアインターフェース (例：iPod®) 用の 2 つの接続オプション、SD カード、Bluetooth®オーディオ

メディアインターフェースが使用可能な場合は、iPod® を USB に直接接続することができます。

- 電子番組ガイド (EPG)、放送局切り替え、BML データ受信、字幕、追加情報 (字幕スーパー) および言語選択オプション、放送メール、緊急警告システムのあるテレビおよびラジオ放送局のデジタルテレビ受信
- すべてのメディアを使用したミュージックサーチ

## • サウンドシステム

harman/kardon®Logic7®サラウンドサウンドシステムを選択できます。

## • ナビゲーションシステム

- ハードドライブによるナビゲーション
- 例えば、カナ検索を使用した目的地入力
- 都市モデルを再現したリアルな 3D 地図
- コンパス表示のようなナビゲーション機能
- VICS/DSRC での渋滞回避探索
- ETC 経由での料金収受

## • 通信

- メッセージ機能：文字メッセージ、Eメール
- アドレス帳
- インターネットブラウザ
- Google™ローカル検索、目的地/ルートのダウンロード、天候、Facebook、Google™ストリートビュー、インターネットラジオ、株価、ニュースなどがある Mercedes-Benz Apps
- メルセデス・ベンツモバイルウェブサイト
- スマートフォンを COMAND システムに接続するための WiFi インターフェース
- お客様の携帯電話を使用してインターネットにアクセスできるようにするための、タブレット PC またはラップトップ接続用 WiFi ホットスポット機能

## • 車両機能

- 燃料消費などの車両設定
- リアビューカメラ

## • お気に入りスイッチ（使用可能な場合）

コントローラーのお気に入りスイッチを使用して、お気に入り機能に素早くアクセスします。

## ディスプレイ

### 全体的な注意事項

■ 収納のためにディスプレイの前のスペースを使用しないでください。ここに置かれたものにより、ディスプレイを損傷したり、機能が損なわれることがあります。ディスプレイの表面に直接触れないようにしてください。ディスプレイの表面にかかる力で、復元できないような損傷をディスプレイに与えるおそれがあります。

偏光サングラスを着用するとディスプレイの視認性が損なわれることがあります。ディスプレイは温度制御による自動スイッチオフの機能があります。気温が高すぎると、明るさは自動的に低下します。少しの間ディスプレイが完全にオフになることがあります。

### 概要



例では、COMAND システムの SD メモリーカードモードでの表示を示しています。

画面の一番上のステータスバーには、設定に応じて時計や他の表示が表示されません。

その下に、基本表示欄が表示されます。

エアコンディショナーを操作した場合は、エアコンディショナーのステータス表示が短時間表示されます。

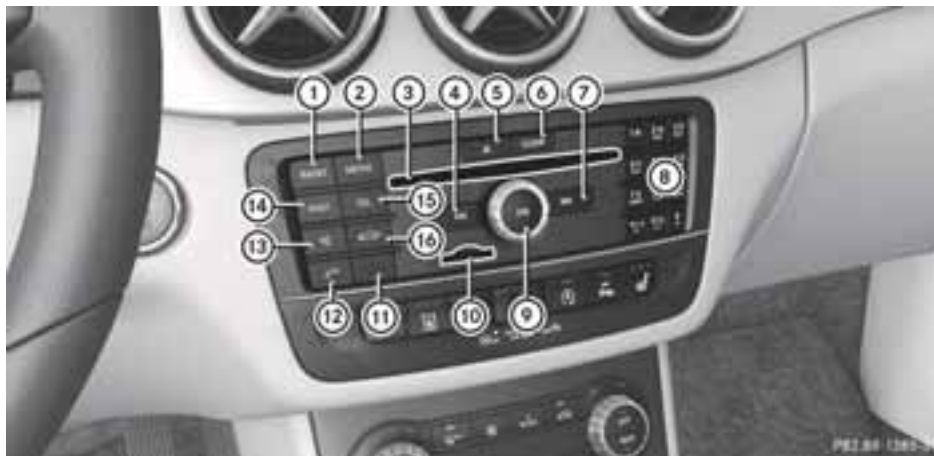
### 手入れの説明









**■** ディスプレイには触れないでください。ディスプレイはとても繊細な高光沢の表面のため、損傷するおそれがあります。画面をきれいにする場合には、中性洗剤と柔らかく毛羽の立たない布を使用してください。














清掃を始める前に、ディスプレイをオフにして、冷ましてください。必要なときは、市販のマイクロファイバークロスとTFT/LCDディスプレイ用の洗剤でディスプレイ画面を清掃してください。ディスプレイの復元不可能な損傷の原因になるおそれがあるため、清掃するときはディスプレイ表面に力を加えないでください。そして乾いたマイクロファイバーの布で表面を拭き取ってください。


アルコール性シンナーや、ガソリン、研磨洗剤を使用しないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。






## COMAND コントロールパネル



	機能	ページ
①	ラジオモードに切り替える ラジオメニューを呼び出す	222 223
②	最後に選択したメディアモードを作動させる メディアメニューを呼び出す	 
③	シングル CD/DVD ドライブへのディスクの挿入および取り出し	
④	放送局リストから以前の放送局を選択する 前のトラックにスキップする 早戻しする	  
⑤	CD/DVD の格納/排出  シングルドライブ	
⑥	クリアスイッチ ・文字を削除する ・項目を削除する	208

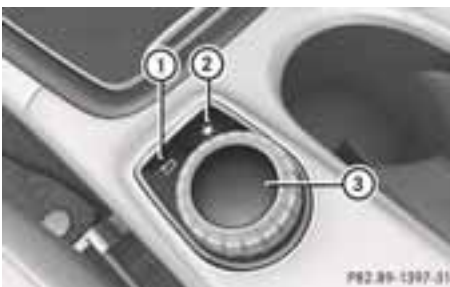
	機能	ページ
⑦	放送局リストから次の放送局を選択する 前のトラックにスキップする 早送りする	  
⑧	テンキー ・放送局を保存する ・携帯電話を認証する ・電話番号を入力する ・連絡先を検索する ・文字を入力する  現在再生されているトラックを表示する (データキャリアのトラック情報がサポートされている場合)  周波数を手動で入力して放送局を選択する  トラックを選択する	      

	機能	ページ
⑨	COMAND システムの作 動/停止の切り替え 音量を調整する	 
⑩	SD メモリーカードの挿 入/取り出し	
⑪	通話を拒否する 通話を終える	219 219
⑫	通話を受ける 電話を発信する リダイヤル 既存の通話中に通話を受 ける (応答保留)	219 219  

	機能	ページ
⑬	サウンドのオン/オフを 切り替える ナビゲーションの音声案 内を停止する	 
⑭	ナビゲーションモードに 切り替える ナビゲーションシステム メニューを呼び出す	210 
⑮	電話メニューを呼び出す	
⑯	車両設定を呼び出す	

## スイッチおよびコントローラー

### 概要




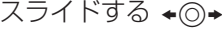



- ① リターンスイッチ
- ② お気に入りスイッチ
- ③ コントローラー

### コントローラー


センターコンソールのコントローラーにより、以下を行なうことができます：


- ディスプレイのメニュー項目を選択する
- 文字を入力する
- 地図で目的地を選択する
- 入力を保存する

コントローラーでは、以下のことができます：


- まわす 
- 左右にスライドする 
- 前後にスライドする 
- 斜めにスライドする 
- 軽く押す、または押し続けて保持する 

### リターンスイッチ

 スイッチを使用してメニューを終了したり、現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する：**  スイッチを軽く押します。

COMAND システムは、そのときの操作モードの中で、1 つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す：** 2 秒以上  スイッチを押します。

COMAND システムは、そのときの操作モードの基本画面に切り替わります。

## クリアスイッチ

- ▶ **個々の文字を削除する**： c スイッチを軽く押します。
- ▶ **入力全体を削除する**： c スイッチを押して保持します。

## お気に入りスイッチ

あらかじめ設定されている機能をお気に入りスイッチ  \* に指定して、スイッチを押すことにより、それら呼び出すことができます。

## ディスプレイオフスイッチ

スイッチで、ディスプレイのオンおよびオフを切り替えることができます。

## お気に入り

### お気に入りの概要



- ① 新しいお気に入りを追加する (▶ 208 ページ)
- ② 選択したお気に入りの名前を変更する (▶ 209 ページ)
- ③ 選択したお気に入りを移動する (▶ 209 ページ)
- ④ 選択したお気に入りを削除する (▶ 209 ページ)

## お気に入りの概要を表示する

- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。  
お気に入りが表示されます。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします ◎↓。

全部で 20 個のお気に入りを管理できません。

お気に入りの選択および表示方法に関するさらなる情報 (▶ 208 ページ)。

## お気に入りの表示と選択

- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。  
お気に入りが表示されます。
- ▶ お気に入りを選択する：コントローラーをまわします。
- ▶ お気に入りを呼び出す：コントローラーを押します。

## お気に入りの追加

### あらかじめ定義されたお気に入りの追加

- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。  
お気に入りが表示されます。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **再設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
使用可能なお気に入りのカテゴリーが表示されます。
  - **ナビゲーション**
  - **インタテキスト**
  - **電話**
  - **車両**
  - **クライムコントロール**
- ▶ カテゴリーを選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。  
対応するお気に入りが表示されます。

- ▶ 希望のお気に入りを選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ 希望の順序でお気に入りを保存する：コントローラーをまわして、押します。お気に入りが追加されます。  
他のお気に入りの上にお気に入りが保存された場合は、元のお気に入りが削除されます。

### 自分自身のお気に入りを追加する

電話帳からの電話番号、ラジオ放送局または目的地をお気に入りとして保存することができます。

電話帳からの電話番号、またはラジオ放送局をお気に入りとして保存することができます。

例では、電話帳からの電話番号が使用されています。

- ▶ お気に入りとして電話番号を保存する：お気に入りが表示されるまで、コントローラーのお気に入りスイッチを押して保持します。
- ▶ 希望の順序でお気に入りを保存する：コントローラーをまわして、押します。お気に入りが追加されます。  
他のお気に入りの上にお気に入りが保存された場合は、元のお気に入りが削除されます。

### お気に入りの名前の変更

- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。  
お気に入りが表示されます。
- ▶ 名前を変更したいお気に入りを選択する：コントローラーをまわします。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **名前の変更** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ 入力を終了する：OK を選択します。お気に入りの名前が変更されます。

### お気に入りの移動



- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。  
お気に入りが表示されます。
- ▶ 移動したいお気に入りを選択する：コントローラーをまわします。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **移動** を選択するためには、コントローラーをまわして、押します。
- ▶ 希望の順序でお気に入りを保存する：コントローラーをまわして、押します。お気に入りが移動します。  
他のお気に入りの上にお気に入りが保存された場合は、元のお気に入りが削除されます。


### お気に入りの削除

- ▶ コントローラーのお気に入りスイッチを押します。  
お気に入りが表示されます。
- ▶ 削除するお気に入りを選択する：コントローラーをまわします。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **削除** を選択する：コントローラーをまわして、押します。


- ▶ **はい** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
お気に入り が削除されます。  
または
- ▶ **いいえ** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
処理が中止されます。

## 車両設定



### 車両設定の呼び出し

- ▶  スイッチを押します。  
または
- ▶ 基本機能バーで **車両** を押します。  
車両メニューが表示されます。
- ▶ **車両設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
**車両設定** メニューが作動します。
- ▶ 希望する車両設定項目を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
メインエリアに設定内容が表示されます。

他の車両設定の選択：

- ▶ 車両設定を選択するためのメニューを表示させる：コントローラーをスライドします 。

車両設定の終了：

- ▶ ディスプレイで  を選択する：コントローラーをスライドして 、押します。

## ナビゲーション

### はじめに

#### 重要な安全上の注意事項

##### 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操

作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。


交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

ナビゲーションシステムを操作するときには、そのときに運転している国の法規則に従ってください。


#### 全体的な注意事項

COMAND システムを使用してのナビゲーションについてのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。



GPS を受信することにより、ナビゲーションシステムは正しく機能します。トンネル内や立体駐車場にいるときなど、いくつかの状況では、GPS の受信に障害が生じたり、干渉があったり、またはまったく受信できないことがあります。5 km/h 以上の車両速度では、データ入力は制限されます。

 ルーフラックが使用されている場合は、ルーフアンテナ（電話、GPS）の機能が損なわれることがあります。

#### ナビゲーションモードへの切り替え

- ▶  スイッチを押します。  
地図に現在の車両位置が表示されます。

#### メニューの表示/非表示

- ▶ **表示する**：地図が表示されているときに、コントローラーをスライドします 。
- ▶ **非表示にする**：  スイッチを押しません。

## 目的地の検索

### 目的地検索オプション

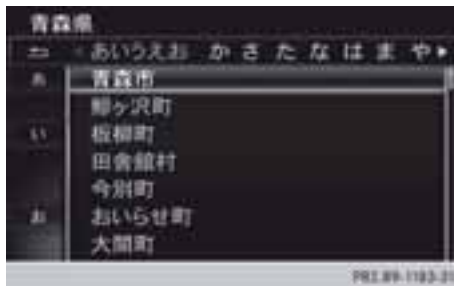
住所検索
施設（ガソリンスタンド、レストランなど）の検索
さまざまな地点の施設（ガソリンスタンド、レストランなど）の検索
電話番号を使用して検索する
アルファベットまたはかな検索（設定されているシステム言語によります）
郵便番号を使用して検索する
メモリ地点での検索
以前の目的地を検索する
連絡先の検索
Mercedes-Benz Apps 条件：データパッケージ付き携帯電話がCOMANDシステムに接続されている。

- ▶ ステップ 1： オプションの 1 つを使用して目的地を検索します。
- ▶ ステップ 2： **設定** を使用して、クロスカーソルのある地図で目的地を選択します。  
**<位置名> を目的地に設定しました** というメッセージが表示された後に、ルートが検索されます。
- ▶ ステップ 3： 全ルート図でルート案内を開始します。

### 例：住所検索



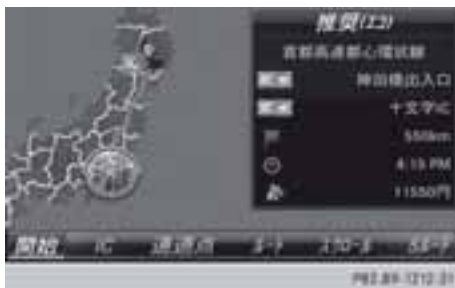
- ▶ メニューを表示します (▶ 210 ページ)。
- ▶ **目的地** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **目的地検索** を選択します。
- ▶ **住所** を選択します。
- ▶ **地域を選択する**：コントローラーをスライドします ◀◎▶。地域が北海道から東北、関東などに切り替わります。
- ▶ **都道府県を選択する**：コントローラーをまわして、押します。



- ▶ **最初の文字を選択する**：コントローラーをスライドします ◀◎▶。
- ▶ **場所を選択する**：コントローラーをまわして、押します。



- ▶ **千代田区の中心** を選択する、または住所入力を続けます。  
クロスカーソルのある地図に、選択された住所周辺を表示します。
- ▶ **設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
目的地までのルート案内が完了すると、全ルート図が表示され、推奨ルート（エコ）が表示されます。



- ▶ **開始** を選択する：コントローラーを押します。  
ルート案内が開始します。
- ❶ 例えば、全ルート図で以下のことができます：
  - 高速道路の分岐点の入口および出口（IC）の変更
  - 4つまでの通過点（WP）の入力
  - 代替ルート（5ルート）の選択

## ルート案内



COMAND システムは、ナビゲーションの案内およびルート案内表示で目的地まで案内します。

❶ 実際の道路/交通状況がデジタル地図のデータと一致しない場合は、COMAND システムは適切でないナビゲーション案内を行なうことがあります。道路や交通ルール、規則は常に、システムの推奨走行に優先します。



進路変更の前および間は、ディスプレイ左側に地図が、分岐点表示または 3D 画像が右に表示されます。複数車線道路の表示の下に、推奨車線（白色の矢印）が表示されることがあります。

## ナビゲーションの音声案内

- ▶ 音量を調整する：ナビゲーションの音声案内中に、コントロールノブ  をまわします。
- ▶ オフにする：ナビゲーションの音声案内中に、COMAND コントロールパネルの  スイッチを押します。
- ▶ 特別なナビゲーションの音声案内のオン/オフを切り替える：メニューを表示します。（▶ 210 ページ）
- ▶ **オフ** を選択します。
- ▶ **設定** を選択します。
- ▶ **ナビゲーション設定** を選択します。  
以前の設定によって、機能がオン  またはオフ  のいずれかに切り替わります。

例えばカーブまたは危険な分岐点の前、または学校に接近しているときにナビゲーションの音声案内が聞こえます。

### ルート情報

- ▶ メニューを表示します (▶ 210 ページ)。
- ▶ **ルート** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **ルート情報** を選択します。

### ルート案内の中止/継続

- ▶ コントローラーを押します。
- ▶ **目的地** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **案内中止** または **ルート案内を継続** を選択します。

### VICS/DSRC での渋滞回避探索

車両に適切な装備がある場合は、COMAND システムは VICS データを受信して表示し、ルート案内に考慮することができます。

渋滞回避探索のオン/オフを切り替える

- ▶ ナビゲーションモードに切り替える：**NAVI** スイッチを押します。
- ▶ メニューを表示する：コントローラーをスライドします **◎↓**。
- ▶ **ナビゲーション** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **設定** を選択します。
- ▶ **渋滞回避探索** を選択します。  
以前の設定によって、機能がオン  またはオフ  のいずれかに切り替わります。

地図の表示をオンにする

- ▶ メニューを表示します (▶ 210 ページ)。
- ▶ **ナビゲーション** を選択する：コントローラーをまわして、押します。

- ▶ **VICS 表示** を選択します。
- ▶ 例えば、**VICS 高速道** を選択します。  
VICS 表示のオン  またはオフ  を切り替えます。



- ▶ **VICS** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **VICS 交通情報** を表示する：メニュー項目を選択します。

### 地図機能

#### 地図の縮尺を設定する

条件：地図が全画面モードになっていて、メニューが非表示になっている (▶ 210 ページ)。

- ▶ 希望の縮尺が設定されるまで、コントローラーをまわします。

#### 地図を動かす

条件：地図が全画面モードになっていて、メニューが非表示になっている (▶ 210 ページ)。

- ▶ コントローラーをスライドします **←◎→**、**↑◎↓** または **↻◎↻**。  
クロスカーソルが表示されます。クロスカーソルの下で、対応する方向に地図が動きます。



地図を動かしたときに、地図縮尺によっては隣接するエリア（地区または都道府県）が表示されます。

- ▶ **情報** コントローラーを押すと、地図上の目的地が選択されます。

### 地図向きを選択



- ▶ メニューを表示します (▶ 210 ページ)。
- ▶ **方向** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **地図表示切替** を選択します。  
ドット ● は、現在の設定を示しています。
- ▶ コントローラーをまわして、押します。  
地図の向きが設定されます。

### 日本語と英語の地図を切り替える

- ▶  スイッチを押します。
- ▶ **設定** を選択する：コントローラーをスライドしてから 、まわして、押しして確定します。
- ▶ **言語 / Language** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **英語** または **日本語** を選択します。

### オンライン地図表示を呼び出す

条件：データパッケージ付き携帯電話が COMAND システムに接続されている。



- ▶ メニューを表示します (▶ 210 ページ)。
- ▶ コントローラーを 2 度スライドします  。
- ▶ コントローラーを押します。  
ナビゲーションメニューが表示されます。
- ▶ **ライブマップ表示** が前面にくるまで、コントローラーをまわします。
- ▶ コントローラーを押します。  
オンライン接続が確立されます。接続が確立されると、Google™ マップの地図は現在の車両位置周辺を表示します。

### 携帯電話の接続/切断

#### 条件

Bluetooth® インターフェース経由での電話機能には、Bluetooth® 対応の携帯電話が必要です。携帯電話は、ハンズフリープロファイル 1.0 以上に対応している必要があります。

#### COMAND システムで Bluetooth® を作動させる

- ▶ センターコンソールの  スイッチを押します。  
**車両** メニューが表示されます。
- ▶ **設定** を選択する：コントローラーをスライドしてから 、まわして、押しして確定します。
- ▶ **Bluetooth 切** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
これにより、Bluetooth® が作動 、または解除  に切り替わります。

#### 携帯電話上で

- ▶ 操作を促されたときは、携帯電話をオンにして、パスコードを入力します (メーカーの取扱説明書をご覧ください)。
- ▶ Bluetooth® を、そして必要な場合は他の機器の Bluetooth® 探索を作動させます (メーカーの取扱説明書をご覧ください)。  
一部の携帯電話では、この探索に時間の制限があります (メーカーの取扱説明書をご覧ください)。
- ▶ 必要な場合は携帯電話の Bluetooth® 機器名を設定します。

1 つのメーカーの製品のすべての Bluetooth® 機器名が同じであることがあります。お客様の携帯電話を明確に特定できるようにするためには、機器名を変更してください (メーカーの取扱説明

書をご覧ください)。名前は自由に選択できます。

携帯電話が PBAP (Phone Book Access Profile) および MAP (Message Access Profile) Bluetooth® プロファイルをサポートしている場合は、接続した後に以下の情報が転送されます：

- 電話帳
- 通話リスト
- メッセージ

誤作動を防ぐため、携帯電話の電池は常に十分に充電しておく必要があります。

**i** 市販の携帯電話がすべて適合するわけではありません。適合する携帯電話についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

**i** 一部の表示 (電波の強度など) は、対応するハンズフリープロファイルのバージョンによって異なります。

## 手順および全般的な情報

### 携帯電話の検索および認証 (接続)

初めて携帯電話を COMAND システムで使用する前に、携帯電話を検索して (p. 215 ページ)、それを認証する必要があります (p. 216 ページ)。携帯電話によって、セキュアシンプルペアリングによって、またはパスキーを入力する事によって認証が行なわれます。使用可能な携帯電話に応じて、COMAND システムは自動的に処理を行いません。携帯電話と COMAND システムにコードが表示されることによりセキュアシンプルペアリングを認識することができます。携帯電話および COMAND システムにコードを入力しなければならないという事実によりパスキーのシステムを認識できます。認証後に携帯電話は常に自動的に接続されます。

COMAND システムが携帯電話を検知しない場合は、携帯電話の特別なセキュリティの設定によるものかもしれません。携帯電話で検索処理および認証を開始することもできます (p. 217 ページ)。

Bluetooth® 対応携帯電話の認証および接続についての機器ごとの情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

最大 15 台の携帯電話を認証できます。一度に 1 台のみの携帯電話を COMAND システムに接続できます。

### 携帯電話の認証の解除 (切断)

COMAND システムの受信範囲から離れる、または携帯電話で Bluetooth® を解除した場合は、接続は自動的に終了します。

Bluetooth® 接続を自動的に確立したくない場合は、携帯電話の認証を解除 (切断) しなければなりません (p. 218 ページ)。


## 携帯電話を検索する



- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ 電話メニューでメニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ 接続「バ」を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。デバイスリストが表示されます。

- ▶ **電話検索** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
携帯電話で Bluetooth® が作動していて、他の機器に探索できるようにしなければならないというメッセージが表示されます。
- ▶ **検索開始** を選択する：コントローラーを押します。  
使用可能な携帯電話がデバイスリストに表示されます。



検索にかかる時間は、通信可能距離内にある Bluetooth® 対応携帯電話の台数とその特性によって異なります。

新しい電話が見つかった場合は、デバイスリストに  マークで表示されます。ここで、見つかった携帯電話を認証（接続）できます（▶ 216 ページ）。

デバイスリストがすでにいっぱいの場合、携帯電話の認証を解除するように要求されます（▶ 218 ページ）。

デバイスリストを再度呼び出すときは、認証を解除された機器はリストから外されます。デバイスリストを更新するためには、検索を再度開始します。

### デバイスリストのマーク

マーク	説明
	検索されているが、まだ認証されていない新しい携帯電話。
	認証されているが、接続されていない携帯電話。
•	認証されていて、接続されている携帯電話。

### 携帯電話の認証（接続）

#### セキュアシンプルペアリングを使用しての認証

COMAND システムがお客様の携帯電話を見つけた場合は、認証（接続）することができます。

- ▶ 携帯電話をデバイスリストから選択するためには、コントローラーをまわし、押して確定します。  
COMAND システムと携帯電話にコードが表示されます。

#### コードが同一である

- ▶ **COMAND システム**： **はい** を選択します。
- ▶ **携帯電話**： コードを確定します。使用している携帯電話によって、COMAND システムへの、および PBAP や MAP Bluetooth® プロファイル用の接続の確定を行なわなければならないことがあります。確認メッセージが表示されるのに 2 分程度かかることがあります。携帯電話の確認を保存することもできます（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。  
携帯電話が認証され、COMAND システムに接続されます。ハンズフリーシステムを使用して、会話することができます。

携帯電話の送受信の音量についてのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

#### コードが異なる

- ▶ **COMAND システム**： **いいえ** を選択します。  
処理が中止されます。認証を繰り返します。

#### パスキー（パスコード）を入力することによる認証

COMAND システムがお客様の携帯電話を見つけた場合は、認証（接続）することができます。

- ▶ 希望する携帯電話の Bluetooth® 名をデバイスリストで選択する：コントローラーをまわして、押します。  
パスキーの入力メニューが表示されます。

パスキーは、任意で選択できる 1～16 桁の数字の組み合わせです。

- ▶ **COMAND システム**：文字バーを使用して、パスキーを入力します。
- ▶ すべての数字を入力した後に、**[ok]** を選択します。
- ▶ **携帯電話**：同じパスキーを入力し、入力を確定します。使用している携帯電話によって、COMAND システムへの、および PBAP や MAP Bluetooth®プロファイル用の接続の確定を行なわなければならないことがあります。確認メッセージが表示されるのに 2 分程度かかることがあります。携帯電話の確認を保存することもできます（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。携帯電話が認証され、COMAND システムに接続されます。ハンズフリーシステムを使用して、会話することができます。

携帯電話の送受信の音量についてのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

**認証できませんでした** というメッセージが表示された場合は、異なるパスキーを入力したか、または規定された時間制限を超えています。手順を繰り返してください。

- ❶ 携帯電話によっては 4 桁以上のパスキーを要求されることがあります。
- ❶ 認証を解除した後に携帯電話を再認証したい場合は、別のパスキーを選択することができます。

### 携帯電話から接続を確立する

COMAND システムの Bluetooth®機器名は、MB Bluetooth です。

- ▶ **COMAND システム**：電話メニューを呼び出します。
- ▶ メニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします **⊙↓**。
- ▶ **接続デバイス** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。デバイスリストが表示されます。
- ▶ **携帯電話から接続** を選択する：コントローラーをまわして、押します。携帯電話で検索を開始できる旨のメッセージが表示されます。
- ▶ **携帯電話**：Bluetooth®機器の検索を開始します（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。携帯電話のデバイスリストに、"MB Bluetooth" という名前とともに COMAND システムが表示されます。
- ▶ "MB Bluetooth" を選択します。携帯電話を認証するかどうかをたずねる確認が COMAND システムに表示されます。
- ▶ **COMAND システム**：**はい** を選択します。

**いいえ** を選択した場合は、処理が中止されます。携帯電話がセキュアシンプルペアリングをサポートしている場合は、両方の機器にコードが表示されます。

### コードが同一である

- ▶ **COMAND システム**：**はい** を選択します。
- ▶ **携帯電話**：コードを確定します。使用している携帯電話によって、COMAND システムへの、および PBAP や MAP Bluetooth®プロファイル用の接続の確定を行なわなければならないことがあります。確認メッセージが表示されるのに 2 分程度かかることがあります。携帯電話の確認を

保存することもできます（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。

携帯電話が認証され、COMAND システムに接続されます。ハンズフリーシステムを使用して、会話することができます。

### コードが異なる

- ▶ **COMAND システム**： **いいえ** を選択します。  
処理が中止されます。手順を繰り返してください。

携帯電話がセキュアシンプルペアリングをサポートしていない場合、携帯電話の接続についてのさらなる情報はデジタル版取扱説明書にあります。

### 自動的に再接続する

COMAND システムは常に最後に接続された携帯電話を検索します。

直前に接続された携帯電話に接続できない場合は、もう一つ前に接続された携帯電話が検索されます。

### 携帯電話間の切り替え

複数の携帯電話が登録されているときは、使用する電話を切り替えることができます。

- ▶ 電話メニューを呼び出す： **[TEL]** スイッチを押します。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします **◎↓**。
- ▶ **接続デバイス** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。デバイスリストが表示されます。
- ▶ 希望の携帯電話を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
選択した携帯電話が Bluetooth® の通信可能距離内にあり、Bluetooth® が作動しているときは、選択した携帯電話を検索して接続します。

一度に 1 台の携帯電話のみを接続できます。現在接続されている携帯電話は、デバイスリストにドット ● で示されます。

- i** 通話中でないときに限り、別の認証済み携帯電話に切り替えることができます。

### 携帯電話の認証の解除（切断）

COMAND システムと携帯電話で認証を解除することを、メルセデス・ベンツは推奨します。さもないと、その後の認証が失敗することがあります。


- ▶ 電話メニューを呼び出す： **[TEL]** スイッチを押します。
- ▶ メニューバーを表示する：コントローラーをスライドします **◎↓**。
- ▶ **接続デバイス** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。
- ▶ 希望の携帯電話をデバイスリストから選択する：コントローラーをまわします。
- ▶ **[切]** を選択する：コントローラーをスライドします **◎➔**。
- ▶ **認証取消し** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
この機器の認証を本当に解除したいかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- ▶ **はい** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
携帯電話の認証が解除されます。
- i** 携帯電話を再登録する前に、携帯電話の Bluetooth® リストから機器名 **MB Bluetooth** も削除します。

## 電話操作

### 通話を受ける

▶ **通話** を選択する：コントローラーを押します。

または

▶ マルチファンクションステアリングの  を押します。  
通話を受けられます。

通話時に使用できる機能についてのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

**i** 発信者の電話番号が送信されている場合は、ディスプレイに表示されます。電話帳に電話番号が保存されている場合は、連絡先の名前も表示されます。電話番号が転送されない場合は、**非通知** がディスプレイに表示されます。


### 通話を拒否する

使用している携帯電話によっては、通話を拒否したときの動作が異なることがあります（メーカーの取扱説明書をご覧ください）。

携帯電話が保留機能をサポートしている


▶ **保留** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。

または


▶ マルチファンクションステアリングの  を押します。  
通話が保留されます。

▶ **着信拒否** を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。

または

▶ マルチファンクションステアリングの  スイッチを再度押します。  
通話が拒否されます。


携帯電話が保留機能をサポートしていない：**保留** を選択する、またはマルチファ

ンクションステアリングの  スイッチを押した後に、通話が拒否されます。

### 通話を終える

▶ 電話メニューで  を選択する：コントローラーをまわして、押します。

または


▶ マルチファンクションステアリングの  を押します。  
作動している通話が終了します。

### 発信する

#### 電話メニューを使用して


▶ 電話メニューを呼び出す：**TEL** スイッチを押します。

▶ 電話メニューですべての番号を1つずつ選択する：その都度コントローラーをまわして、押します。

▶ 電話メニューで  を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
電話が発信されます。

#### 通話リストの使用

▶ 電話メニューを呼び出す：**TEL** スイッチを押します。

▶ メニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします  ↓。

▶ **発信履歴** を選択する：コントローラーをまわして、押します。

▶ **着信履歴** または **発信履歴** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
対応するリストが表示されます。

▶ 項目を選択し、電話を発信する：コントローラーをまわして、押します。

マルチファンクションステアリングを使用して選択し、発信します。別冊の車両の取扱説明書をご覧ください。

## 電話帳の使用

- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ 電話メニューで **名前** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
電話帳は作動された文字バーとともに表示されます。
- ▶ 文字を選択する：コントローラーをまわし、押して確定します。  
選択した先頭文字の最初の連絡先が、電話帳で強調されます。
- ▶ その都度コントローラーをまわしてから押して、検索する連絡先の文字を1つずつ選択します。
- ▶ 検索を終了する：[ok] を選択します。  
電話帳の連絡先が表示されます。
- ▶ 連絡先を選択する：コントローラーをまわして、押します。

連絡先に1つ以上の電話番号が含まれている場合

- ▶ 電話番号を選択する：コントローラーをまわして、押します。

電話帳についてのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

## インターネット接続の設定

### 手順および全般的な情報

インターネットアクセス用に携帯電話を設定するためには、携帯電話が Bluetooth® 経由で Audio 20/COMAND システムに接続されていなければなりません。

初めてインターネットアクセスを使用する場合は、インターネットアクセス用に接続された携帯電話を有効にしなければなりません (▷ 220 ページ)。接続した携帯電話が Bluetooth® PAN プロファイルをサポートしている場合は、追加の設定をする必要はありません。インター

ネットの接続が確立されます。接続した携帯電話がそれらの名称の Bluetooth® プロファイルをサポートしていない場合は、あらかじめ設定された (▷ 221 ページ) または手動でアクセスデータ (▷ 221 ページ) を設定しなければなりません。

### インターネットアクセス用に携帯電話を有効にする

- ▶ 電話メニューを呼び出す：[TEL] スイッチを押します。
- ▶ 基本機能バーに切り替える：コントローラーをスライドします ↑◎。
- ▶ **電話/地球儀** を選択する：コントローラーを押します。
- ▶ **インターネット** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
インターネット機能のメニューが表示されます。
- ▶ メニューバーに切り替える：コントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。
- ▶ **インターネットの設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
デバイスリストが表示されます。
- ▶ **インターネットデバイス検索** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
携帯電話は以下のように表示されます：
  - Audio 20/COMAND システムに接続されている
  - インターネット機能用の条件を満たしている
  - まだインターネット機能用の設定が行われていない



- ▶ 携帯電話をデバイスリストから選択するためには、コントローラーをまわし、押して確定します。

携帯電話が Bluetooth®PAN プロファイルをサポートしている場合は、インターネットアクセスが設定されます。インターネット機能を使用できます。

接続した携帯電話がそれらの名称の Bluetooth®プロファイルをサポートしていない場合は、あらかじめ設定された (▶ 221 ページ) または手動でアクセスデータ (▶ 221 ページ) を設定しなければなりません。

### 携帯電話ネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定する

#### 携帯電話ネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータの選択

- ▶ **自動設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
国のリストが表示されます。
- ▶ たとえば **日本** のような、携帯電話のネットワークプロバイダーの国を選択します。  
使用可能なプロバイダーのリストが表示されます。

- ▶ たとえば **NTT docomo** のような、プロバイダーを選択します。  
プロバイダー設定の概要が表示されます。
- ▶ **設定確認** を選択する：コントローラーをまわして、押します。

携帯電話のネットワークプロバイダーが複数のアクセスデータのオプションを提供している場合は、関連のアクセスデータを選択しなければなりません。これは、たとえば使用しているデータパッケージによって異なります。

#### 携帯電話ネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定

- ▶ **手動設定** を選択する：コントローラーをまわして、押します。  
プロバイダー設定の概要が表示されます。
- ▶ アクセスデータを設定します (▶ 221 ページ)。
- ▶ 設定を確認する：**設定確認** を選択し、コントローラーをまわして、押します。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータが接続している携帯電話で一度選択されると、携帯電話が接続されるたびに再度読み込まれます。

接続している携帯電話の SIM カードおよび関連するデータパッケージ (アクセス設定) を提供している携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定しなければなりません。他の国にいる場合は、アクセスデータは同じままで (ローミング)。他のネットワークのアクセスデータは**選択されません**。

#### アクセスデータの設定

データパッケージに応じたアクセスデータを設定します。携帯電話のネットワークプロバイダーに連絡して、正確なアクセスデータを入手することができます。

## アクセスデータの説明

入力欄	意味
電話番号:	<p>接続を確立するためのアクセス番号</p> <p>アクセス番号は使用している携帯電話によって異なります。GSM/UMTS 携帯電話では、*99***1# が標準で使用されます。</p>
アクセスポイント:	<p>APN ネットワークアクセスポイント (Access Point Name : アクセスポイント名)</p> <p>お客様の携帯電話のネットワークプロバイダーからこの情報を入力できます。</p> <p>すべての携帯電話ネットワークプロバイダーおよび携帯電話で入力が必要なわけではありません。</p>
PDP Type:	<p>使用されているインターネットプロトコル</p> <p>お客様の携帯電話のネットワークプロバイダーからこの情報を入力できます。</p>
ユーザーID:	<p>ユーザー ID は、携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。</p> <p>すべての携帯電話ネットワークプロバイダーで入力が必要なわけではありません。</p>

入力欄	意味
パスワード:	<p>パスワードは、携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。</p> <p>すべての携帯電話ネットワークプロバイダーで入力が必要なわけではありません。</p>
オート DNS:	<p>DNS サーバーの自動割り当てが作動します。機能が解除されている場合は、DNS サーバーのアドレスを手動で入力しなければなりません。</p> <p>DNS (Domain Name Service)</p>
DNS 1: DNS 2:	<p>DNS サーバーのアドレスを手動で入力するための欄。アドレスは、携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。</p>

## ラジオモード

## オンにする

- ▶  RADIO スイッチを押します。  
ラジオ画面が表示されます。最後に選択した周波数バンドで再生していた一番後の放送局が聞こえます。

## 概要



例：COMAND システム

- ① 基本機能バー
- ② ステータスバー
- ③ 利用可能な放送局および関連情報のある基本画面欄
- ④ 選択したラジオ放送局の表示
- ⑤ ラジオメニューバー

### 基本機能バーの選択

- ▶ コントローラーをスライドします ↑◎。

### メニューバーの選択

- ▶ コントローラーをスライドします ◎↓。

### メニューオプション

- ▶ **オプション** を選択する：コントローラーをまわして、押します。

以下の設定オプションが使用できます：

- **周波数入力**：周波数の手動入力
- **現在の放送局リスト**：利用可能な放送局のリスト
- **プリセット編集**：放送局プリセットの選択および編集

## 周波数バンドの設定



- ▶ **スイッチを使用する**：ラジオモードで **[RADIO]** スイッチを押します。

- ▶ 希望の周波数バンドが中央になるまで、コントローラーをまわします。コントローラーを押します。

または

- ▶ **ラジオメニューバーを使用して**：ラジオモードで、コントローラーをスライドします ◎↓。

- ▶ **帯域/プリセット** を選択する：コントローラーをまわして、押します。

- ▶ 希望の周波数バンドが選択されるまで、コントローラーをまわします。コントローラーを押します。

## 放送局の設定

- **基本画面欄により**：ラジオモードで、希望の放送局が中央になるまで、コントローラーをまわします。

- **"オプション" メニューにより**：**現在の放送局リスト** または **周波数入力** を使用して、希望の放送局を選択または入力します。

## 交通情報（AM ラジオ）

### 交通情報のある放送局を選択する

- ▶ ラジオモードでコントローラーをスライドします ◎↓。

- ▶ **交通情報** を選択します。

1620 kHz または 1629 kHz の 2 つの交通情報の放送局の間で選択できます。COMAND システム は、より良く受信できる放送局を自動的に選択します。

それぞれの地域の交通情報は、道路管理者や所轄の警察署が放送しています。交通情報は、受信地域以外で受信することはできません。

放送地域については、道路上の標識などで知ることができます。

### AM ラジオ画面に戻る

- ▶ ラジオモードでコントローラーをスライドします ◎↓。
- ▶ **AM に戻る** を選択します。

役に立つ情報 .....	226
積載のガイドライン .....	226
収納エリア .....	227
機能 .....	236

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▶ 26 ページ)

## 積載のガイドライン

## ⚠ 警告

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

## ⚠ 警告

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジン作動中、とくに走行中にテールゲートが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。中毒を起こすおそれがあります。

テールゲートを開く前に、エンジンをオフにしてください。テールゲートを開いたまま走行しないでください。

## ⚠ 警告

マフラーのテールパイプおよびテールエンドが非常に熱くなることがあります。車両のこれらの部品に触れた場合は、や

けどするおそれがあります。けがのおそれがあります。

特にマフラーのテールパイプおよびテールエンド周辺には常に注意してください。これらの構成部品に触れる前には冷ましてください。

荷物を積載した車両のハンドリング特性は、車両への荷物の配置に影響を受けません。そのため、荷物を運搬するときは、以下の点に注意してください。

- 最高許容車両総重量および車両の許容軸重を超えないようにしてください（乗員を含む）。
- 荷物はラゲッジルームに入れて運ぶことを推奨します。
- 重い物はラゲッジルーム内のなるべく前方に、そしてできるだけ低く配置してください。
- 荷物がシートのバックレストの上端よりも高くないようにしてください。
- 必ずリアまたはフロントシートのバックレストに接するように置いてください。シートのバックレストが、所定の位置に確実に固定されていることを確認してください。
- 可能な場合は、着座していないシートの後方に常に荷物を置くようにしてください。
- 荷物や手荷物を運搬するために、固定用リングおよびラゲッジネットを使用してください。
- 荷物の大きさと重さに適した荷物固定用リングおよび固定具のみを使用してください。
- 荷物を積むときはセーフティネットで留めてください。
- ラゲッジルームフロア下の収納スペースの最大積載量は 25 kg です。
- 十分な強度があり、耐摩耗性の固定用具で荷物を固定してください。保護の

ため鋭い角にはパッドを当ててください。

**■** フロアボードの一部分に偏った積荷をしないでください。フロアボードの最大積載許容量は 100 kg です。フロアボードの損傷を防ぐため、荷重は均等に分散させてください。必要に応じて、荷物の下に固い板をしいてください。荷物を留める場合、フロアボードの荷重が増える可能性があることにご留意ください。

## 収納エリア

### 小物入れ

#### 重要な安全上の注意事項

##### ⚠ 警告

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員がけがをするおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はラゲッジルームに収納し、固定する

積載のガイドラインに従ってください（▶ 226 ページ）。

#### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- グローブボックス
- サングラスケース

- フロントセンターコンソールの小物入れ
- フロントアームレストの小物入れ
- アームレスト下の小物入れ
- リアセンターコンソールの小物入れ
- 格納式テーブル

### ラゲッジネット

ラゲッジネットは以下にあります。

- 助手席足元
- 運転席および助手席シートの背面

積載のガイドライン（▶ 226 ページ）および収納用スペースに関する安全上の注意事項（▶ 227 ページ）に従ってください。

### 助手席シートの折り畳み式バックレスト

##### ⚠ 警告

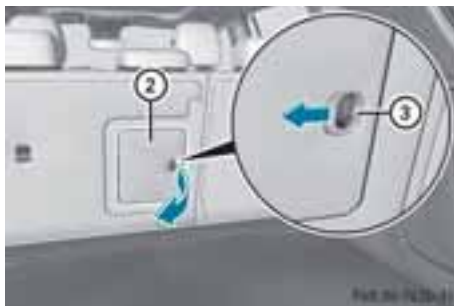
助手席シートのバックレストが倒されていると、とくに事故、ブレーキあるいは急な進路変更の際に後席の乗員がシート調整メカニズムの部品とぶつかるおそれがあります。けがの危険性があります。車両に乗員を乗せて助手席シートのバックレストを倒した状態で走行する場合は、乗員は必ず運転者の後ろのリアシートに座るようにしてください。

助手席シートのバックレストは、ラゲッジルーム容量を増やすために、前に倒すことができます。

助手席のバックレストを積載面として使用しないときはバックレストを元の位置に戻してください。



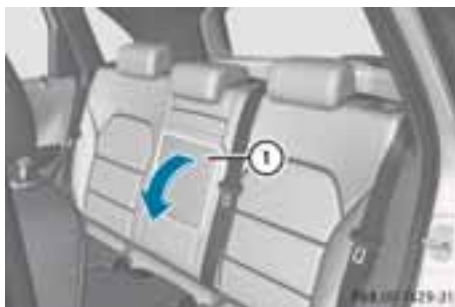
- ▶ **前に倒す**：バックレストをゆっくり後ろに押します。
- ▶ リリースハンドル①を引いて、バックレストが固定されるまで、シートクッションの上にバックレストを完全に倒します。
- ▶ **起こす**：バックレストをゆっくり下に押し、リリースハンドル①を引きます。
- ▶ シートバックレストを起こして固定します。



- ▶ ロック機構③を矢印の方向にスライドさせます。
- ▶ フラップ②を横に完全にまわします。フラップ②がマグネットで開いたまま保持されます。
- ▶ **閉じる**：ラゲッジルーム側のフラップ②を固定するまで戻します。
- ▶ 必要に応じて、アームレスト①を完全に引き上げます。

積載のガイドラインに従ってください  
(▶ 226 ページ)。

### 後席のトランクスルー機能



- ▶ **開く**：アームレスト①を引き下ろします。
- ▶ リアシートのセンターヘッドレストを最大位置に引き上げます (▶ 104 ページ)。

### ラゲッジルームの拡大

#### 重要な安全上の注意事項

##### ⚠ 警告

リアベンチシート/後部座席と座席の背もたれが固定されていない場合、急なブレーキ操作や事故のときに、前に倒れる可能性があります。

- これにより、乗員は、リアベンチシート/後部座席または座席の背もたれによってシートベルトに押さえ込まれます。シートベルトは、十分な保護効果を発揮することができず、さらにけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームの荷物や重い荷物はシートバックレストで固定することはできません。

けがをするおそれが高まります。

走行前に、必ずシートバックレストおよびリアベンチシート/後部座席が固定されていることを確認してください。

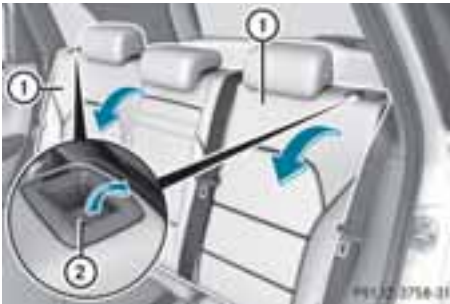
**❗** 後席のバックレストを前方に倒す前に、後席アームレストおよびカップホルダーが格納されていることを確認してください。損傷するおそれがあります。

積載のガイドラインに従ってください (p. 226 ページ)。

左側および右側リアシートバックレストを前方に別々に倒して、ラゲッジルーム容量を拡大することができます。

## EASY-VARIO-PLUS システム非装備車

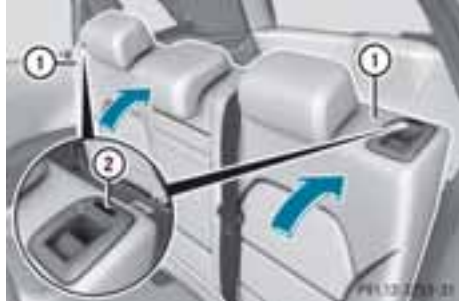
### リアシートバックレストを前方に倒す



- ▶ バックレストのヘッドレストを完全に差し込みます (p. 104 ページ)。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席シートを前方に動かします。
- ▶ 左側または右側のシートバックレストのリリースハンドル ② を手前に引きます。対応する側のシートバックレスト ① が解除されます。
- ▶ バックレスト ① を前に倒します。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席のバックレストを後方に動かします。

### リアシートのバックレストを起こす

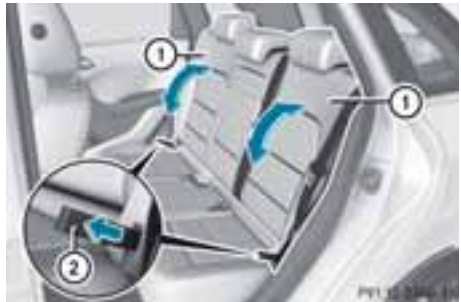
**❗** リアシートバックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。損傷するおそれがあります。



- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席シートを前方に動かします。
- ▶ シートバックレスト ① を起こしてロックします。赤色のロックステータスインジケータ ② が見えないことを確認してください。
- ▶ 必要に応じて、ヘッドレストを調整します (p. 104 ページ)。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席のバックレストを後方に動かします。

## EASY-VARIO-PLUS システム装備車両

### リアシートバックレストを前方に倒す



- ▶ バックレストのヘッドレストを完全に差し込みます (▶ 104 ページ)。
- ▶ リアシートをできるだけいっぱいまで動かして戻します (▶ 231 ページ)。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席シートを前方に動かします。
- ▶ バックレストの右または左のアーム ② を矢印の方向に引きます。対応する側のシートバックレスト ① が解除されます。
- ▶ バックレスト ① を完全に下方に倒します。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席のバックレストを後方に動かします。

### リアシートのバックレストを起こす

**!** リアシートバックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。損傷するおそれがあります。



- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席シートを前方に動かします。
- ▶ バックレスト ① を戻します。
- ▶ アームを引いて、バックレストを希望の角度に調整します (▶ 230 ページ)。
- ▶ 必要に応じて、ヘッドレストを調整します (▶ 104 ページ)。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席のバックレストを後方に動かします。

### ラゲッジルームの使用に関する注意事項



ラゲッジルームを最大限に利用する：

- ▶ シートバックレスト ① を積載位置にセットします (90° の位置) (▶ 230 ページ)。積載容量が増加します。
- ▶ 高さ調整可能なラゲッジルームのフロア装備車両：ラゲッジルームのフロアを上の方まで移動します (▶ 235 ページ)。積載面が平らになります。
- ▶ リアベンチシートをできるだけ前に移動します (▶ 231 ページ)。積載エリアが増加します。
- ▶ 助手席シートの折りたたみ式バックレストと (▶ 227 ページ)、後席のバックレストを前に倒します。積載エリアが長くなります。

### リアシートバックレストの角度の調整



シートバックレストの角度は 13 箇所の戻り止めポジションの一つに設定できます。

- ▶ 右または左の解除アーム ② を 前方、矢印の方向に引きます。  
対応する側のシートバックレスト ① が解除されます。
- ▶ バックレスト ① を前方の矢印の方向に引くか、あるいは押し戻して、かみ合わせます。
- ▶ バックレストがかみ合ったことを確認するために、バックレスト ① にしっかりとめられます。

左右リアシートの角度および前後の位置は、ラゲッジルームをより効率的に利用できるようにするため、シートごとに別々に調整できます。

したがって、バックレストに角度に応じて、左右リアシートは、バックレストがラゲッジルームカバーに寄りかかるまで、様々な距離で後ろに押すことができます。バックレストがラゲッジルームパネルの周辺の部品に接触すると、バックレストの角度が小さくなります。

### シートの前後位置の調整

**!** リアシートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物が無いことを確認してください。そうしないと、リアシートおよび/または荷物を損傷するおそれがあります。



- ▶ 左または右のリリースハンドルを持ち上げて、対応するシートを前方または後方にスライドさせます。
- ▶ もう一度、リリースハンドルを放します。  
適切な位置でシートがロックされた音を確認します。

## 荷物の固定

### 荷物固定用リング

#### 全体的な注意事項

荷物の固定に関する、以下の点に注意してください。

- 積載時のガイドライン (p. 226 ページ) に従ってください。
- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 荷物固定用リングには、均等に力がかかるようにしてください。
- 伸縮性のあるストラップまたはネットを使用して荷物を固定しないでください。これらは軽い荷物の滑り止め防止としてのみ想定されています。
- 固定用具をとがった端部や角にかけないようにしてください。
- 保護のため、とがった角にはパッドを取り付けてください。

### ラゲッジルーム



① 荷物固定用リング

## バッグフック

### ⚠ 警告

バッグフックは重い荷物やラゲッジルームの積載物を固定することはできません。荷物やラゲッジルームの積載物が飛び出す可能性があり、ブレーキ操作や急な進路変更で乗員にぶつかる可能性があります。けがの危険性があります。

バッグフックには軽い荷物のみを掛けてください。バッグフックに固いもの、鋭利なもの、壊れやすい物をかけないでください。

❗ バッグフックには、約 3 kg 以上の荷物をかけないでください。バッグフックは、荷物を固定する目的で使用しないでください。



① バッグフック

## ラゲッジルームカバー

### 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

ラゲッジルームカバーには、荷物や重い荷物などを固定することはできません。固定されていない荷物や重い荷物が、急な進路変更やブレーキ操作または事故のときなどにぶつかる可能性があります。けがや致命的なけがをするおそれが高まります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。ラゲッジルームカバーを使用している場合、荷物や重い荷物がす

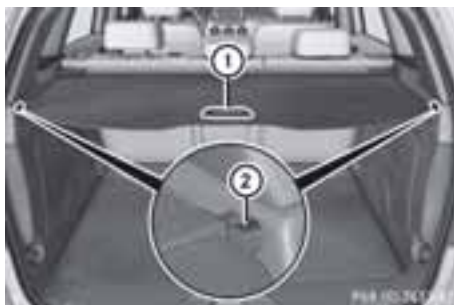
べったり、放り出されることを防ぐために、荷物固定用ストラップなどで固定してください。

❗ 荷物を車内に積むときは、ラゲッジルーム内の荷物をサイドウインドウ下端より高く積み上げないでください。ラゲッジルームカバーの上に重い物を載せないでください。

❗ ラゲッジルームカバーの取外しおよび交換の際は、エンドキャップが車両の明るい色の部分をこすらないようにしてください。

ラゲッジルームカバーは、リアベンチシートのバックレスト後方にあります。

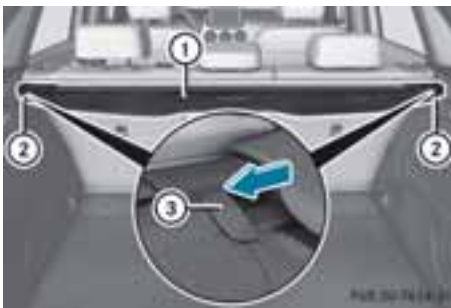
## ラゲッジルームカバーの展開/収納



▶ **展開する**： グリップハンドル ① を持って、ラゲッジルームカバーを後方に引き、左右のフック ② に固定します。

▶ **収納する**： ラゲッジルームカバー ② を左および右のフックから外し、完全に収納されるまで、グリップハンドル ① 前方に導きます。

## ラゲッジルームカバーの取り付け/取り外し



- ▶ **取り外す**：ラゲッジルームカバーが巻き取られていることを確認します。
- ▶ グリップ ③ を使用して、ラゲッジルームカバー ① のエンドキャップを矢印の方向に右または左側に押し込みます。
- ▶ ラゲッジルームカバー ① を反対側の固定部 ② に押し込みます。
- ▶ ラゲッジルームカバー ① を上方に取り外します。
- ▶ **取り付け**：右または左側の固定部 ② にラゲッジルームカバー ① を合わせます。
- ▶ ラゲッジルームカバー ① の反対側のエンドキャップを押し、ラゲッジルームカバー ① を反対側の固定部 ② に差し込みます。

## セーフティネット

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

セーフティネットには、荷物や重い荷物などを固定することはできません。固定されていない荷物や重い荷物が、急な進路変更やブレーキ操作または事故のときなどにぶつかる可能性があります。けがや致命的なけがをするおそれが高まります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。セーフティネットを使用している場合、荷物や重い荷物がすべったり、放り出されることを防ぐために、荷物固定用ストラップなどで固定してください。

シートのバックレストの高さを超える小物を車両に積載する場合は、セーフティネットを使用することが特に重要になります。安全上の理由により、荷物を運搬するときは常にセーフティネットを使用してください。

損傷したセーフティネットは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

### セーフティネットの装着と締め付け

セーフティネットをひっかける方法は2通りあります。

- ラゲッジルームの拡大装備：ブラケットはBピラー後方にあり、ネットを締めるための固定用リングはリアラゲッジルームの両側にあります。
- ラゲッジルームの拡大非装備：ブラケットはCピラー後方にあり、ネットを締めるための固定用リングはラゲッジルーム内にあります (▶ 231 ページ)。

セーフティネットはラゲッジルームフロア下の収納スペースにあります。(▶ 234 ページ)

- ▶ 両方のベルクロファスナーを開き、セーフティネットを取り外します。
- ▶ セーフティネットをほどいて、広げます。  
上および下のガイドロッドの接続部を音が聞こえるまで固定します。



Cピラーの裏に取り付けられたセーフティネットの例（ラゲッジルームの拡大非装備）

- ▶ **装着し、締め付ける：** ガイドロッド①をブラケット②に差し込みます。
- ▶ ベルトフック④を固定用リングに取り付けて、セーフティネットがぴんと張るまで、固定用ストラップのゆるんだ端を下に引きます。
- ▶ 短距離を走行した後で、セーフティネットの張りを点検し、必要に応じて再度締めます。
- ▶ **ゆるめ、取り外す：** ベルトクランプ③を引き上げて、固定用ストラップの張りをゆるめます。
- ▶ ベルトフック④を固定用リングから取り外します。
- ▶ ガイドロッド①をブラケット②から取り外します。
- ▶ **収納する：** 上および下のガイドロッドの赤いスイッチを押します。
- ▶ セーフティネットを折りたたんで巻き取ります。
- ▶ セーフティネットホルダーの2つのベルクロファスナーを閉じます。

## ラゲッジルームフロア下の収納スペース

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

ラゲッジルームフロアを開いて走行すると、荷物が放り出され、乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

走行する前に、必ずラゲッジルームフロアを閉じてください。

❗ ラゲッジルームフロア下の収納スペースの最大積載許容量は 25 kg です。

ラゲッジルームのフロアの下に、タイヤフィット、車載ツール、折りたたみ式ボックスなどの保管スペースがあります。

### ラゲッジルームフロアの開閉



- ▶ **開く：** テールゲートを開きます。
- ▶ フレーム②を押さえながら、ハンドル①を下方に押しします。ハンドル①が起き上がります。
- ▶ ハンドル①を使ってラゲッジルームフロアを、ラゲッジルームカバーに当たるまで持ち上げます。



- ▶ ラゲッジルームフロアボードの底面にあるフック ③ を引き出します。



- ▶ **高くする**： ハンドル ① を使って、ラゲッジルームのフロア ② を矢印の方向 ③ に上げてそれを引き上げます。



- ▶ フック ③ をラゲッジルームの上部ウェザーストリップ ④ にかけます。
- ▶ **閉じる**： フック ③ を上部ウェザーストリップ ④ から外します。
- ▶ ラゲッジルームフロアの下側にあるブラケットにフック ③ を固定します。
- ▶ ラゲッジルームフロアを下ろします。
- ▶ ラゲッジルームフロアをロックするまで押し込みます。

- ▶ もう一度、ラゲッジルームのフロア ② を下げます。そのために、ラゲッジルームのフロアが上部のレベルのガイドにかみ合うようにフロアを押しします。ラゲッジルームのフロア ② が上部の位置でかみ合います。

**i** このステップは、両手を使って実行してください。

- ▶ **下げる**： ラゲッジルームのフロア ② をハンドル ① を使って少し上げて、手前に引きます。

- ▶ もう一度、ラゲッジルームのフロア ② をゆっくりと下げます。そうしながら、ラゲッジルームのフロアを下部のレベルまで押しします。ラゲッジルームのフロア ② が下部の位置でかみ合います。

### ラゲッジルームのフロアの高さ設定

ラゲッジルームのフロアの下収納スペースは、必要に応じてサイズを大きく、または小さくすることができます。そのために、2通りの異なる高さでフロアをロックすることができます。上部のロック機構は、リアベンチシートが前に倒されたときに平らな積載面を作ります。

### ルーフラック

#### 重要な安全上の注意事項

##### ⚠ 警告

ルーフに荷物を積むと、車両の重心位置が上がり、走行特性が変化します。ルーフの最大積載量を越える場合、走行特性や、ステアリング操作やブレーキ操作が大幅に損なわれるおそれがあります。事故の危険性があります。

運転スタイルを調整し、ルーフの最大積載量を決して超えないでください。

**!** ルーフラックは、メルセデス・ベンツ用に認定された推奨品の使用をお勧めします。これにより、車両の損傷を防ぐ助けになります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

車両装備により、ルーフラックを装着するときはパノラミックスライディングルーフをチルトアップでき、テールゲートが全開になることを確認してください。

ルーフの最大積載量に関する情報は "サービスデータ" にあります (p. 300 ページ)。不適切に固定されたルーフラック、またはルーフ上の荷物は、車両から落下することがあります。そのため、ルーフラックメーカーの装着方法に従ってください。

## ルーフラックの取り付け



- ▶ カバー ① を矢印の方向に注意して開きます。
- ▶ カバー ① を引き上げます。
- ▶ ルーフラックはカバー①の下のマウント部のみに装着してください。
- ▶ 製品の取扱説明書に従ってください。

## 機能

### デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- カップホルダー
- 灰皿
- ライター
- 12V 電源ソケット

## サンバイザー

### 概要



- ① ミラー照明
- ② 固定部
- ③ クリップ
- ④ バニティミラー
- ⑤ ミラーカバー

### サンバイザーのバニティミラー

ミラー照明 ① は、サンバイザーが固定部 ② に固定されていて、ミラーカバー ⑤ が開いている場合にのみ点灯します。

### 横方向からの眩しさ

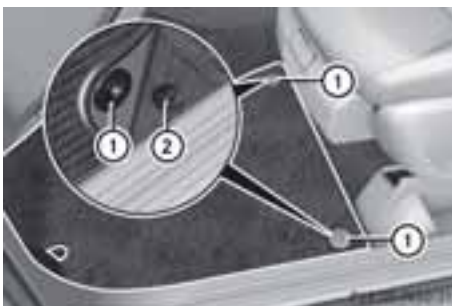
- ▶ サンバイザーを下げます。
- ▶ サンバイザーを固定部 ② から引き出します。
- ▶ サンバイザーを横にまわします。

## フロアマット

### ⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。



- ▶ シートを後方にスライドします。
- ▶ **取り付け**：フロアマットを足元に敷きます。
- ▶ フロアの凸部 ② の固定用ノブ ① を押します。
- ▶ **取り外す**：固定部 ② からフロアマットを引いて取り外します。
- ▶ フロアマットを取り外します。

## 後付けした防眩フィルム

ウインドウの内側に遮光フィルムなどを貼り付けると、携帯電話やラジオなどの電波受信に影響を与えるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼り付けた場合は、

特に電波受信への影響が懸念されます。遮光フィルムについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

役に立つ情報 .....	240
エンジンルーム .....	240
アシストプラス .....	247
手入れ .....	247

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
で情報をご覧ください。(p. 26 ページ)

## エンジンルーム

## ボンネット

## 重要な安全上の注意事項

## ⚠ 警告

ロックされていないボンネットは、車両が動いているときに開き、視界を遮ることがあります。事故の危険性があります。走行しているときは、ボンネットのロックを解除しないでください。各走行前に、ボンネットがロックされていることを確認します。

## ⚠ 警告

開閉中、ボンネットが急に下がる場合があります。ボンネットの動作範囲では、けがの危険性があります。

ボンネットの動作範囲に誰もいないことを確認して、ボンネットを開閉してください。

## ⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボ

ンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

## ⚠ 警告

エンジンルームには可動部品があります。ラジエーターファンなどの特定の構成部品は、イグニッションをオフにした後も動き続けたり、再度突然動くことがあります。けがの危険性があります。エンジンルームの作業を行わなければならない場合は：

- イグニッションをオフにしてください。
- ファンの回転範囲など、可動部品周囲の危険な範囲には決して触れないでください。
- 宝飾品や時計は外してください。
- 衣服や髪の毛などの物は、動いている部品から離してください。

## ⚠ 警告

イグニッションシステムおよび燃料噴射システムは高電圧下で作動しています。高電圧を含んだ構成部品に接触すると、感電するおそれがあります。けがの危険性があります。

イグニッションをオンにしたら、イグニッションシステムまたは燃料噴射システムの構成部品に決して触れないでください。

## ボンネットを開く

## ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

## ⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイ

パーリンクージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

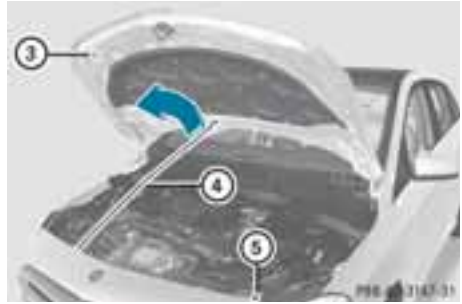
**❗** ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。



- ▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。
- ▶ ボンネットのロック解除レバー①を引きます。ボンネットのロックが解除されます。



- ▶ ボンネットとラジエーターリム間の隙間に手を入れ、ボンネットキャッチレバー②を左に押します。
- ▶ ボンネットが持ち上がります。



- ▶ サポートダンパー④をブラケット⑤から取り出します。
- ▶ サポートダンパー④を持ち上げ、黄色いクリップ③に差し込みます。

### ボンネットを閉じる

- ▶ ボンネットを少し持ち上げ、同時にサポートダンパー④を黄色のクリップ③から外します。
- ▶ サポートダンパー④を下方に動かし、ブラケット⑤に固定するまで押します。
- ▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。
- ▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。ボンネットがわずかに上がる場合は、確実に固定されていません。閉じたボンネットを押さないでください。ボンネットを再度開き、少し力を入れて閉じます。

### エンジンオイル

#### 全体的な注意事項

**❗** エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

**❗** エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減

少します。定期的にエンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車両は1,000 km 当たり最大 0.8 リットルのオイルを消費します。新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。エンジンによって、オイルレベルゲージは異なる位置に装着されています。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 車両を水平な場所に停めます。
- エンジンが通常の作動温度の場合は、約 5 分後にエンジンを停止してください。
- エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが通常の作動温度にない場合は、計測を行なう前に約 30 分待ってください。

### オイルレベルゲージを使用してのオイルレベルの点検

#### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



例

- ▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。
- ▶ オイルレベルゲージ ① を拭きます。
- ▶ オイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再度引き抜きます。レベルが MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にある場合は、オイルレベルは適正です。
- ▶ オイルレベルが MIN マーク ③、またはそれ以下まで下がっている場合は、エンジンオイルを 1.0 L 補充してください。

### エンジンオイルの追加

#### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

#### ⚠ 警告

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

エンジンオイルが補給口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルで汚れた構成部品を清掃してください。

## 🌿 環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

**!** サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

**!** オイルを過剰に補給しないでください。エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。余分なエンジンオイルを抜き取ってください。



例：エンジンオイル給油キャップ

- ▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ エンジンオイルを補充します。オイルレベルがオイルレベルゲージのMIN マーク、またはそれ以下の場合、エンジンオイルを 1.0L 補充してください。
- ▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわします。キャップが元の場所に確実にロックされていることを確認します。
- ▶ オイルレベルゲージでオイルレベルを再度点検します (▶ 242 ページ)。

エンジンオイルについてのさらなる情報は、(▶ 297 ページ) をご覧ください。

## 定期的なオイルの交換

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面により、標準的な交換時期が定められています。ただし、交換時期は使用状況に左右されます。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

## 冷却水

## 冷却水レベルの点検

## ⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

❗ 必ずエンジンが冷えているときにのみ冷却水量を点検し、調整してください(冷却水温度は約 40 °C以下)。冷却水温度が約 40 °C 以上のときに冷却水温度を点検すると、エンジンまたはエンジン冷却システムが損傷するおそれがあります。



例

- ▶ 車両を水平な場所に停めます。  
車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えている場合にのみ、冷却水レベルを点検してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 129 ページ)。
- ▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度表示を確認します。  
冷却水温度は 40 °C 以下でなければなりません。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわします (▷ 129 ページ)。
- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。  
冷えているときに冷却水が補給口内のマーカーバー ③ のレベルにある場合は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。
- ▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についてのさらなる情報は、(▷ 298 ページ)をご覧ください。

## 冷却水の補給

## ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

## ⚠ 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

❗ 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。



冷却水リザーブタンク ② 内の冷却水レベルが低すぎる場合は、水平な場所に停止し、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 冷却水をマーカーバー ③ まで補給してください。  
使用状況 (p 298 ページ) に合わせた水道水と不凍液/腐食剤の濃度で使用します。
- ▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。
- ▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷やします。
- ▶ 冷却水レベル (p 244 ページ) を点検し、必要に応じて補給します。

### 定期的な冷却水の交換

冷却水の品質は時間とともに劣化します。整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

### エンジンのオーバーヒート

#### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品

は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

#### ⚠ 警告


エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

#### ⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに 120 °C 以上の冷却水温度が表示されます。
- **冷却水が減少 停車してエンジンを停止** というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の  冷却水警告灯が表示されます。
- エンジンルームから蒸気が出ます。

## 他のサービスプロダクトの点検および補給

### ウインドウウォッシャー

#### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

#### ⚠ 警告

ウインドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。



例

- ▶ **開く**：タブを持って、キャップ①を引き上げます。
- ▶ あらかじめ混合しておいたウォッシャー液を補給します。
- ▶ **閉じる**：キャップ①を補給口に押し付けて、固定します。

ウォッシャー液レベルが推奨される最小の 1.0L 以下に下がった場合は、ウォッシャー液を補充するように促すメッセー

ジがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

ウインドウウォッシャー液/不凍液についてのさらなる情報は、(▷ 299 ページ)をご覧ください。

### ブレーキ液レベル

#### ⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

■ ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルが MIN マークまたはそれ以下まで低下しているときは、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。ブレーキパッド / ライニングの厚みも点検してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

絶対にブレーキ液を補給しないでください。これを行っても問題は解消しません。



例

ブレーキ液レベルの点検は、必ず水平な場所に停車した状態で行なってください。レベルがブレーキ液リザーブタンクの MIN マーク②と MAX マーク①の間に

ある場合は、ブレーキ液レベルは適正です。

## アシストプラス

デジタル版取扱説明書には、ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面のさらなる情報が含まれています。

## 手入れ

### 全体的な注意事項

#### 🌀 環境

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

**❗** お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

**❗** 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車両の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

## 外装の手入れ

### 自動洗車機

#### ⚠️ 警告

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行ってください。

**❗** ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動しているときは、特定の状況で車両は自動的にブレーキを効かせます。

車両への損傷を防ぐために、以下の、または類似した状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください。

- けん引するとき
- 洗車機の中

**❗** けん引式の洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションが **N** の位置にあることを確認してください。トランスミッションが他の位置にあると、車両の損傷につながります。

**❗** 注意：

- サイドウィンドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- ベンチレーション / ヒーターの送風が停止していること (OFF スイッチが押されている / 送風コントローラーが **O** の位置にある)。
- ワイパースイッチが **O** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーのノイズを低減します。

## デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- 手洗い
- 高圧式洗浄機器
- 塗装面の清掃
- マットペイントの手入れと取り扱い
- 車輪の清掃
- ウインドウの清掃
- ワイパーブレードの清掃
- 車外ライトの清掃
- ドアミラー方向指示灯の清掃
- センサーの清掃
- リアビューカメラの清掃
- マフラーの清掃

## 車内の手入れ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります。

- ディスプレイの清掃
- プラスチックトリムの清掃
- ステアリングおよびセクターレバーの清掃
- ウッド/トリムストリップの清掃
- シート表皮の清掃
- シートベルトの清掃
- ルーフライニングとカーペットの清掃

役に立つ情報 .....	250
車載品の収納場所 .....	250
パンク .....	252
バッテリー（車両） .....	257
ジャンプスタート .....	262
けん引とけん引始動 .....	265
ヒューズ .....	269

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 26 ページ)

## 車載品の収納場所

## 懐中電灯

車内には懐中電灯が装備されています。運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。電池が切れたら交換してください。

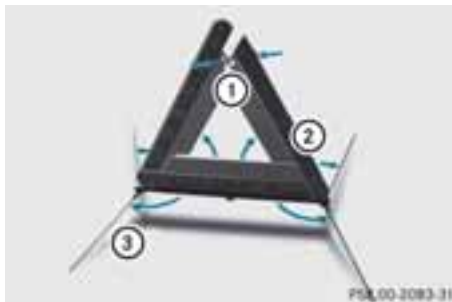
## 停止表示板

## 停止表示板の取り外し/取り付け



- ▶ **取り外す**： テールゲートを開きます。
- ▶ ラゲッジルームフロアを上方に上げます (▷ 234 ページ)。
- ▶ 停止表示板 ① のロックを解除するためには、ブラケットの固定具を押し戻します。
- ▶ 停止表示板 ① をブラケットから取り外します。
- ▶ **取り付ける**： 停止表示板 ① をブラケットに戻し、押し下げて固定します。
- ▶ ラゲッジルームのフロアを下ろします。
- ▶ テールゲートを閉じてください。

## 停止表示板の組み立て



- ▶ 脚部 ③ を横にひろげます。
- ▶ 側方の反射板 ② を上方に起こして三角形を作り、フック ① を使用して、上部で固定します。

## 救急セット



- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ **小物入れを開く**：回転ノブ ① を時計回りにまわし、カバー ② を下に倒します。



- ▶ 救急セット ③ を取り出します。

**①** 最低1年に1回、救急セット ③ の使用期限を点検してください。必要に応じて内容物を交換し、なくなった物は補充してください。

## 車載工具

### 全体的な注意事項

タイヤフィットキット装備車両：タイヤフィットキットはラゲッジルームのフロア下の収納スペースにあります。

タイヤ交換工具キット装備車両：タイヤ交換工具キットはラゲッジルームのフロア下の収納スペースにあります。

応急用スペアタイヤ装備車両は、「応急用スペアタイヤの取り外し」をご覧ください (p. 290 ページ)。

**①** 国ごとの仕様違いを除き、通常車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。車輪交換用工具の中には、その車両専用のものがあります。車両のタイヤ交換を行なうために必要となる、承認されたタイヤ交換工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

タイヤ交換に必要な工具には、以下のものなどが含まれます。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ガイドボルト

### タイヤフィットキット装備車両



- ① タイヤ充填コンプレッサー
- ② タイヤフィット充填ボトル
- ③ けん引フック

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ ラゲッジルームフロアを上方に上げます (p. 234 ページ)。
- ▶ タイヤフィットキットを使用します (p. 253 ページ)。

### タイヤ交換工具キット装備車両

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ ラゲッジルームフロアを上方に上げます (p. 234 ページ)。
- ▶ タイヤ交換工具キットを取り外します。

タイヤ交換工具キットには以下のものが含まれます。

- ジャッキ
- ホイールレンチ
- 手袋
- 折りたたみ式輪止め

## パンク

## 車両の準備

お客様の車両には、以下が装備されていることがあります。

- MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）（▶ 252 ページ）  
MOExtended タイヤ装備車両では、車両の準備作業は必要ありません。
- タイヤフィットキット（▶ 251 ページ）
- 応急用スペアタイヤ（一部の国のみ）（▶ 290 ページ）

車輪の交換/装着に関する情報（▶ 280 ページ）。

- ▶ 交通の妨げにならず、固く滑らない水平な場所に車両を停車します。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▶ 141 ページ）。
- ▶ 可能な場合は、前輪を直進位置にしてください。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ **キーレスゴー非装備車両**：エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車両**：運転席ドアを開きます。  
車両の電気装備が **0** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車両**：イグニッションロックからキーレスゴースイッチを取り外します（▶ 129 ページ）。
- ▶ 乗員全員を車両から降ろします。そのときは、乗員が危険にさらされていないことを確認してください。
- ▶ 車輪交換をするときは、危険なエリアの近くに誰もいないことを確認してください。車輪交換を直接補助しない人

は、ガードレールの向こう側に立つなどしてください。

- ▶ 車両から降りてください。そのときは交通状況に注意してください。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ 適切な距離を離して停止表示板を置いてください（▶ 250 ページ）。法規に従ってください。

**i** 自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

**i** MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

## MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）

## 全体的な注意事項

MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）により、1本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。影響を受けたタイヤに明らかに目に見える損傷があるとは限りません。

タイヤウォールの MOExtended マークで MOExtended タイヤを識別できます。このマークはタイヤサイズ表示、耐荷重性能、速度指数の横に表示されています。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムとの組み合わせでのみ使用することができます。

## マルチファンクションディスプレイに空気圧警告メッセージが表示された場合：

- ディスプレイメッセージの指示に従ってください (▶ 187 ページ)
- タイヤの損傷を点検してください
- 運転する場合は、以下の注意事項に従ってください

ランフラットモードで走行可能な距離は、部分積載している車両では約 80 km、最大積載している車両では約 30 km です。積載する荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 車両速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況/操作によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

ランフラットモードで走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。最高速度が 80 km/h を超えないようにしてください。

1 本または 4 本すべてのタイヤを交換するときは、お客様の車両のタイヤに合う以下の仕様に従ってください。

- サイズ
- タイプおよび
- "MOExtended"マーク。

タイヤがパンクし、MOExtended タイヤと交換できない場合は、一時的な措置として標準タイヤを使用してください。必ず適正なサイズと適正な種類（サマータイヤまたはウィンタータイヤ）を使用してください。

MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフ

ラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

## 重要な安全上の注意事項

### ⚠ 警告

エマージェンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合、エマージェンシーモードでの運転は中止してください。

- 大きい異音聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき
- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマージェンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

## タイヤフィットキット

## 重要な安全上の注意事項

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

タイヤフィットを使用して、4 mm 以下のパンク、特にタイヤトレッドにあるものをふさぐことができます。タイヤ

フィットは、-20℃までの外気温度で使用できます。

### ⚠ 警告

以下の状況のときは、タイヤフィットが十分に機能しないため、タイヤを適切に修理することはできません。

- 上記に記した以上のタイヤの裂け目や穴
- ホイールリムが損傷しているとき
- 非常に低い空気圧、またはパンクした状態で走行したとき

事故の危険性があります。

それ以上走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

### ⚠ 警告

タイヤフィットは有害で、炎症を起こす原因となります。皮膚、眼、服に付着させたり、吸い込んだりしないようにしてください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手の届かないところに保管してください。負傷するおそれがあります。

タイヤフィットが付着した場合は、以下の指示にしたがってください。

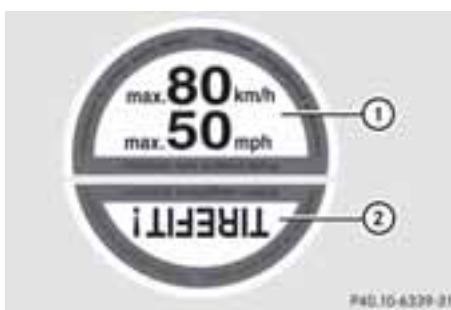
- タイヤフィットをただちに水道水で皮膚から洗い流してください。
- タイヤフィットが眼に付着した場合は、ただちに水道水で十分に洗い流してください。
- 万一、タイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水道水で口を十分すすぎ、水道水を大量に飲ませてください。無理に吐かせないでください。ただちに専門医の診断を受けてください。
- タイヤフィットが付着した衣類は、ただちに着替えてください。
- アレルギー反応が生じた場合は、ただちに専門医の診断を受けてください。

**!** 絶え間なくタイヤ充填コンプレッサーを約10分以上作動させないでください。オーバーヒートするおそれがあります。

冷えたら再度、タイヤ充填コンプレッサーを作動させることができます。

タイヤ充填コンプレッサーのステッカーにあるメーカーの安全上の指示に従ってください。

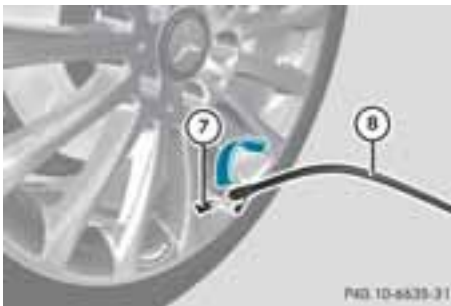
### タイヤフィットキットの使用



- ▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。
- ▶ ラゲッジルームのフロアボード下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します(▷ 251 ページ)。
- ▶ タイヤフィットステッカーの①部分をメーターパネル内の運転者から見えるところに貼ります。
- ▶ タイヤフィットステッカーの②部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼付します。



- ▶ 充填ホース ⑥ およびコネクター ③ をタイヤ充填コンプレッサーのケース②の底部から取り外します。
- ▶ コネクターが固定されるまで、黄色の充填ホースコネクターをタイヤフィットボトル ① の黄色のキャップ ⑤ の取り付け部にスライドします。
- ▶ 前部のシーリングリングで、キャップおよび両方のフックが固定されるまで、タイヤフィットボトル ① の黄色のキャップ ⑤ をタイヤ充填コンプレッサー ② の取り付け部にスライドします。



- ▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からキャップを取り外します。
- ▶ タイヤフィットのホース ⑧ をパンクしたタイヤのバルブ ⑦ に締め付けます。
- ▶ コネクター③を車両の 12 V 電源ソケット(▶ 236 ページ)に差し込みます。
- ▶ エンジンスイッチを 1 の位置にまわします(▶ 129 ページ)。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーのオン/オフスイッチ ④ を押して ON にします。タイヤ充填コンプレッサーが作動します。タイヤに空気が注入されます。

最初に、タイヤにタイヤフィットが送り込まれます。空気圧が一時的に約 500 kPa (5 bar/73 psi) まで上がることがあります。

**この間は、タイヤ充填コンプレッサーを停止しないでください。**

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを最大 10 分間作動させます。その後にはタイヤは 200 kPa (2.0 bar/29 psi) 以上の圧力になっていなければなりません。

10 分後に、空気圧が 200 kPa (2.0 bar/29 psi) に達している場合は、「十分なタイヤ空気圧」(▶ 256 ページ)をご覧ください。

最大で 10 分後に、空気圧が 200 kPa (2.0 bar/29 psi) に達しなかった場合は、「不十分なタイヤ空気圧」(▶ 255 ページ)をご覧ください。

タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。フィルム状になり、取り除くことができます。

衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

### 不十分なタイヤ空気圧

10 分後にタイヤ空気圧が 200 kPa (2.0 bar/29 psi) に達していない場合：

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ ごく低速で約 10 m 前進または後退します。
- ▶ 再度、タイヤに空気を注入します。

10 分後までには、タイヤ空気圧は 200 kPa (2.0 bar/29 psi) 以上になっていなければなりません。

#### ⚠ 警告

規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、タイヤフィットによるタイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気

圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

それ以上走行を続けなくて、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

## 十分なタイヤ空気圧

### ⚠ 警告

タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。

そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、指定された最高速度を超過しないでください。

タイヤフィットで修理されたタイヤの最高速度は 80 km/h です。運転者が容易に視認できるメーターパネル内に、タイヤフィットステッカーの上部を貼付してください。

❗ 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた専用袋に収納してください。

### 🌀 環境保護に関する注意

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

10 分後にタイヤ空気圧が 200 kPa (2.0 bar/29 psi) に到達している場合：

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ **ただちに発進します。**
- ▶ 約 10 分間走行した後には停止し、タイヤ充填コンプレッサーでタイヤ空気圧を点検します。  
タイヤ空気圧が 130 kPa (1.3 bar/19 psi) 以上でなければなりません。

### ⚠ 警告

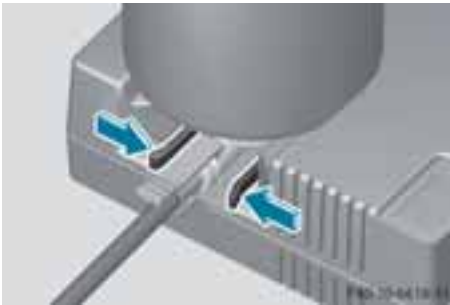
短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎることにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。事故発生の危険性があります。

それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

- ▶ タイヤ空気圧がまだ 130 kPa (1.3 bar/19 psi) 以上の場合は修正します。数値は燃料給油口フラップをご覧ください。
- ▶ **タイヤ空気圧を上げる：** タイヤ充填コンプレッサーを作動させます。



- ▶ **タイヤ空気圧を下げる：** 空気圧ゲージ②の横にある空気圧解放スイッチ①を押します。
- ▶ タイヤ空気圧が適正になったら、修理したタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ 修理したタイヤのタイヤバルブにバルブキャップを締め付けます。



- ▶ タイヤ充填コンプレッサーからタイヤフィットのボトルを取り外すためには、黄色いキャップのロックタブを一緒に押します。
- ▶ タイヤフィットのボトルをタイヤ充填コンプレッサーから引き出します。充填ホースはタイヤフィットのボトルにとどまったままになります。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。
- ▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場ではタイヤフィットのボ

トルおよび充填ホースを交換してください。

- ▶ タイヤフィットのボトルは 4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですら交換してください。

## バッテリー（車両）

### 重要な安全上の注意事項

バッテリーの取り外し、または取り付けなどの作業は、専門的な知識および専用工具の使用が必要です。そのため、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

#### ⚠ 警告

バッテリーに不適切な作業を行なうと、たとえばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。ライトシステム、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、または ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）などの安全性関連のシステムに該当する機能制限につながります。車両の操作安全性が制限される可能性があります。

車のコントロールを失うなどのおそれがあります。

- ブレーキ時
- 急激なステアリング操作および/または路面状況に適していない速度で走行した場合

事故の危険性があります。

ショートまたは類似の不具合が起こった場合、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。それ以上走行しないでください。バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

ABS（▷ 73 ページ）および ESP®（▷ 77 ページ）に関するさらなる情報。

**⚠ 警告**

静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリー充電時、およびジャンプスタート時は、可燃性の高い混合ガスが発生します。

お客様にも、そしてバッテリーにも静電気が帯電していないことを常に確認してください。静電気は以下のような場合に発生します。

- 合成繊維製の衣服を着用することにより
- 衣服とシートの間で摩擦が起こることにより
- カーペットまたは他の合成繊維の上でバッテリーを引きずった、または押したとき
- バッテリーを布で拭いたとき

**⚠ 警告**

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。

- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

**⚠ 警告**

バッテリー液は腐食性です。けがのおそれがあります。

皮膚、目または衣服への付着を防いでください。バッテリーのガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供の手の届かない所に置いてください。ただちにバッテリー液を多量の清潔な水で十分にすすぎ、至急医師の診断を受けてください。

**🌿 環境保護に関する注意**

電池には環境汚染物質が含まれています。電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

**!** メルセデス・ベンツ指定サービス工場  
でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

**!** バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。万が一、例外的な状況

では、必ずご自身でバッテリーの接続を外す必要があります、以下のことを遵守してください。

- エンジンを切って、キーを外します。キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションがオフになっていることを確認します。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。たとえば、オルタネーターのような電子部品を損傷するおそれがあります。
- まずマイナス端子をはずして、次にプラス端子をはずします。端子を入れ替えないでください。車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッション搭載車では、バッテリーの接続を外した後、トランスミッションは **P** 位置に固定されます。車両は走り出さないように固定されます。車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーをしっかり取り付けてください。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。



警告



バッテリーを取り扱うときは、火気や裸火、喫煙は禁止です。火花の発生は避けてください。



バッテリー液は腐食性です。皮膚、目または衣服への付着を防いでください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

清潔な水で、ただちに飛散した酸を洗い流してください。必要

に応じて、医師に相談してください。

保護眼鏡を着用してください。



子供を近づけないでください。



取扱説明書の指示に従ってください。

安全上の理由のため、お客様の車両のためにメルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたバッテリーのみを使用することをメルセデス・ベンツは推奨します。これらのバッテリーには、衝撃に対する高い耐性があり、その結果、事故の際にバッテリーが損傷した場合の乗員への酸による火傷の危険性を低減します。バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと、徐々に放電する可能性があります。そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの接続を外してください。メルセデス・ベンツにより推奨された充電器で、バッテリーを充電することもできます。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

車両を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻繁にバッテリー液量や充電状態を点検してください。車両を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

**i** 車両を駐車するとき、電気装備を必要としない場合は、キーを抜いてください。車両は非常にわずかな電力を使用し、これによりバッテリーの電力を消費します。

**i** バッテリーが放電した場合など、電力供給が中断した場合は、以下を行なわなければなりません。

- COMAND システムを使用して時刻を設定します。別冊の取扱説明書を参照してください。
- ミラーを一度展開して、ドアミラーの自動展開/格納機能をリセットします (▶ 105 ページ)。

## バッテリーの充電

### ⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確認してください。バッテリーをのぞきまさないでください。

### ⚠ 警告

バッテリー液は腐食性です。けがのおそれがあります。

皮膚、目または衣服への付着を防いでください。バッテリーのガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞきまさないでください。子供の手の届かない所に置いてください。ただちにバッテリー液を多量の清潔な水で十分にすすぎ、至急医師の診断を受けてください。

### ⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャ

ンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

**!** 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。

**!** バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

ジャンプスタート接続端子は、エンジンルーム (▶ 262 ページ)内にあります。

▶ ボンネットを開きます。

▶ ジャンプスタートの手順で救援用バッテリーを接続するときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアースポイントに接続してください (▶ 262 ページ)。

低温時に表示/警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合は、車両をジャンプスタートすることも、バッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなる場合があります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

バッテリーの充電に使用する充電器は、必ず純正品を使用してください。メルセデス・ベンツ車両用に特別に適合し、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器ユニットはアクセサリとして入手できます。この充電器は、車両に装着された状態でバッテリーの充電が許可されています。情報および入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

## ジャンプスタート

ジャンプスタート作業には、エンジンルーム内のプラス端子とアースポイントで構成されているジャンプスタート接続端子のみを使用してください。

## ⚠ 警告

バッテリー液は腐食性です。けがのおそれがあります。

皮膚、目または衣服への付着を防いでください。バッテリーのガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供の手の届かない所に置いてください。ただちにバッテリー液を多量の清潔な水で十分にすすぎ、至急医師の診断を受けてください。

## ⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

## ⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

## ⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

**!** エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。未燃焼燃料によって触媒が損傷するおそれがあります。

低温時に表示/警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合は、車両をジャンプスタートすることも、バッテリーを充電することもできないことがあります。最初にバッテリーを解凍してください。解凍したバッテリーの寿命は短くなる場合があります。特に低温時の始動性能が損なわれる場合があります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両の始動のために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電した場合は、ブースターケーブルを使用して他の車両や他のバッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に注意してください。

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、他のバッテリーまたはジャンプスタート用機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンおよび排気システムが冷えているときにのみ、車両のジャンプスタートを行ってください。
- バッテリー液が凍結しているときは、エンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは、定格電圧 12 V のバッテリーを使用してのみ行なうことができます。
- 損傷のない、十分な太さがあり、絶縁されたクランプの付いたブースターケーブルのみを使用してください。
- 2 台の車両が接触していないことを確認します。

以下を確認してください。

- ブースターケーブルが損傷していない。
  - ブースターケーブルをバッテリーに接続している間に、ターミナルクランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触していない。
  - エンジンがかかっているときに、V ベルトプーリーやファンなどの部品にブースターケーブルが接触していない。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせ、車両が動き出さないように固定します。
  - ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
  - ▶ エンジンスイッチのキーを **O** の位置にまわして、抜きます。
  - ▶ リアデフォグー、ライトなどすべての電気装備を停止します。
  - ▶ ボンネットを開きます。



位置番号⑥は、他の車両の充電されているバッテリーまたは対応するジャンプスタート装置を示しています。

- ▶ プラス端子②のカバー①を押し、同時に後ろにスライドさせます。
- ▶ ブースターケーブルを、自車のバッテリーのプラス端子②に接続します。次に、ケーブルの反対側を救援用バッテリー⑥のプラス端子③に接続します。
- ▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング回転数で作動させます。
- ▶ ブースターケーブルを使用して、救援用バッテリー⑥のマイナス端子④を自車のアースポイント⑤に接続します。ブースターケーブルは最初に救援用バッテリー⑥に接続します。
- ▶ バッテリーが完全に放電している場合は、始動を試みる前に、ジャンプスタートのために接続したバッテリーを数分間接続したままにしてください。これにより、放電したバッテリーに若干充電されます。
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させます。
- ▶ 最初にアースポイント⑤とマイナス端子④から、次にプラスクランプ②とプラス端子③からブースターケーブルを取り外します。いずれの際も、最初に自車の端子から開始してください。
- ▶ ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子②のカバー①を閉じます。
- ▶ ボンネットを閉じてください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの点検を受けてください。

**i** ジャンプスタートは、正常な操作状態とはみなされていません。

**i** ジャンプスタートのケーブル、およびジャンプスタートについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

## けん引とけん引始動

## 重要な安全上の注意事項

## ⚠ 警告

安全性に関連する機能は以下の場合に制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンが作動しないとき
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作により大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、けん引バーを使用してください。けん引する前に、ステアリングが自由に動くことを確認してください。

## ⚠ 警告

ステアリングロックがかかっている場合は、ステアリングが操作できなくなります。事故の危険性があります。

けん引ケーブルまたはけん引バーで車両をけん引するときは、常にイグニッションをオンにしてください。

## ⚠ 警告

他の車両をけん引する、またはけん引始動するとき、その重量がお客様の車両の許容総重量よりも大きい場合：

- けん引フックがちぎれる可能性があります
- トレーラー連結車両が蛇行し、横転するおそれがあります

事故の危険性があります。

他の車両をけん引する、またはけん引始動するときは、その重量はお客様の車両の許容総重量よりも大きくてはいけません。

❗ コリジョンプリベンションアシストプラス、ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではこれらのシステムが解除してください。：

- けん引時
- 洗車時

❗ パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが故障している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をおたずねください。

❗ けん引ロープやロッドは、けん引フック以外にはかけないでください。車体が損傷するおそれがあります。

❗ けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは 5m 以内である必要があります。その中間に白い布 (30x30cm) を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

❗ スタックから脱出するためにけん引フックを使用しないでください。車体を損傷するおそれがあります。できれば、

クレーンを使用して車両を脱出させてください。

**!** けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

**!** 車両は最長で約 50 km までけん引できます。けん引する際の速度は、約 30 km/h を超えないようにしてください。

距離が約 50 km を超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

**!** キーレスゴー装備車のけん引を行なう時は、エンジンスイッチを使用せずにキーを操作します。オートマチック車の場合は、運転席ドアまたは助手席ドアを開くとシフトポジションが **P** になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

**!** オートマチック車はけん引始動しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

けん引を行なうときは、関連する国の法規制に従ってください。

できるだけけん引は避け、車両を運搬してください。

事故または故障のために車両が走行できなくなった場合は、以下のいずれかを行なってください。

- 車両を運搬します。  
原則として車両を運搬してください。
- けん引ロープまたはけん引バーで車両をけん引します。  
例外的な場合にのみ車両をけん引してください。

車両をけん引するときは、オートマチックトランスミッションがポジション **N** になければなりません。

バッテリーが接続されていて、充電されていなければなりません。さもないと、以下ようになります。

- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすことができない
- 電気式パーキングブレーキを解除できない
- トランスミッションをポジション **N** に動かすことができない

**i** 電気式パーキングブレーキおよびパーキングロックの機能は、バッテリー電圧の影響を受けます。

バッテリーの電圧が低い、またはシステムが故障している場合：

- 解除されているパーキングブレーキを効かせることができない、または
- トランスミッションをポジション **P** にシフトすることができない

**i** ラジオなどの必要としない電気装備を停止します。

**i** 車両をけん引する前に、車速感応ドアロックを解除してください (▶ 174 ページ)。さもないと、車両を押したり、けん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

## けん引フックの取り付け/取り外し

## けん引フックの取り付け



例：けん引フック取り付け部のカバー

- ▶ けん引フックを収納スペースから取り出します。

けん引フックは、ラゲッジルーム下の車載ツールにあります (▶ 251 ページ)。

タイヤフィットキット装備車両：けん引フックは、電動エアポンプの下にあります。

- ▶ カバー ① のマークを矢印の方向 (内側) に押します。
- ▶ カバー ① を開口部から取り外します。
- ▶ 停止するまで、けん引フックを時計回りに締めます。

## けん引フックの取り外し

- ▶ けん引フックをゆるめて取り外します。
- ▶ カバー ① をバンパーに取り付け、固定されるまで押します。

- ▶ けん引フックをラゲッジルームフロア下の収納スペース (▶ 251 ページ) に収納します。
- ▶ タイヤフィットキット装備車両：電動エアポンプを元の位置に戻します。

## フロントアクスルをつり上げての車両のけん引

リアアクスルを上げて車両をけん引するときは、安全指示に従うことが重要です (▶ 265 ページ)。

**4MATIC 非装備車両のみ、前輪を上げてけん引することができます。**

**!** 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

4MATIC 装備車両は、両アクスルを地面に接地させてけん引するか、積載して運搬してください。

**!** フロントアクスルをつり上げてけん引を行なうときは、必ずイグニッションをオフにしてください。ESP®の介入によりブレーキが損傷するおそれがあります。

- ▶ **キーレスゴーまたはキーレスゴースタート機能装備車両**：キーレスゴー装備車両では、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用しなければなりません (▶ 131 ページ)。
- ▶ 車両が停止していることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏んで、そのまま保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 車速感応ドアロックを解除します (▷ 174 ページ)。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▷ 108 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわし、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▷ 108 ページ)。

**i** 非常点滅灯を作動させてけん引されているときに進路変更の合図をするためには、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。このときは、希望の方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、再び非常点滅灯が点滅し始めます。

### 両アクスルを接地させての車両のけん引

車両をけん引するときは、安全に関する以下の指示に従うことが重要です。(▷ 265 ページ)

- ▶ **キーレスゴーまたはキーレスゴースタート機能装備車両**：キーレスゴー装備車両では、キーレスゴースwitchの代わりにキーを使用しなければなりません (▷ 131 ページ)。

運転席または助手席ドアを開いたとき、またはエンジンスイッチからキーを取り外したときは、オートマチックトランスミッションは自動的にポジション **P** にシフトします。車両をけん引するときに、オートマチックトランスミッションをポジション **N** のままにするためには、以下の点に従わなければなりません。

- ▶ 車両が停止していることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置のままにします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。

### 車両の運搬

**!** 車両を固定するときは、アクスルやステアリング構成部品などにかげずに、ホイールにのみかけてください。車体を損傷するおそれがあります。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 129 ページ)。
- ▶ トランスミッションをポジション **N** にシフトします。

**車両を積載したら、ただちに以下のことを行なってください。**

- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせ、車両が動きださないようにします。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、抜きます。
- ▶ 車両を固定します。

運搬のため車両をトレーラーまたは運搬車に引き上げるためにけん引フックを使用することができます。

### 4MATIC 車両に関する注意事項

**!** 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しない

でください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

4MATIC 装備車両は、両アクスルを接地してけん引するか、または積載して運搬するかのみになります。

車両のトランスミッションが損傷したり、フロントまたはリアアクスルが損傷している場合は、トランスポーターまたはトレーラーで運搬してください。

#### 電気システムが損傷しているとき：

バッテリーに不具合がある場合は、オートマチックトランスミッションはポジション **P** でロックされます。オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトするためには、ジャンプスタート時と同じ方法で、車両の電気システムに電力を供給しなければなりません (▷ 262 ページ)。

トランスポーターまたはトレーラーで車両を運搬してください。

#### けん引始動 (エンジンエマージェンシースタート)

**!** オートマチック車はけん引始動しないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

**i** "ジャンプスタート" についての情報は、(▷ 262 ページ) にあります。

## ヒューズ

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

切れたヒューズを使用したり、ブリッジしたり、またはより高いアンペア数のヒューズと交換すると、ケーブルに過負荷がかかります。火災の原因になります。事故やけがの危険性があります。

切れたヒューズは、必ず正しいアンペア数の指定された新品のヒューズと交換してください。

切れたヒューズは、色とヒューズの定格を確認したうえで、同じ定格のヒューズと交換しなければなりません。ヒューズの定格は、ヒューズ配置表に記載されています。

新しく差し込んだヒューズが切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場原因究明および修理を行なってください。

**!** ヒューズは必ず、メルセデス・ベンツ車両に適合し、関連するシステムへの正しい電流値を満たしたもののみを使用してください。"S" のマークが付いているヒューズのみ使用してください。さもないと、構成部品またはシステムを損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れた場合は、回路上のすべての構成部品とそれらの機能が作動しなくなります。

切れたヒューズは、色とヒューズの定格を確認したうえで、同じ定格のヒューズと交換しなければなりません。ヒューズの定格は、ヒューズ配置表に記載されています。

新しく差し込んだヒューズが切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場原因究明および修理を行なってください。

#### ヒューズを交換する前に

- ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▷ 141 ページ)。
- ▶ すべての電気装備を停止します。

- ▶ **キーレスゴー非装備車両**：エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車両**：運転席ドアを開きます。  
車両の電気装備が **0** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- 進行方向左側のエンジンルーム内ヒューズボックス
- 助手席足元のヒューズボックス

ヒューズ配置表は助手席足元のヒューズボックス (▶ 270 ページ) にあります。



- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を取り除きます。
- ▶ **開く**： クランプ ② を開きます。
- ▶ カバー ① を矢印の方向に持ち上げて取り外します。

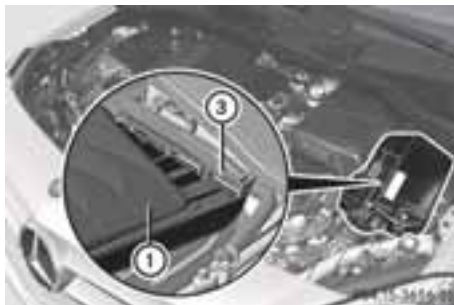
### エンジンルーム内のヒューズボックス

#### ⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンクージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

**!** カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

**!** カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- ▶ **閉じる**： シール部がカバー ① の正しい位置にあることを確認します。
- ▶ カバー ① をヒューズボックスの後方側の開口部 ③ に差し込みます。
- ▶ カバー ① を下げます。
- ▶ ヒューズボックスにクランプ ② を掛けて閉じます。
- ▶ ボンネットを閉じてください。

### 助手席足元のヒューズボックス

**!** カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

**!** カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- ▶ **開く**：助手席ドアを開きます。
- ▶ フロアマットを取り外します。
- ▶ 折り目のあるフロアカバー①を矢印の方向に起こします。



- ▶ カバー③を外すためには、固定クランプ②を押します。
- ▶ カバー③をキャッチへ、矢印の方向に倒します。
- ▶ カバー③を前方に取り外します。
- i** ヒューズ配置表④はカバー③の右下側にあります。
- ▶ **閉じる**：カバー③をヒューズボックス左側の固定部に差し込みます。カバー③を固定部に固定します。

- ▶ クランプ②が固定する音が聞こえるまで、カバー③を下方に倒します。
- ▶ 折り目のあるフロアカバー①を後方に倒します。
- ▶ フロアマットを敷きます。

役に立つ情報 .....	274
重要な安全上の注意事項 .....	274
操作 .....	275
寒冷時の取り扱い .....	277
タイヤ空気圧 .....	277
車輪の交換 .....	280
ホイールとタイヤの組み合わせ ...	285
応急用スペアタイヤ .....	290

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 26 ページ)

## 重要な安全上の注意事項

## ⚠ 警告

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品の仕様に適合するホイールやタイヤと必ず交換してください。

ホイールを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- タイプ

タイヤを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- メーカー
- タイプ

## ⚠ 警告

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換

するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラット特性を持つタイヤ：

- MOExtended タイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツにより車両への使用が認められていないアクセサリを装着したり、アクセサリが正しく使用されていないと、操縦安定性を損なうことがあります。

承認されていないアクセサリを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場以下についてご確認ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

車両のホイールとタイヤのサイズおよび種類に関する情報は"ホイール／タイヤの組み合わせ"(▷ 285 ページ)に記載されています。

タイヤ空気圧に関する詳細は以下をご覧ください。

- 燃料給油口フラップにあるタイヤ空気圧ラベル (▷ 140 ページ)
- "タイヤ空気圧" (▷ 277 ページ)

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。ホイールスペーサーまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。これらは車両の一般使用許可を無効にします。

**i** タイヤとホイールについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

## 操作

## 走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、走行前に調整してください。

走行中は、振動、騒音、および片方に引かれるなどの普段とは異なるハンドリング特性に注意してください。これは、タイヤやホイールが損傷していることを示していることがあります。タイヤの不具合が疑われる場合は、ただちに速度を落としてください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールの損傷を点検してください。目に見えないタイヤの損傷も、普段とは異なるハンドリング特性の原因になるおそれがあります。損傷が何も認められない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのホイールとタイヤの点検を受けてください。

車両を駐車するときは、タイヤが縁石や障害物により変形していないことを確認してください。また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。さもないと、タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

## ホイールとタイヤの定期点検

## ⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

ホイールとタイヤの定期点検は、少なくとも月に1度、またオフロードや凹凸路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないかを確認してください。損傷したホイールは、タイヤ空気圧低下の原因になるおそれがあります。特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの裂け目
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤ残り溝の深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください(▶ 276 ページ)。必要な場合は、タイヤ表面の内側を点検するために、前輪をフルロックまでまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するために、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要に応じて、タイヤ空気圧を調整してください(▶ 277 ページ)。

応急用スペアタイヤに関する注意事項に従ってください(▶ 290 ページ)。

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 運転スタイル
- タイヤ空気圧
- 総走行距離

## トレッド面の注意事項

### ⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。このようなタイヤは水を排出することができなくなり、濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

## タイヤの選択、装着および交換

### ⚠ 警告

記載されているタイヤ耐荷重性能および承認されている最高速度を超過すると、タイヤが損傷したり、タイヤが破裂したりするおそれがあります。事故の危険性があります。

このため、車両モデルに使用が承認されているタイヤのタイプとサイズのみを使用してください。車両に必要なタイヤ荷重指数と速度記号を確認してください。

タイヤの認証に関する国の要件に注意してください。これらの要件には特定のタイヤのタイプを車両に使用するように定められていることがあります。さらに、特定の地域およびエリア内の運転のために特定のタイヤ種類の使用は、非常に有益になることがあります。タイヤに関するさらなる情報は、専門のタイヤ業者また

はメルセデス・ベンツ指定サービス工場にあります。

- 同じ種類で同じ銘柄のタイヤおよびホイールのみを装着してください。

例外：パンクした場合は、異なる種類や銘柄の装着が認められています。"MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)" の項目に注意してください (▶ 252 ページ)。

- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新しいタイヤでは、最初の 100 km は控えめな速度で走行してください。この距離の後でのみ、最高の性能に達します。
- トレッドの深さがほとんどないタイヤで走行しないでください。さもないと、濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します (ハイドロプレーニング現象)。
- 摩耗の程度にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは交換してください。

応急用スペアタイヤに関する注意事項に従ってください (▶ 290 ページ)。

## MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)

MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ) により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システム、およびメルセデス・ベンツにより特別にテストされたホイールとの組み合わせでのみ使用することができます。

パンクした MOExtended タイヤで走行するときの注意事項 (▶ 252 ページ)

MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフ

ラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

### 寒冷時の取り扱い

#### 全体的な注意事項

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

#### サマータイヤでの走行

+7℃以下の温度では、サマータイヤは弾力性を失い、接地性と制動力が低下します。車両のタイヤを、M+S タイヤに交換してください。非常に低い温度でのサマータイヤの使用は、亀裂が発生し、復元不可能なタイヤの損傷の原因になるおそれがあります。このようなタイヤの損傷は、保証の対象外になります。

#### ⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

#### M+S タイヤ

#### ⚠ 警告

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、冬季用のタイヤとして不適切になり、十分な接地性を確保できなくなります。事故につながるおそれがあります。

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

#### スノーチェーン

#### ⚠ 警告

スノーチェーンを後輪に装着すると、それらが車体またはシャーシの部品を損傷するおそれがあります。これにより、車両またはタイヤが損傷するおそれがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- スノーチェーンを後輪に装着しないでください。
- スノーチェーンはペアで前輪にのみ装着してください。

さらなる情報は、デジタル版取扱説明書にあります。

### タイヤ空気圧

#### タイヤ空気圧基準値

#### ⚠ 警告

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。

事故を起こすおそれがあります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下のときにはスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間に 1 回
- 荷重が変化したとき

- ・長距離走行を開始する前
- ・オフロード走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

### ⚠ 警告

適切でないアクセサリをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

### ⚠ 警告

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- ・タイヤに異物がないか点検します。
- ・ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

### 🕒 環境保護に関する注意

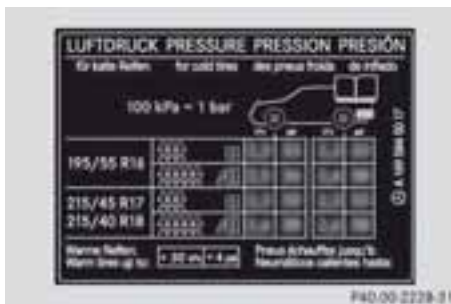
少なくとも2週間に1度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

車両の燃料給油口フラップ内側のタイヤ空気圧ラベルには、さまざまな使用条件でのタイヤ空気圧の表があります(▶ 140 ページ)。

**応急用スペアタイヤを使用する場合**  
(▶ 290 ページ)。

タイヤ空気圧の表には、異なる積載状態でのタイヤ空気圧も記載されています。この表には、さまざまな乗員数および積載量のもの指定されています。実際の座席数と異なることがあります。さらなる情報は、車両の登録書類を確認してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧情報ラベルに記載されているタイヤ空気圧は、車両用に承認されているすべてのタイヤに適用されます。



タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみ有効となります。タイヤ空気圧を点検するためには、適切な空気圧ゲージを使用してください。タイヤの外観を点検しても空気圧を正しく判断することはできません。

可能であれば、タイヤが冷えているときにのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

以下では、タイヤは冷えています。

- ・タイヤに直射日光が当たらない状態で、最低3時間車両を駐車した場合、および
- ・車両が1.6 km以上走行していない場合

外気温度、走行速度およびタイヤの荷重によって、タイヤの温度およびタイヤ空気圧は10℃ごとに約10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) ずつ変化します。温まっているタイヤの空気圧を点検すると

きは、このことを考慮に入れてください。そのときの使用条件に対して非常に低い場合にのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

著しく高い、または著しく低いタイヤ空気圧で走行すると以下ようになります。

- タイヤ寿命が短くなります
- タイヤの損傷が増える原因になります
- ハンドリング特性および走行安全性へ悪影響を与えます（ハイドロプレーニング現象など）

低負荷用のタイヤ空気圧値は、快適な乗り心地を得ることができる最低限度の値です。

ただし、高負荷用の数値を使用することもできます。これらは許容値であり、車両の走行に悪影響を与えることはありません。

## タイヤ空気圧警告システム

### 全体的な注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、車両が動いている間に、車輪の回転速度を使用して設定されているタイヤ空気圧をモニターします。これにより、システムはタイヤ空気圧の著しい低下を検知することができます。タイヤ空気圧の低下にともなう車輪の回転速度が変化した場合は、マルチファンクションディスプレイに対応する警告メッセージが表示されます。マルチファンクションディスプレイの **メタ** メニューに表示される **タイヤ空気圧警告システムオン OK ボタン** で再始動というメッセージで、タイヤ空気圧警告を認識することができます。このメッセージの表示に関するさらなる情報は、「タイヤ空気圧警告システムの再起動」にあります(▷ 279 ページ)。

### 重要な安全上の注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、適切でないタイヤ空気圧の設定には警告は行いません。推奨タイヤ空気圧に関する注意に従ってください(▷ 277 ページ)。

タイヤ空気圧警告は、定期的なタイヤ空気圧点検の必要性に代わるものではありません。同時に複数のタイヤで均等に空気圧が低下した場合、タイヤ空気圧警告システムでは検知されません。

タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤに異物が刺さった場合などの急激な空気圧の低下には、警告を行なうことができません。空気圧が突然低下した場合は、ブレーキを慎重に効かせて車両を停止させます。急激なステアリング操作は避けてください。

以下では、タイヤ空気圧警告システムの機能が制限されたり、遅れることがあります。

- 車両のタイヤにスノーチェーンを装着している。
- 冬季の道路状況。
- 砂地や砂利道を走行している。
- 非常にスポーティな運転スタイル（高速コーナリング、急加速など）で走行している。
- 重い荷物を積載して走行している（車内、またはルーフ上に）。






### タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下の場合には、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。





- タイヤ空気圧を変更した
- ホイールまたはタイヤを変更した
- 新しいホイールまたはタイヤを装着した
- ▶ 再起動の前に、4本すべてのタイヤで、タイヤ空気圧が使用条件に応じて適正に設定されていることを確認してくだ

さい。推奨タイヤ空気圧は、燃料給油口フラップのタイヤ空気圧表に記載されています。





タイヤ空気圧警告システムは、適切なタイヤ空気圧に設定してある場合にのみ、信頼性のある警告を行なうことができます。適切でないタイヤ空気圧に設定されている場合は、これらの適切でない数値がモニターされます。

- ▶ タイヤ空気圧のセクションに記載されている注意事項を守ってください (▶ 277 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します (▶ 129 ページ)。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メンテナンス**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**タイヤ空気圧**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。マルチファンクションディスプレイに**ランフラットインジケーター作動 OK で再起動**というメッセージが表示されます。

#### 再起動を確定したい場合：

- ▶  スイッチを押します。マルチファンクションディスプレイに**タイヤ空気圧 正常ですか？**というメッセージが表示されます。
- ▶  または  スイッチを押して、**はい**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。マルチファンクションディスプレイに**ランフラットインジケーター再起動**というメッセージが表示されます。読み込み時間後に、4 輪すべてのタイヤに設定されたタイヤ空気圧のモニターを行ないます。

#### 再起動をキャンセルしたい場合：

- ▶  スイッチを押します。または
- ▶ マルチファンクションディスプレイに**タイヤ空気圧 正常ですか？**というメッセージが表示された場合、 または  スイッチを押して**キャンセル**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧値が引き続きモニターされます。

## 車輪の交換

### パンク

タイヤがパンクしたときの対処方法に関する情報は、“万一のとき”(▶ 252 ページ)のセクションに記載されています。タイヤがパンクしたときに MOExtended タイヤで走行する際の情報は、“万一のとき”のセクションをご覧ください (▶ 252 ページ)。

**応急用スペアタイヤ装備車両：** タイヤがパンクした場合は、“タイヤの取り付け”(▶ 281 ページ) の記載に従って応急用スペアタイヤを装着してください。

## 車輪の入れ替え

### 警告

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。事故の危険性があります。ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントとリアの車輪を入れ替えると、一般使用許可が無効になることがあります。

"タイヤの交換"の項目にある説明および安全上の注意事項に従ってください(▶ 280 ページ)。

タイヤは、走行状況によって前輪と後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起こします。タイヤに明らかな摩耗具合が形成される前に、車輪を入れ替えてください。一般的に、フロントタイヤではショルダー部分が、リアタイヤではセンター部がより摩耗します。

前後同じサイズの車輪を持つ車両では、タイヤの摩耗具合に応じて 5,000 ~ 10,000 km ごとに車輪を入れ替えることができます。回転方向が維持されていることを確認します。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールの接触面とブレーキディスクを十分に清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要に応じてタイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

### 回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。このような利点は回転方向に対応してタイヤが装着されている場合に得ることができます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

### 車輪の保管

使用していないタイヤは、涼しくて乾燥している、なるべく暗い場所に保管してください。タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

## 車輪の取り付け

### 車両の準備

- ▶ 固くて滑らない水平な地面に車両を停車します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。
- ▶ 前輪を直進位置にします。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ **キーレスゴー非装備車両**：エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車両**：運転席ドアを開きます。車両の電気装備が **O** の状態になります。これにより、キーを抜いたときと同様になります。
- ▶ **キーレスゴースタート機能またはキーレスゴー装備車両**：イグニッションロックからキーレスゴースイッチを取り外します(▶ 129 ページ)。
- ▶ 車両装備に含まれている場合は、車両からタイヤ交換工具キットを取り出します。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください(▶ 141 ページ)。

**i** 国ごとの仕様違いを除き、通常車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。車輪交換用工具の中には、その車両専用のものがあります。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

必要なタイヤ交換工具には、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

## 動き出さないように車両を固定する



車両に輪止めが装備されている場合は、タイヤ交換工具キットの中にあります。  
(▷ 251 ページ)

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車両が動き出すことを防止するための補助的な固定手段です。

- ▶ 両側のプレート①を上方に起こします。
- ▶ 下側のプレート②を引き出します。
- ▶ 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部③に差し込みます。



水平な場所で車両を固定する

- ▶ **水平な場所で**：交換したい車輪の対角線上にある車輪の前後に、輪止めまたは適切な他の物を置きます。



緩い下り坂で車両を固定する

- ▶ **緩い下り坂勾配で**：フロントおよびリアアクスルの車輪の前に、輪止めまたは適切な他の物を置きます。

## 車両を上げる

## ⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

車両を上げるときは以下に従ってください。

- 車両を上げるときは、メルセデス・ベントツによりテストされ、承認された車両専用のジャッキのみを使用してください。ジャッキが正しく使用されていない場合は、車両を上げている間に倒れるおそれがあります。
- ジャッキは、車輪交換の間に短時間だけ車両を上げたままにするためだけに設計されています。車両下部のメンテナンス作業を行なうためには適していません。
- 上り坂や下り坂の斜面での車輪交換は避けてください。

- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせて輪止めをし、車両が動き出さないように固定してください。車両を上げている間は、パーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、固く平坦で滑らない地面の上に置いてください。やわらかい地面の上では、大型で平坦な耐荷重マットを使用してください。滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下敷きとして、木製のブロックや類似の物を使用しないでください。さもないと、高さが制限されることにより、ジャッキが耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との間の距離が3cmを超えていないことを確認してください。
- 上げた車両の下には、絶対に手または足を入れないでください。
- 車両の下で横にならないでください。
- 車両を上げているときは、エンジンを始動しないでください。
- 車両を上げているときは、ドアまたはテールゲートを開閉しないでください。
- 車両を上げているときは、車内に人がいないことを確認してください。

**スチールホイール装備車両：**ホイールボルトはハブキャップに覆われています。ホイールボルトを緩める前に、ハブキャップを取り外さなければなりません。



ホイールトリム付きスチールホイール

- ▶ 両手を使用して、ホイールトリムの2箇所の開口部に注意して手を入れ、ホイールトリムを取り外します。



- ▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換する車輪のホイールボルトを約1回転緩めます。ボルトは完全に緩めないでください。

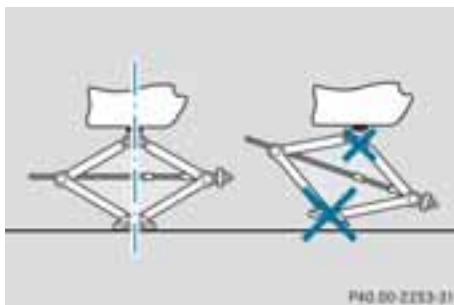


ジャッキポイント

ジャッキポイントは、フロントのホイールアーチのすぐ後ろと、リアのホイールアーチのすぐ前にあります（矢印部分）。



- ▶ 車載工具からラチェットレンチ④を取り出して、**AUF**の文字が見えるようにジャッキ③の六角ナットに取り付けます。
- ▶ ジャッキ③をジャッキポイント②に合わせます。



- ▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下に位置していることを確認してください。
- ▶ ジャッキ③がジャッキポイント②に完全にはまり、ジャッキの底面が地面に均一に接地するまでラチェットレンチ④をまわします。
- ▶ タイヤが地面から最大3 cm 持ち上がるまで、ラチェットレンチ④をまわします。

## 車輪の取り外し

❗ 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込

む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

- ▶ ホイールボルトを緩めます。
- ▶ 車輪を取り外します。

## 新しい車輪の取り付け

### ⚠ 警告

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。それ以上は走行を続けしないでください。

### ⚠ 警告

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"車輪の交換"にある指示や安全上の注意事項に従ってください(▶ 280 ページ)。

ホイールおよび車両用に設計されたホイールボルトのみを使用してください。安全上の理由のため、メルセデス・ベンツ車およびそれぞれのホイールのために承認されたホイールボルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。



- ▶ ホイールおよびホイールハブの接合面を清掃します。
- ▶ 新しいタイヤをホイールハブに取り付け、押し込みます。
- ▶ 指の力で締まるまで、ホイールボルトを締めます。
- ▶ 示されている対角パターンの順番 (①～⑤) で、ホイールボルトを均一に締め付けます。規定の締め付けトルクは **130 Nm** です。
- ▶ ジャッキをまわして元の状態に戻します。
- ▶ ジャッキとその他の車載ツールを車両に再び収納します。

## 車両を下げる

### ⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。

- ▶ **AB** の文字が見えるように、ジャッキの六角ナットにラチェットレンチを取り付けます。
- ▶ 車両が再度しっかりと接地するまでラチェットレンチをまわします。
- ▶ ジャッキを横に置きます。

- ▶ 新しく取り付けしたタイヤの空気圧を点検し、それに応じて調整します。  
推奨タイヤ空気圧に従ってください (▶ 277 ページ)。

応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムが正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときにのみ、タイヤ空気圧モニタリングシステムを再起動してください。

## ホイールとタイヤの組み合わせ

### 全体的な注意事項

- ❗ 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABS や ESP® などのコントロールシステムに適應しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended(ランフラット特性を持つタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original(特定の AMG タイヤ)

ランフラット特性を持つタイヤ(MOExtended)は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

**!** 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

**!** 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越える際にホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

以下のタイヤ表で使用されている略語の概要

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油口フラップの内側にあります。タイヤ空気圧に関するの詳細は(▷ 277 ページ)をご覧ください。タイヤ空気圧は定期的に、タイヤが冷えているときのみ点検してください。車両装備に関する注意事項 - 車両には常に以下のように装着してください。

- アクスル(左/右)に応じて決められた同じサイズのタイヤ
- 異なる種類のタイヤ(サマータイヤ、ウィンタータイヤ、MOExtended タイヤ)を同時に装着しないでください。例外：パンクした場合は、異なる種類や銘柄の装着が認められています。"MOExtended タイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)"(▷ 252 ページ)の項目に従ってください。

MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

**i** すべてのホイール/タイヤの組み合わせが、すべての国で工場出荷時に装着されているわけではありません。

## タイヤ

## B 180

## サマータイヤ

## R 15

タイヤ	ホイール
BA : 195/65 R15 91 T <sup>6</sup>	BA : 6.5 J x 15 H2 ET 47

## R 16

タイヤ	ホイール
BA : 205/55 R16 91 H	BA : 6.5 J x 16 H2 ET 49
BA : 205/55 R16 91 W <sup>7</sup>	BA : 6.5 J x 16 H2 ET 49

## R 17


タイヤ	ホイール
BA : 225/45 R17 91 V <sup>8</sup>	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 52.5
BA : 225/45 R17 91 W <sup>7,8</sup>	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 52.5

## R 18

タイヤ	ホイール
BA : 225/40 R18 92 Y XL <sup>8,9</sup>	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 52
BA : 225/40 R18 92 W XL <sup>7,8,9</sup>	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 52

## ウィンタータイヤ

## R 15

タイヤ	ホイール
BA : 195/65 R15 91 T M+S  <sup>6</sup>	BA : 6.5 J x 15 H2 ET 47

6 スポーツパッケージ（コード 952）との組み合わせを除く。

7 MOExtended タイヤとして入手可能。


8 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。

9 "ホイール/タイヤの組み合わせ"の"大径ホイール"の注意事項に従ってください。


## R 16

タイヤ	ホイール
BA : 205/55 R16 91 H M+S  7	BA : 6.5 J x 16 H2 ET 49

## R 17

タイヤ	ホイール
BA : 205/50 R17 93 H XL M+S  7	BA : 6.5 J x 17 H2 ET 49

## R 18

タイヤ	ホイール
BA : 225/40 R18 92 H XL M+S  8,9	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 52

## B 250

## サマータイヤ

## R 17

タイヤ	ホイール
BA : 225/45 R17 91 V <sup>8</sup>	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 52.5
BA : 225/45 R17 91 W <sup>7,8</sup>	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 52.5

## R 18

タイヤ	ホイール
BA : 225/40 R18 92 Y XL <sup>8,9</sup>	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 52
BA : 225/40 R18 92 W XL <sup>7,8,9</sup>	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 52

## ウィンタータイヤ

## R 17


タイヤ	ホイール
BA : 205/50 R17 93 H XL M+S  7	BA : 6.5 J x 17 H2 ET 49

7 MOExtended タイヤとして入手可能。

8 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。

9 "ホイール/タイヤの組み合わせ"の"大径ホイール"の注意事項に従ってください。

## R 18

タイヤ	ホイール
BA : 225/40 R18 92 H XL M+S  8, 9	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 52

## B 250 4MATIC

## サマータイヤ

## R 17


タイヤ	ホイール
BA : 225/45 R17 91 V <sup>8</sup>	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 52.5
BA : 225/45 R17 91 W <sup>7, 8</sup>	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 52.5

## R 18


タイヤ	ホイール
BA : 225/40 R18 92 Y XL <sup>8, 9</sup>	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 52
BA : 225/40 R18 92 W XL <sup>7, 8, 9</sup>	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 52

## ウィンタータイヤ

## R 17

タイヤ	ホイール
BA : 205/50 R17 93 H XL M+S  7	BA : 6.5 J x 17 H2 ET 49

## R 18

タイヤ	ホイール
BA : 225/40 R18 92 H XL M+S  8, 9	BA : 7.5 J x 18 H2 ET 52

8 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。

9 "ホイール/タイヤの組み合わせ"の"大径ホイール"の注意事項に従ってください。

7 MOExtended タイヤとして入手可能。

## 応急用スペアタイヤ

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ/応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 適宜運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを1つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください
- ESP® をオフにしないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイールとタイヤのサイズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

応急用スペアタイヤ、またはサイズの異なるスペアタイヤを使用するときは、80 km/h の最高速度を超えないようにしてください。

応急用スペアタイヤには、スノーチェーンを装着しないでください。

### 全体的な注意事項

国による仕様の違いとは別に、車両には応急用スペアタイヤは装備されていません。応急用スペアタイヤは、車両専用のもので、車両に承認された応急用スペアタイヤに関する詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

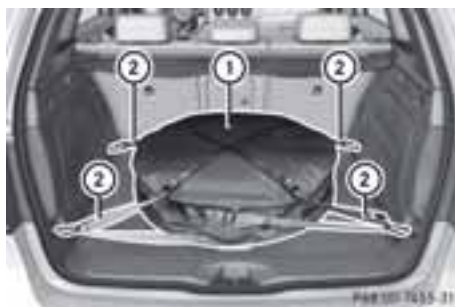
特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて空気圧を調整してください(▶ 277 ページ)。ホイールにある数値を使用してください。さらに、応急用スペアタイヤのタイヤ空気圧は"サービスデータ"にあります(▶ 292 ページ)。

応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することもできます。使用制限時間および、応急用スペアタイヤに記載されている制限速度を守って使用してください。

摩耗の程度にかかわらず、6年以上経過したタイヤは交換してください。これは応急用スペアタイヤにも該当します。

応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムが正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

### 応急用スペアタイヤの取り外し



例："ミニスペア"応急用スペアタイヤ装備車両  
"ミニスペア"応急用スペアタイヤは応急用スペアタイヤのバッグ①に収納され、ラゲッジルームに固定されています。

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバッグ①の固定用ストラップ②を外します。

- ▶ 応急用スペアタイヤのバッグ ① を"ミニスペア"応急用スペアタイヤごと取り外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバッグ①を開き、"ミニスペア"応急用スペアタイヤを取り出します。

"タイヤの交換"の項目にある説明および安全上の注意事項に従ってください (▶ 281 ページ)。

## サービスデータ

## 全モデル

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ

タイヤ

ホイール

T 125/80 R17 99 M

3.5 B x 17 H2 ET 19.5

タイヤ空気圧：420 kPa (4.2 bar/61 psi)

役に立つ情報 .....	294
車両の電子制御部品 .....	294
ビークルプレート .....	294
サービスプロダクトと容量 .....	295
車両データ .....	300

## 役に立つ情報

**i** この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

**i** メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▶ 26 ページ)

## 車両の電子制御部品

## エンジン電子制御部品の不正改造

**!** コントロールユニット、センサー、作動構成部品、コネクタケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

## 無線機 (RF 送信機) の後付け

RF 送信機の装着についてわからないことがある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

## ビークルプレート

## 車台番号 (VIN) のあるビークルプレート



例：右ハンドル車両

- ▶ 運転席ドアを開きます。  
ビークルプレート ① が確認できます。



② 車台番号

**i** 車両のビークルプレートに示されたデータは、データの一例です。このデータは車両ごとに異なりますので、ここに示されたデータとは異なることがあります。お客様の車両に該当するデータは、車両のビークルプレートに記載されています。

## 車台番号 (VIN)



- ▶ 右側フロントシートを最も後方の位置までスライドさせます。
- ▶ フロアカバー ① をめくりあげます。車台番号 ② が確認できます。

車台番号はビークルプレートでも確認できます (▷ 294 ページ)。

一部の国でのみ、車台番号 はフロントウインドウ下端部でも確認できます。

## エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

## サービスプロダクトと容量

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

サービスプロダクトは健康に有害で危険です。けがの危険性があります。

サービスプロダクトの使用、保管および廃棄については、それぞれ元の容器のラベルの指示を遵守してください。サービスプロダクトは必ず元の容器に密閉して保管してください。サービスプロダクトは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

#### 🌿 環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤 (エンジンオイル、トランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウインドウウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

メルセデス・ベンツにより承認されたサービスプロダクトは、容器の以下のマークにより識別できます。

- MB-Freigabe ( MB-Freigabe 229.51 など)
- MB Approval ( MB Approval 229.51 など)

他のマークや推奨は、MB シート番号 (MB229.5 など) に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらはメルセデス・ベンツによって承認されているとは限りません。

その他の識別コード (例) :

- 0 W-30
- 5 W-30
- 5 W-40

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

## 燃料

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

### ⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹼および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

## 燃料タンク容量

モデル	全容量
4MATIC 装備モデル	56.0 L
他の全モデル	50.0 L

モデル	うち予備燃料
全モデル	約 6.0 L

## ガソリン

### 燃料のグレード

❗ ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、エンジンスイッチをオンにしないでください。さ

もないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。たとえ少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料システムから完全に抜き取ってください。

❗ 96 RON 以上の無鉛ガソリンのみを使用して給油してください。

❗ 必ず指定の燃料を使用してください。その他の燃料で車両を操作すると、エンジンの不具合の原因になります。

❗ 以下の燃料を使用しないでください。

- 89 RON の無鉛レギュラーガソリン
- E 85 (エタノール 85%のガソリン)
- E 100 (エタノール 100%)
- M 15 (メタノール 15%のガソリン)
- M 30 (メタノール 30%のガソリン)
- M 85 (メタノール 85%のガソリン)
- M 100 (メタノール 100%)
- 金属含有添加物を配合したガソリン
- 軽油

お客様の車両に推奨されている燃料とこのような燃料を、決して混合しないでください。添加剤を使用しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。ただし、スラッジの生成を抑制・除去する効果のある添加剤を除きます。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより推奨された添加剤のみを混合してください。"添加剤"をご覧ください。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場です。入手できます。

燃料ぼグレードに関する情報は通常、給油ポンプに表示されています。給油ポンプにラベルがない場合は、ガソリンスタンドのスタッフにおたずねください。

❗ E10 燃料には最大 10%のバイオエタノールが含まれています。お客様の車両は、E10 燃料の使用に適しています。

E10 燃料をお客様の車両に給油することができます。

**B 250、B 250 4MATIC：**推奨燃料が入手できない場合は、一時的な措置としてオクタン価が 93 RON の無鉛レギュラーガソリンを使用することができます。

**他の全モデル：**推奨燃料が入手できない場合は、一時的な措置としてオクタン価が 91 RON の無鉛レギュラーガソリンを使用することができます。このような燃料を使用した場合は、エンジン性能が低下したり、燃料消費が増加したりすることがあります。フルスロットルでの走行および急加速は避けてください。91RON 以下の燃料を給油しないでください。

給油についての情報 (▷ 139 ページ)。

## 添加剤

■ 燃料添加剤を後で加えてエンジンを作動させると、エンジン故障につながるおそれがあります。燃料に燃料添加剤を混ぜないでください。これには、生成堆積物除去および防止のための添加剤は含まれません。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより承認された添加物のみを混合してください。製品の容器に記載の使用上の注意をお守りください。推奨添加剤に関するさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

メルセデス・ベンツは、添加剤を含有している燃料ブランドの使用を推奨します。一部の国で入手できる燃料の品質は、十分でないことがあります。結果として、残留物が噴射システムに堆積するおそれがあります。その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談のうえ、メルセデス・ベンツにより推奨された洗浄添加剤をガソリンに混合してください。容器にある注意事項および規定の配合率が常に従ってください。

## 燃料消費の情報

### 🕒 環境に関する注意

CO<sub>2</sub> (二酸化炭素) の排出は、地球温暖化の主な原因となります。車両の CO<sub>2</sub> 排出量は、燃料消費と直接関係があり、以下の条件によって変化します。

- エンジンの燃焼効率
- 走行スタイル
- 環境の影響や道路状況、交通の流れのような、技術的ではない他の要因

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検整備を行なうことにより、CO<sub>2</sub> 排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料消費量が増加します。

- 非常に低い外気温で
- 市街地で
- 短距離の走行で
- 山間路で

## エンジンオイル

### 全体的な注意事項

エンジンオイルを取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください (▷ 295 ページ)。

エンジンオイルの品質は、エンジンの性能や使用寿命に大きな影響を与えます。広範囲にわたるテストの末、メルセデス・ベンツでは最新の技術基準に適合するエンジンオイルのみを承認しています。そのため、メルセデス・ベンツエンジンには、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。

テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場です。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。メルセデ

ス・ベンツの承認は、オイル容器の"MB Approval"の記載および MB Approval 229.51 などの対応する記号により示されています。

## 容量

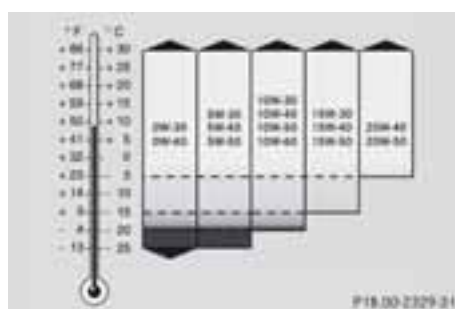
以下の数値は、オイルフィルターを含むオイル交換時のものです。

モデル	交換容量
B 180	5.8 L
B 250 B 250 4MATIC	5.6 L

## 添加剤

**!** エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

## エンジンオイルの粘度



粘度は、液体の流動特性を示します。エンジンオイルは粘度が高いほどゆっくりと流れ、粘度が低いほど速く流れます。

エンジンオイルの選択は、対応する外気温度を基準にして、SAE グレード（粘度）に応じたものにしてください。表では、使用すべき SAE グレードを示しています。低温の環境では、劣化や煤、燃料添加剤などにより使用時のエンジンオイルの特性が著しく損なわれます。そのため、適切な SAE グレードの承認され

たエンジンオイルを使用して、定期的にオイル交換を行なうことを強く推奨します。

## ブレーキ液

### 警告

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液の沸点を下げます。ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起これると、ブレーキの性能が損なわれます。事故の危険性があります。ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

(▷ 295 ページ)ブレーキ液を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意に従ってください。

ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

承認されたブレーキ液についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場入手できます。

**i** ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に定期的に交換し、点検内容は整備手帳をご確認ください。

## 冷却水

### 重要な安全上の注意事項

### 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してくだ

さい。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

**!** 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

**!** たとえ高温の地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

**i** 冷却水はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、交換を整備手帳で確認してください。

冷却水 (p. 295 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください。

冷却水は水と不凍液/防錆剤の混合液です。以下の役割があります。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点上昇

不凍液/防錆剤が適切な濃度の場合、作動中の冷却水の沸点は約 130 °C になります。

エンジン冷却システム内の不凍液/防錆剤の濃度：

- 50 % 以上にしてください。これにより、約 -37 °C までエンジン冷却システムを凍結から保護します。
- 55 % ( -45 °C までの凍結防止保護) を超えないようにしてください。さもないと、熱が効果的に発散されません。

**i** 車両の納車時には、適切な凍結防止および防錆保護を行なうことができる濃度の冷却水が充填されています。

**i** 冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備ごとに点検が行なわれます。

## ウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー

### 重要な安全上の注意事項

#### ⚠ 警告

ウインドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

**!** 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

**!** 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

ウォッシャー液を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意に従ってください (p. 295 ページ)。

気温が 0 °C 以上のとき：

▶ 水と夏用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

水の量 100 に対して夏用ウォッシャー液の量 1 を混合します。

気温が 0 °C 以下のとき：

▶ 水と冬用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

正しい混合値については、不凍液リザーブタンクの情報をご覧ください。

① 1年を通して、夏用または冬用ウォッシャー濃縮液をウォッシャー液に追加してください。

## 車両データ

### 全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点に注意してください。

- 記載されている車高は、以下に応じて異なります。
  - タイヤ
  - 積載量
  - サスペンションの状態
  - オプション装備
- オプション装備により最大積載量は減少します。

### ルーフとトランクの最大積載量

全モデル	
トランクの最大積載量	100 kg
ルーフの最大積載量	75 kg

### バッテリー

全モデル	
バッテリー電圧	12 V
バッテリー容量	70 Ah

### 寸法および重量



モデル	① 最大ヘッドルーム	② 開いたときの高さ
B 180	1873 mm	1980 mm
他の全モデル	1874 mm	1981 mm

## 発行物の詳細

### インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

<http://www.mercedes-benz.co.jp>

### 編集オフィス

©Daimler AG : Daimler AG の書面による許可なく、本書のすべてまたは一部を複写、翻訳または複製することはできません。

### 車両メーカー

Daimler AG  
Mercedesstrasse 137  
70327 Stuttgart  
ドイツ



2465843400

Order no. 65151749 20 Part no. 2465843400 Edition ÄJ 2014-Ma